

国際奉仕・世界社会奉仕 (WCS) 事業 ミャンマー教育支援プログラム

# 総括報告書



Rotary 岡崎城南ロータリークラブ

国際奉仕・世界社会奉仕 (WCS) 事業 ミャンマー教育支援プログラム

# 総括報告書



#### はじめに

クラブ創立 10 周年の 1999 年に始まった国際奉仕事業のミャンマー教育支援プログラムは 2017 ~2018 年度にひとまず終了しました。

20年間という長期に渡る事業を成しえたことはクラブ会員の理解と協力による賜物であります。また、継続するなかで新しい支援の方向性が示され、事業目的をはっきりさせることができたと考えます。

教育環境整備事業としての物的支援から奨学金制度による人材育成への転換。そして、現地運営による奨学会の設立をもってひと区切りとしました。

事業報告については、現地訪問年度ごとに例会での報告と、奨学金制度に方針転換された際に 一度総括されましたが、全期間を通して纏められていません。そこで、検証の意味も含め改めて総 括報告書として作成することを本年度当初に提案いたしました。

この事例は、国際奉仕活動のみならず、ロータリークラブによるすべての奉仕活動のモデルケースになるものと確信します。また、今後現地との交流をどのように位置付けするかを検討するうえで、この報告書をひとつの資料として活用していただければ幸いに存じます。

昨年来からのコロナウイルスによるパンデミックと今年2月に勃発した軍事クーデターによる政変が、交流の発展を図るのに大きな障害となっています。しかし、これまでに築き上げた支援活動の実績と、そこから生まれた現地の人たちとの絆が失われるものではありません。「ミャンマーKIBOH 奨学会」の名にあるとおり、希望を抱きいつか笑顔で再会できる日が来ることを信じています

最後に、本報告書作成にあたり精力的にご協力いただいた近藤正俊さん、岡田吉生さんに厚く 御礼を申し上げます。

岡崎城南ロータリークラブ 2020-2021 年度国際奉仕委員長

青山幸市

#### あいさつ 報告書発行に寄せて

懐かしい訪問記録や写真を仕舞い込んだ棚から出してみると、若かりし頃の仲間の姿があった。 凛々しい眉毛に豊富な頭髪、溌溂とした表情、別人とまでは行かないが、皆さん良い歳の重ねた かをしていると感慨に耽る。思えば随分とミャンマーに拘ってきたものだ。先達たちには、まだビル マという国名の方が馴染めるのかも知れない。ビルマの竪琴の映画(三国廉太郎主演…佐藤浩市 の父)を見た方も多くいることだろう。日本には東南アジアで親しみのある国であることに間違いな い。その国の経済・教育発展に寄与できたことを誇らしげに思う。

ミャンマー支援は、当クラブの看板事業であったことに疑う余地はない。そしてミャンマー教育支援プログラム終了を機に、奉仕から友好関係へと転換期を迎えている。現地に教育支援団体もでき積極的な活動も軌道に乗りつつある。毎年のミャンマー訪問報告で彼らの成長の軌跡を見ることが楽しみだった。そこは本報告書に譲るとして、会長在任中に本報告書を発刊できることに感慨一塩である。個人的にも医学生を受け持ち、どんな医療従事者になっているのか……逢ってみたいと思いを馳せる。

和やかな気持ちとは裏腹に、現地では、豊かな生活へと向かう歩みが損なわれている可能性がある。若者たちは自国のため紛争の最中に居るのかもと思うと心配でならない。コロナ禍でもあり、他国のことゆえに、どうすることも出来ない。私たちには、唯々、礎が損なわれていないことを祈ることしか出来ない。

報告書発行に伴い多くの方々にご尽力いただいた。とりわけ本事業の中心的な役割を担われた 元会員の近藤正俊氏、プロジェクトの陣頭に立たれた国際奉仕委員長青山幸市会員、数多史料 編纂に携われた岡田吉生会員に深謝し、挨拶を終えたいと思う。

岡崎城南ロータリークラブ 2020-2021 年度会長

永 田 裕

はじめに/会長あいさつ 目次

<Part-1>

ミャンマーの概要

ミャンマー教育支援プログラム

1998-99 年度 WCS 活動事業報告・第1回ミャンマー訪問 1999-00 年度 WCS 活動事業報告・第2回ミャンマー訪問 2000-01 年度 WCS 活動事業報告・第3回ミャンマー訪問 2001-02 年度 WCS 活動事業報告・第 4 回ミャンマー訪問 2002-03 年度 WCS 活動事業報告・第5回ミャンマー訪問 2003-04 年度 WCS 活動事業報告・第6回ミャンマー訪問 2004-05 年度 WCS 活動事業報告・第7回ミャンマー訪問 2005-06 年度 WCS 活動事業報告・第8回ミャンマー訪問 2006-07 年度 WCS 活動事業報告・第9回ミャンマー訪問 2007-08 年度 WCS 活動事業報告・ミャンマー訪問中止 2008-09 年度 WCS 活動事業報告・第 10 回ミャンマー訪問 2009-10 年度 WCS 活動事業報告・第 11 回ミャンマー訪問 2010-11 年度 WCS 活動事業報告・第 12 回ミャンマー訪問 2011-12 年度 WCS 活動事業報告・第 13 回ミャンマー訪問 2012-13 年度 WCS 活動事業報告・第 14 回ミャンマー訪問 KIBOH クリニック竣工 (2013/1/26)

2013-14 年度 WCS 活動事業報告・第 15 回ミャンマー訪問 ミャンマー支援 Q&A

感謝とお礼(2001/3)

ミャンマー教育事情

ミャンマーの仏教と僧院学校

岡崎城南 RC 奨学金制度「奨学会 KIBOH」の創設 (2008/10)

ミャンマーでの広報活動

あおい奨学会の奨学生たち

ミャンマー紀行文集

●「微笑みの国」ミャンマー訪問記/中根常彦●ミャンマー初訪問で「驚き?」そして「感動!」/市川藍さん●ミャンマーの呼吸/牧野暁世さん●ミャンマー訪問記/牧野正高●ミャンマー旅情/加藤豊生●行ってきましたミャンマーへ/天野邦彦●11 回目となるミャンマーを訪問して/田中暉登●ミャンマー「モノより人への援助」/松永茂夫●我が城南 RC の国際奉仕・世界社会奉仕のプログラムだ/市川聰明●ミャンマー・2013 年の様子/永谷和之●不思議な国ミャンマー/近藤正俊

沈黙のミャンマー

本報告書作成にあたって (Part-1)

2012-13 年度国際奉仕委員長近藤正俊

#### <Part-2>

2014-15 年度 WCS 活動・第 16 回ミャンマー訪問報告 2015-16 年度 WCS 活動・第 17 回ミャンマー訪問報告 2016-17 年度 WCS 活動・第 18 回ミャンマー訪問報告 2017-18 年度 WCS 活動・第 19 回ミャンマー訪問報告 2018-19 年度 WCS 活動・第 20 回ミャンマー訪問報告 2019-20 年度 WCS 活動・奨学生 0B 招へい計画の中止 記念式典事業にて表彰・寄贈

ミャンマー紀行文集

- ●ミャンマー訪問記 2014・鈴木昭弘
- ●ミャンマー訪問記 2015・鈴木昭弘
- ●ミャンマー食の訪問記 2017・岡田吉生
- ●ミャンマー交流の旅 2019・岡田吉生

<Part-3・総括>

1999-2020\_WCS 活動の沿革

1999-2019\_ミャンマー訪問団派遣名簿

奨学生リスト (統合版)

ミャンマーきぼう奨学会資金推移シミュレーション ミャンマーKIBOH 奨学会(現地)調査報告 ミャンマー愛好会発足

クラブ戦略委員会報告より

編集者まとめ

編集後記



### Part-1

1998-2014

教育環境設備建築支援の10年から、奨学金制度へ









1999年1月から始まったミャンマー訪問。 途中2007-2008年度は、ミャンマー国内情勢悪化のために 一回お休みしたものの、それ以外は毎年続けられた。 寄付金の使途も教育インフラを造り続けた10年を経て、 2008-09年度からは、奨学金制度に転換をした。 「モノ」から「ヒト」へ 「魚を与えるよりも、釣竿を与えよ」への転換であった。

(この Part-1 の報告は、当時の国際奉仕委員長近藤正俊君によるものである。)

### ミャンマーの概要

国名: ミャンマー連邦国 (Union of Myanmar)

首都: ネピドー (Naypyidaw)

面積:約68万平方キロメートル(日本の約1.8倍)

バングラデッシュ・インド・タイ・ラオス・中国の5ヶ国と国境を接し、ベンガル湾・アンダマン

海に面している。

ミャンマーは7つの州と7つの管区に分けられて

いる。

人口:約6,500万人

民族: 主な民族としては、カチン族・カヤー族・カレン

族・チン族・モン族・ラカイン族・シャン族・ビ

ルマ族等となります。

細かく分類すると135民族になるといわれている

宗教: 国民の約80%が仏教徒。その他少数ではあ

るが、イスラム教、ヒンズー教等。

言語: ミャンマー語が公用語 時差: 日本より2時間30分遅れ。

通貨: 通貨単位はチャット

公式レート US\$I= 6 kyat(チャット) 実勢レート US\$I=860 kyat (2012/9)

気候:ミャンマーでの気候は3シーズンに分かれます。

【暑期:2月下旬~5月中旬】

昼間40℃以上

【雨期:5月下旬~10月中旬】

スコールで道路冠水も

【乾期:10月中旬~2月中旬】

旅行最適シーズン

習慣: 仏教国ミャンマーでは、寺院と僧侶は神聖で絶対な 権威をもつものです。寺院の見学の際は、敬虔な態 度で、僧侶に触れたり、握手をしたりする事は厳禁 です。又、寺院に入る時は必ず裸足にならなければ

なりません。



**識字率:8**5. 3%(15歳以上) ※アジアの中では高い方

平均余命: 男61. 17才 : 女65. 74才

平均63.39才(2009年現在)

その他:水道水の水は飲めませんのでミネラルウォーターを 購入して飲む。クレジットカードは、高級ホテル 等使える場所が限らます。トラベラーズチェック はほとんど 使えない。外国人は米ドル使用。

名前は、姓がなく、名のみ。

現在、民主化が進み大きく変化している国であるが、まだまだ、貧しい国民が多くいることを忘れてはいけない。



#### アクセス

原則として、ミャンマーへは空路での 出入国のみ可能です。日本からミャン マーを訪れる際には、直行便はなくバ ンコク、または台北乗り換えの便を使 うのが一般的。

日本からバンコクまで約6時間。バン コクからヤンゴンまで約1時間程度。

#### ザガイン管区シュエボ

1. 人口 約80.000人

 2. 高校
 3校

 3. 中学
 2校

 4. 小学校
 14校

5. 面積 1,054.7平方キロメートル

6. 主な業種 農産物、織物、陶器等の生産売買、運送

7. 産業 殆ど農業(米、野菜、砂糖キビなど)

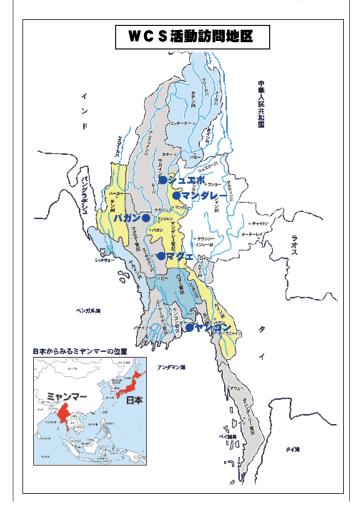
(米は有名。銘柄「シュエボーコンニ」

8. 観光地 無し

9. 位置 マンダレーより北150km(車で約3時間) 10. 図書館 公・私立図書館は、今までに一切無く

住民からの要望で当クラブが建築した。

11. その他 ホテル・スーパー・娯楽施設は、一切ない。



### ミャンマー教育支援プログラム

#### いきさつ

1997年当クラブがミャンマーからの留学生キョーキョーモー(Kyaw Kyaw Moe)君を、米山奨学生として2年間受け入れました。カウンセラーは、会員の太田政信君。名古屋大学大学院在学中の彼は、この奨学金を得て一般的には4年かかる博士号取得を、努力の結果なんと3年間で取得いたしました。当クラブが世話をしている数多く奨学生の中で初めての3年で博士号取得の優秀な学生でした。

その彼が、卒業後一時帰国をすると言うので、ミャンマ



ーがどのような国か、この優秀な奨学生の故郷を訪ねてみようと、当時の国際奉仕委員会(当時:小野智範委員長)から提案がありました。そこで「ロータリークラブで行くなら単なる観光旅行では意味がない。奉仕に結びつけよう」と意見が出て、この訪問を当クラブのWCS活動に含めた事業に拡大し、1999年教育支援プログラムとし

Dr. キョーキョーモー氏

て位置づけ国際奉仕事業として理事会承認されました。

#### 経過

本来RIにおいては、WCS活動は、その国のRCと連帯し行う奉仕であります。第2760地区では、地区事業としてWCS活動を実施しています。つまり地区内の各クラブは、WCS予算を地区に送り、地区がスケールメリットのある国際奉仕事業を行っています。ところが我々の目的国ミャンマーにはRCはありません。ですからこの奉仕活動は地区に認められない活動になり、RCとしての奉仕活動上大きな壁が生じることとなりました。しかし1999年近藤敬道会長(当時)の熱意ある奔走で、地区からこのミャンマー教育支援事業が当クラブ独自の公式WCS活動として認められることとなりました。

そこで「何故ミャンマーなのか?」という問いがあります。 まず、海外に目を向けるとアジアには、多くの後進国がありますが、このWCS活動に対する限られたクラブ予算



を有意義に使用するためには、やはり為替格差と経済格差の大きい国の方が、より有効的であると議論され結論的には国連の指定する最貧国ミャンマーを支援対象国と定めました。第1・2回目は旧首都ヤンゴンにある高校にこのプログラムを実施。そして次第にミャンマーの状況も理解出来はじめ、日本円の実勢価値がミャンマーでは10-20倍もあることが分かりました。しかもミャンマー国内の地方に於いてはそれ以上の価値の差がありました。また、一般的にミャンマーに関する情報は少なく、他のクラブ(全国)も殆どこの国を対象にしていな状況もあり、「少ない予算」で「大きな奉仕」を目指すには適切な対象国という意

見が多数を占めることとなりました。尚、ミャンマーの高校はすべて公立高校ですが、日本と国情が異なり、国や管区・州より学校施設管理のための費用には、ほとんど予算もなく、卒業生や父兄が修理費や管理費などの資金を集めを行っている状況も把握できました。

2001年より奉仕対象の学校を地方の学校に変更しました。地方ほど教育環境整備も行き届かず、現地子供達も支援を切望しています。あるとき元奨学生キョーキョーモー氏は、「将来自国で元奨学生を集め、RCを設立する夢」を語ってくれました。そんな時は当クラブが、全面的な支援が出来ればと希望(KIBOH)します。

併せて、当クラブの全会員の理解のもと、会員個々の全面 的な支援と協力によりこの事業が長期間継続していること に感謝申し上げます。この紙面を借りて重ねて御礼申し上 げます。

#### 第1回WCS活動事業報告

◎事業内容 教育環境整備資金の寄付

◎対象校 アローン第5高校

所在:ヤンゴン管区ヤンゴン

◎寄付金の使途 高校敷地への進入道路整備

**◎**寄付金額 \$2,500

◎実施時期 1999年1月23~28日

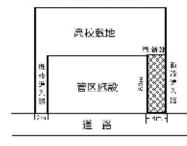
◎派遣会員 小野智範(国際奉仕委員長:団長)

太田政信 中根常彦 則竹國雄 小林通利 杉浦節雄 天野賢一

◎同行者 キョーキョーモー

第1回目は、教育支援プログラムとして理事会承認されたヤンゴンにあるアローン第5高校に教育環境整備資金US\$2500を送り、その資金は、道路建設にあてられ学校の取り付け道路が設けられた。

#### 環境整備費の使途



道路が出来るか一抹の不安も有ったことは事実です。

さて、このアローン第5高校は、ヤンゴンでも優秀な生徒が 多いのですが学校施設面では、校舎は古く2階の講堂は老朽 化が激しく全く使用できない状態であった。

また今回の目的である進入道路の整備については、前面道路との接道が幅2m程度で、緊急避難の場合にも支障があり、自動

車も敷地内に入りづらく、緊急車両が楽に進入でき、正門の ある道路建設を願っていたところだったようです。

さて、高校側も当初、我々のこの寄付の申し出に驚き、教育委員会等上部機関に相談したようで、それが上層部に上がり当日には軍服姿の文部事務次官も寄贈式に出席することとなり、緊張の中で寄贈式典が開催されました。予想外の厳粛なこの式典で無事寄付金を渡すことが出来ました。校長より2000年2月までにはこの道路も工事完了するので再度来て欲しいとの要請を受けました。尚、当日地元テレビ局も取材があり後日テレビ(国営)で放映されたとの連絡が有ったようです。我々も初めての訪問でこの国に対しいろいろ驚きの連続でありました。



整備された道路と正門。門にはロータリーバッジ

#### 第2回WCS活動事業報告

◎事業内容 教育環境整備資金の寄付◎対象校 アローン第5高校

所在:ヤンゴン管区ヤンゴン

◎寄付金の使途 教室兼講堂改修

**◎**寄付金額 \$2,500

◎実施時期 2000年2月11~17日

◎派遣会員 中根常彦(国際奉仕委員長:団長)

太田政信 小野智範 近藤正俊

◎同行者②尼行者②その他③を引力②を引力②を引力③を引力○日子

ヤンゴン大学へ ヤンゴン第2医科大へ \$500

第二回目は、第一回目と同じアローン第5学校へ寄付。この 寄付金は教室兼講堂改修費に当てられ、数十年ぶりに講堂 の利用が可能になるとのこと、教育施設が充実されます。 尚、同校はヤンゴンの名門公立高校であるが、前記の教育 施設に対し行政からの予算措置は十数年前からほとんどな

| かったようです。

00 00 00 (8) 970 \$ 9

改修工事は、校舎二階の 約40坪程度の講堂で床、壁 及び天井の大改修であっ たようだ。工事業者は卒 業生が安く請け負い寄付 金額内で施工できた。今



回の訪問時、天井にはロータリーバッジが掲示されていた

派遣会員は首都ヤンゴンでなく、もっと地方の方が我々の持参する寄付金がより役立つのではと、意見が一致し対象地を次回より再考することとし、寄付金使途も環境整備でなく、より教育支援になる施設を模索することとなった

尚、今回寄付式典には、軍人でなく文官の文部事務次官(軍服ではない)の臨席がありました。この次官はなんとロータリークラブを知っていて、若い頃ロータリーの世話になったの言っていたが詳しくは話さなかった。

また、メンバー有志で作る私設奨学金制度研究のためヤンゴン第2医科大を訪問しタラシュ工学長と面談、医学生の生活など聴聞し大いに参考とした。その際会員一同は、この大学にある奨学会基金に個人総額\$500の寄付を行った。

#### 第3回WCS活動事業報告

◎事業内容 教育環境整備資金の寄付

◎対象校 シュエボ第1高校

所在:ザガイン管区シュエボ

◎寄付金の使途 第1図書館建設費用(半額金)

**◎**寄付金額 \$2,000(図書館建設用)

\$1,000 (会員外から寄付:図書購入費)

**◎**実施時期 2001年2月1~8日

◎派遣会員 則竹國雄(MCS委員長:団長)

小野智範(会長エレクト)

中根常彦 (副幹事)

太田政信 近藤正俊 加藤義幸

◎同行者 Dr. キョーキョーモー夫妻

◎寄贈品 文房具、子供用衣類ダンボール箱6個

第3回目の訪問では、ミャンマーの北部にある第2の都市マンダレーから北部へ150kmにあるザガイン管区シュエボを訪問。この町は人口約8万人の農村地帯です。

この地域には地区にも学校にも図書館が無く、是非、図書館を建設をしたいという地元の厚い要望があり、クラブWCS活動費から2000ドル(クラブ予算の関係上、図書館建設資金の半額分。次年度同額を寄付する約束で)、非会員ではあるが野島達夫弁護士からの寄付金1000ドル、計3000ドルと、文房具・古着などを贈った

当時、本当に4,000ドルで図書館が建築できるのだろうか? 現実に建築してくれるのだろうか?との不安もありました が、結局地元シュエボのボランティアグループの協力を信 頼することとした。

前回の第2回目訪問時に、訪問会員有志から「他にミャ ンマーのために何か援助出来ることはないだろうか?」 「何かしよう!」との発案で、クラブの寄付は環境整備資 金だから、「人つくり」の面に目を向けることとなり、私 設奨学金制度「あおい奨学会」が創られ、この年、2名の 高校生(高校卒業後、大学に進学)に奨学金を支給した。 背景には、大きな為替格差が利用できるメリットがある。 そして、この3回目の訪問で地方の学校は、ほとんどが小、 中、高の併設校で3部制を行っていて、図書館は高校に限定 しなくても十分活用されることになることも解ってきまし た。加えて高校側に、学校に行けない経済的に恵まれない 子供達へこの図書館の開放と建物等の管理の確約を得るこ とが出来ました。

尚、この地方は観光地でもなく農村地帯ですので観光客も ほとんど無いため、日本人が立ち寄ったのは40数年振り で、初めて日本人を見た人々も多く、我々は地元住民から 意外に温かく歓迎された。後で聞いたが反日感情はあまり ないようだ。

また、このシュエボ地域に入ったとたん突然、警察官の乗 った警察車両2台が我々の警備が付き全員驚きであった。 我々が図書館建設資金の提供をすることは既に住民達は知 っており、多くの住民は車の中の私たちに手を振り挨拶を してくれた。式典には管区の軍司令官(知事に相当) 行政関 係者、警察や地元の有力者、教育関係者らが多数が参加 し、子供達の歌や踊りも披露され、予想外の盛大さと長時



シュエボ 中学生の下校時風景



民族衣装を着た中学生が出迎え。一同感激



制服の政権関係者

間の式典に、我々は些か恐縮した。その式典終了後ボランテ ィアグループからある湖畔の施設で夕食の招待を受けた。

又、式典ではこの図書館建設に、地元からも寄付を募る件 の報告があった。我々の資金のみでは無理なようだ。 このシュエボには、外国人の宿泊できるホテルもないため、 我々は日帰りでマンダレーに宿泊することとなるが、道路の 整備が最悪でバス2時間半の帰路であるが、日本の6時間に相 当する疲労を感じたことを申し添えます。



※写真右上が図書館建設予定地





式典の模様 子供達の日本語の歌で歓迎される



今回図書館建設にお世話になる地元ボランティ アの婦人団体幹部

#### 第4回WCS活動事業報告

◎事業内容 教育環境整備資金の寄付 **○**対象校 シュエボ第1高校

所在:ザガイン管区シュエボ

◎寄付金の使途 第1図書館建設費用(残額金) ◎寄付金額 \$2,000(図書館建設費)

\$1,000 (図書購入費) ◎実施時期 2002年2月28日~3月

〇派遣会員 小野智範 (会長)

中根常彦(幹事) 近藤正俊 (副幹事・団長)

太田政信(会長エレクト) 田中暉登

◎同行者 Dr. キョーキョーモー夫妻

文房具、子供用衣類ダンボール箱23個 ◎寄贈品

この第4回目訪問は昨年の建設資金残額金を寄付する目的で す。このシュエボは2回目になるので昨年のような緊張感も なくまた、図書館建設状況も事前に郵送で写真など届いてい たので安堵感もあり、派遣会員は少しリラックスしている。

シュエボ第1高校へ図書館建設費の不足分と図書購入資金 として1000ドルを寄贈、地域住民の協力のもと、図書館が完 成していた。実際の建設総工事費は材料費約\$4,500で、工賃 は地元民の大きな奉仕があったようです。

シュエボ管区軍司令官、行政関係者出席のもと、盛大な開 館式が行われた。この図書館は「希望KIBOH」と名付 けられ、木造平屋建て、床面積約150㎡ 2部屋で、地 域にも解放され、地元で喜ばれていた。



第1図書館KIBOH 完成:2002年1月



全校生徒が整列しお出迎 え、我々は少し照れながらの 行進です。

小野会員は汗だくで書きました。



そのほか、数ヶ月前にクラブ会員および会員外から集めた古 着、文房具など260kgの寄贈品を船便で送り、現地ボランテ ィア団体に委託、恵まれない子供達にも配られた。 特に寄贈品の中で藤江顕治君より寄付された多数の子供体操 服は、非常に喜ばれ、一部は地元の小学生サッカーチ ームのユニフォームにもなったと聞いています。





会員寄贈の体操服でニッコリ



開館式は盛大でした。テープカット!



可愛いチビッコも出迎え



図書館前は盛り上がっています



第1図書館前



図書館KIBOHのプレート





小学生の歌と踊りもありました

#### 第5回WCS活動事業報告

◎事業内容 教育環境整備資金の寄付

◎対象校 シュエボ第2中学・青少年成育センター

所在:ザガイン管区シュエボ

◎寄付金の使途 第2図書館建設費用 • 一般寄付

◎寄付金額 \$ 4,000 (図書館建設用)

\$ 700 (青少年成育センター)

◎実施時期 2002年11月25日~12月1日

◎派遣会員 太田政信 (会長) 近藤正俊 (幹事:団長)

中根常彦 加藤義幸 細井正治

◎同行者 Dr. キョーキョーモー

◎寄贈品 文房具、子供用衣類ダンボール箱4個

第3、4回と同じくシュエボ地区のシュエボ第2中学校の要請により第2館目の図書館KIBOHを建築するため5名の会員を現地に送り直接、ボラティア団体に4000ドルの建築費を今回は一括で手渡しました。これは、地元との信頼関係も出来、また建築資材が一括購入の方が相当安くなるとの情報もあったためです。

(前回までは建築資金を2回に分割して渡していました) 昨年建設した第1図書館の使用状況も確認、小野智範会員揮 毫の看板も表装され掲示されていました

また今回は狐児や貧困家庭の子供42名を預かっているYDC (青少年成育センター)からの招待もあり、会員達はそこにも訪れ、メンバーから集めた文房具衣類などと募金から使途を定めない700ドルを寄付した。公的施設ですが半ば自給自足の運営で資金はわずかの予算と地元の寄付で運営しているとのこと。



第2図書館KIBOH 完成:2003年7月





第2図書館の寄贈図書



建設場所視察(写真の左側) 2002.11.26撮影





寄贈品をボランティア団体へ

学校から記念品受領







外には地元の子供達が大勢

YDCの敷地内には家畜や農地があり子供たちが自らに働き食料を得ているとのこと。ここから学校に通い生活しているそうだ。 内部は清潔ですが、子供らしいもの玩具や本は一切ない。



YDC内の様子. 身寄りのない児童生徒が共同生活



子供達の私物はほとんどありません

#### 第6回WCS活動事業報告

◎事業内容 教育環境整備資金の寄付◎対象校 北ダゴン第1高校

所在:ヤンゴン管区ノースダゴン

◎寄付金の使途 第3図書館建設費用◎寄付金額 \$4,000 (図書館建設用)

\$ 1,000 (非会員寄付:図書購入費用)

◎実施時期 2004年2月12~16日

◎派遣会員 加藤義幸(国際奉仕委員長)

市川聰明(WCS委員長)

近藤正俊(団長) 太田政信 中根常彦田中暉登 市川藍(市川会員令嬢)

**◎**同行者 Dr. キョーキョーモー

◎寄贈品 文房具、子供用衣類ダンボール箱6個

2004年には、ヤンゴン管区北ダゴンにある北ダゴン第3高校に第3館目の図書館を寄贈(建設費4000ドルと図書購入費1000ドル)するため6名の会員を派遣した。尚、この図書購入費\$1,000は、クラブメンバーではない弁護士の野島達夫氏から寄付を受けました。さて、今回、物価高騰が続いている現地で、前回と同額で同等のものが建築できるか、担当者は、少し心配をしてたが、地元の支援者などの協力を得て建築を開始し、我々帰国後の2004年10月末にはこの第3図書館が完成しました。この北ダゴンは、ヤンゴン郊外にありヤンゴン中心部より北東部、車で約40分の所。首都ヤンゴンに近いが予想に反するほどのローカルエリア。

ここも首都圏内にも関わらず同地区には図書館はない、同校は中学・高校の併設校であるが、地元の貧困により小学校に行けない子供達にも開放するよう学校長および教育関係者に要請し快く快諾を得た。又この建設のためわずかですが、地元に雇用も生まれます。



右の軍服姿の方が、文部大臣。

また、同年4月には、現地より突然、文部大臣(軍人)自らこの場を視察されたという連絡があった、。これは、高校の校長よりこの図書館建設に関する報告が教育委員会へ提出され、これが文部大臣まで上がり急遽、民間レベルの支援がどのようなものなのか、大臣が見てみたいとのことで視察が実現された。その際大臣個人としてセメント、ブロックの寄付の申し出があったことも聞きました。(ブロックエ事は終わっていたので気持ちだけいただいたそうです)



写真左が図書館建設管理者、ウテンモウー氏 緊張して、文部大臣に経過を報告しています。

ミャンマーの雨期は5月から10月で、この間基礎工事や塗装 工事は出来ない。そのため乾期にそれらの工事をすることな り、工期は長く日本感覚では理解できないほどです。





建築中の図書館





第3図書館KIBOH



第3図書館KIBOH 完成:2004年10月



野島文庫(寄贈:野島達夫氏)も間違いな(設けてありました



城南RCにより寄付され たと記してあります

#### 第7回WCS活動事業報告

◎事業内容 教育環境整備資金の寄付 **○**対象校 シュエボ第2高校

所在:ザガイン管区シュエボ

◎寄付金の使途 第4図書館建設費用

\$ 4,000 (図書館建設用) ◎寄付金額

\$ 1,000 (図書購入費用)

◎実施時期 2005年2月3~7日

〇派遣会員 牧野正高(国際奉仕委員長)

近藤正俊 (団長)

太田政信 田中暉登

市川聰明 市川藍(市川会員令嬢)

牧野暁世 (牧野会員令嬢)

◎同行者 Dr. キョーキョーモー氏

◎寄贈品 文房具、子供用衣類ダンボール箱7個

今回のシュエボ訪問は、一昨年寄付した第2図書館KIB OHの竣工確認とシュエボ第2高校からの要望で4館目の 図書館を寄付する目的です。会員4名とその娘さん2名が参

この寄贈する第4図書館については、昨年度同様、地元との 信頼関係が構築されているため理事会承認を得て2004年 10月事前に建設資金を現地に送り、この我々が訪問すると き迄に建築工事完成を地元の建設資金管理者に依頼いた しました。



第4図書館KIBOH 完成:2005年2月

2月には約束通り今までの3つの図書館中で一番立派に完 成していました。この訪問時、現地関係者より政府の法律 や方針が変わり、外国人の支援による事業は、全て政府を 通すよう通告されたが、今回に限り継続事業のため何とか 完成できたとの報告がありました。つまり今後はこの事業 にミャンマー政府の介入があるようです。この第4図書館 の玄関柱には ロータリーマークとDonated by Okazaki Johnan Rotary Club の彫刻が刻まれ、又室内には ロータリーバッジが、はめ込まれていました。(地元から の寄付が若干多く集まったようです)

メンバーや会員外の理解者、そしてミャンマー現地関係者 の多くの協力を得て建てられた4棟の図書館が、今、高校生 や小中学生そして、学校に行けない経済的恵まれない子供 達にも有効に利用されています。



玄関の柱に刻まれていた。

Donated By Okazaki Johnan Rotary Club 04.2.2004

窓には手作りのロータ リーのバッジがはめられて











寄贈式典の様子 テープカットもありました





図書館の前には鼓笛隊とチアリーダーが集まっていた

#### 第8回WCS活動事業報告

◎事業内容 教育環境整備資金の寄付

 対象校 マグエ第1高校

所在:マグエ管区マグエ

◎寄付金の使途 第5図書館建設費用

\$ 4.500 (図書館建設用) ◎寄付金額

\$ 1,000 (図書購入費用)

\$ 780 (文房具購入)

◎実施時期 2006年2月1~8日 〇派遣会員 加藤豊生 (副会長)

近藤正俊 (WCS委員長、団長)

田中暉登 中根常彦 天野邦彦 岡田吉生

市川聰明 市川麻耶(市川会員令嬢)

◎同行者 Dr. キョーキョーモー

◎寄贈品 文房具 (ノート、ボールペン各4000個)

子供用衣類ダンボール箱7個

2005年5月当クラブにマグエ第1高校の校長、教師、生徒より 図書館の建設に対し熱い要望書が届いた。それにより当委員 会から第5館目の図書館建設をクラブ理事会に要請し、承認 を得た。同年7月には第3図書館の建設資金管理者ウテンモ ウー氏が第5図書館の建設資金管理者としての要請にも快 諾いただき、また8月彼がプライベートでミャンマーより来岡したの で、藤江会長がクラブ例会に招待し交流を深めた。この建設 費は理事会承認の元、9月には現地へ一括送金され、委員 会の目標である第5図書館の建築の実現が可能となった。

2006年2月2日訪問団8名はヤンゴンからパガンへ向かい、 翌日バスでマグエ管区マグエに向かう。当クラブにとって初め て訪問するところでバスで当初3時間の予定であったがバスの エンジンが良くなく、スローペースのためなんと5時間を要し た。しかし同行者が途中に現地高校へ電話連絡を取っていたの で心配を掛けずに済んだ。

やっと目的地マグエ第一高校の正門に到着、学生達2,000余名 が我々のため整列して歓迎をしてくれた。その後完成した第 5図書館 KIBOHの前で植樹式と鍵の授与式が行われた。その 前に教師など学校側で井戸を掘ったが、給水ポンプ、給水タン ク及び給水配管設置への支援要請を受けた。今後の協議対象 のなろう。

さて今回の図書館などの寄贈式は、こちら側から事前に時間 がないため、なるべく簡略化して欲しい旨の要請をしておい たので数十分で終了。学生達の暖かい送迎を受け急ぎ帰路に 就く。

帰路の途中、地元の要請でマグエ第11小学校を視察、老朽化 した校舎と椅子・机が不足している実情を見た。しかし学校側 では井戸が一番欲しいと言っていた。現在、学校では飲み水の 確保がなされていないとのこと、この案件も後日協議の対象 となろう。

また、インフレのため今までと同じ規模の図書館建設には



バスは、高校玄関前に到着

小学生も多くいた。 併設校で生徒数3000名と

のこと







図書館の鍵の授与式

第5図書館KIBOH前で

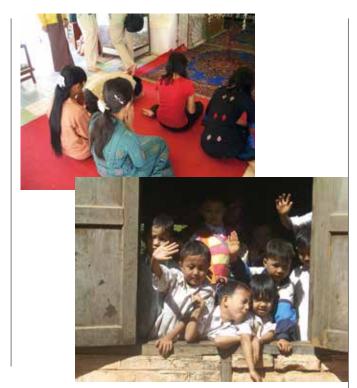
図書購入費の寄付



\$4,500では、来年は建築できないとの情報提供があり、今後、我々の大きな検討材料となった。

ミャンマーは、地方に行くほど庶民の生活レベルは低く、 又、教育にも国からの予算は少なくないため、学校施設は、 地元住民、卒業生や父母の支援と協力で維持しているとの 話を聞いた。税金以外にもかかる住民の大きな負担であろ う。だが子供達のために・・・。





### 図書購入の証拠写真

2006/02/03 当クラブがマグ エ第1高校(小中高併設校) に寄付した\$1,000で、購入さ れた書籍の証拠写真。

※2006/3/31 現地協力者ウテンモーウー氏より郵送されてきました。信頼できる協力者だ。

写真(下)左端の女性が、タ ンタンヌエ校長。





# 岡崎城南RCのWCS活動が、ミャンマーの有力新聞「ヤンゴンタイムズ」の紙面に大きく報道された

2006年2月23日記事



(翻訳)

### 日本からマグエ第一高校に図書館を寄付

2006年2月23日記事掲載 於:マグエ 2月2日マグエ第一高校で、日本の岡崎城南ロータリークラブからこの高校へ第5KIBOH図書館、家具、書籍、文房具、子供用衣類寄付を受ける式典が行われた。

この寄贈式で、現在日本に住んでいる キョーキョーモー博士は、自分が日本で 博士課程勉強中ロータリークラブからら 学金を貰ったこと、ロータリークラブは 世界160カ国以上に存在すること、ロータ リークラブは教育に関する支援を行って いることなどや、今回、この岡崎城 ロータリークラブの活動は1999年から始 まり、今まで、ヤンゴン・アローン第五 高校、北ダゴン第一高校、シュエボ第一高校、同第三高校、同第二中学校に4館のKIBOH図書館を寄付した。その上、マグエ医科大学の奨学生達へ奨学金を援助してることを説明した。その後、岡崎城南ロータリークラブの副会長加藤豊生氏から校長タンタンヌエ先生にKIBOH図書館の鍵が渡され、また併せて図書館に必要な書籍、文房具、子供用衣類など寄付を受けた。

このKIBOH図書館は5000ドルの寄付金で 建設された。また図書館のための図書購入 費は1000ドル分である。

(翻訳:キョーキョーモー氏)

#### 第9回WCS活動事業報告

◎事業内容 教育環境整備資金の寄付

◎対象校 マグエ第1高校

所在:マグエ管区マグエ

◎寄付金の使途 給水施設整備費用

**◎**寄付金額 \$ 4,000 (給水設備工事費)

\$ 1,000 (文房具購入費)

**◎**実施時期 2007年2月9~15日

◎派遣会員 近藤正俊 (副会長・団長)

千賀邦二 (国際奉仕委員長) 小林通利 (WCS委員長) 太田政信 市川聰明

奥谷 博 小林会員の奥様と息子

**◎**同行者 Dr. キョーキョーモー

◎寄贈品 子供用衣類ダンボール箱6個(藤江氏寄贈)

2006年2月当クラブがマグエ第1高校に第5図書館を寄贈した際に、教師など学校側で井戸を掘ったが、給水ポンプ、給水タンク及び給水配管設置への支援要請を受けた。当クラブはその要請に応えミャンマー訪問9回目となる今回は、ポンプ室、揚水ポンプ、高架水槽、給水配管、浄水装置などの給水施設を寄贈することとなった。

2月11日、マグエの学校関係者をヤンゴンに招待し、この井戸の寄贈式を行い、この井戸は「KIBOHの泉」 と名付けられた。また、この給水施設工事の手配及び管理は、モー氏後親ウテンモウー氏の全面協力により完成の運びとなったことを報告してます。

このマグエ地区は、乾燥地帯で井戸は約60m以上掘らないと水が出ないとのこと。また、水が出てもその井戸水は飲用に適さない場合が多い、つまり石灰質を多く含む硬水で浄化装置が必要とのことであった。

ミャンマーでは、生水を飲まない習慣があり必ず沸かして飲むようだから衛生面では問題ない。しかし、井戸は少なく、雨水や川の水が水源らしい。それ故、子供達は水汲みに時間が取られ学校に行けない子供達が多いと聞いた。子供達にこの「KIBOHの泉」が役立つことを願うものである。



校長代理の挨拶



文房具寄贈:奥谷会員



子供衣類寄贈:市川会員



「KIBOHの泉」完成



ポンプ室と高架水槽



新品の揚水ポンプ



新設の水飲み場



浄化装置と飲料用ポリタンク

#### 第9回WCS活動事業その後

2007年2月、我々が現地へ赴いた際に、当会員の藤江顕治氏寄贈の子供服をシュエボの協力者キンララモー女史に託した

その後、同女史はシュエボの各地を回り成績優秀な児童で恵まれない子供達を選び、その子供達にこの子供服を配布したとの報告が届いた。よって、その写真を掲載する。

(2007年8月写真受領)



左:キンララモー女史 右:教師



左:キンララモー女史のご主人



サイズは合うかな??



成績優秀な児童たち



12-2月は寒い日もあるようです。



嬉しそうな子供達



#### 第10回WCS活動事業報告

◎事業内容 教育環境整備(道路整備)◎対象校 シュエボ第1高校

所在:ザガイン管区シュエボ

◎寄付金の使途 道路整備費◎寄付金額 \$ 4,500◎実施時期 2008年1月

◎派遣会員 0名(派遣中止)

本年はミャンマー国内情勢の悪化で会員の派遣は見送った。 2007年秋ガソリンの高騰から端を発し、僧侶がデモをするような大規模な民主化運動が巻き起こり、国軍がそれを鎮圧したが日本人記者が射殺される事態となった。

しかし、そんな状況下にこの事業を継続すべく現地協力者の努力で我々の支援活動は達成できた。シュエボ第1高校は小中高の併設校で生徒数2500名という大きな学校である。その敷地内道路が雨季には頻繁に冠水し、特に小学生達にとってこの道路冠水で学校付近に着いても校舎まで入れないという。このため学校敷地内道路の全てを30mlまど嵩上げし、舗装工事をしたいという要望が届いた。そこで本年はこの工事を支援することなり、2007年11月工事費用を送金をした。現地ではこの道路整備工事を急ぎ、雨季前には完成するよう手配された。

尚、この工事完成については次年度完成確認のため訪れるこ





写真上:採石を敷き詰め 写真下:タールを撒いてある。

写真上:採石を敷き詰め 写真中・下:舗装工事完了後







写真下:文房具を受け取った 子供達:写真撮影に緊張して





現地協力者が貧しい家庭の児 童を優先して渡した。

#### 第11回WCS活動事業報告

◎事業内容 教育環境整備工事完成確認

奨学金の支給

◎対象校 シュエボ第1高校

所在:ザガイン管区シュエボ

◎寄付金の使途 クラブ奨学会を創設

◎寄付金額 学生2名を奨学生として支援(各年額\$500)

\$ 1,010 (図書購入費用) \$ 1,010 (文房具購入費用)

**◎**実施時期 2009年1月31~2月5日

◎派遣会員 近藤正俊 (会長・団長)

天野邦彦 (WCS委員長) 岡田吉生 (会長エレクト)

田中暉登、加藤豊生 市川聰明 松永茂夫

◎同行者 京 幸一(平成20年9月日本国籍取得)

◎寄贈品 子供用衣類ダンボール箱7個(藤江氏寄贈)

2年ぶりにミャンマーを訪れた。本年は昨年寄付した道路整備工事完成の確認と奨学金を支給が目的である。この奨学金はクラブ内に創設し、東南アジアにおいて明日の医療活動に貢献できるよう専門教育を受ける機会を作るため、貧しくても優秀な医学生を支援するもので、いわば「人作り」に対し支援活動を方向転換した。今後、当クラブは5年間の継続事業として進めることとなった。

1/31から2/5、第10回目となるミャンマーでの教育支援プログラムを実施した。今回は7名の参加により、昨年ザガイン管区シュエボのシュエボ第1高校へ寄付した道路整備工事の完了確認と奨学会 [KIBCH] の奨学金支給を目的に会員有志を派遣した

岡崎からヤンゴン到着まで乗り継ぎを含め15時間半も掛かる遠い国。 亜熱帯地域と言われる所だが、夜は15℃くらいで肌寒く長袖が必要なくらい涼しい。



翌日朝4時起きで、空路ヤンゴンから北へ700kmのマンダレーに到着。そこから北西方向に向いバスて3時間の車窓を楽しみ、12時に目的地シュエボに着いた。このシュエボ第1高校には我がクラブ最初に建設し

た第1図書館KIBOHがある。

ここでは多くの生徒が出迎えてくれ、テープカットまで準備していてくれた。式典では会員より寄付された図書購入費と文房具購入費の19万円を学校と地元ボランティアグループに手渡し、新奨学生になった4名の学生に奨学金を支給し無事活動を終えた。



現地協力者からは、今までのように目立つ施設への 援助は政府の介入もあり、 今後はいろいろな面で 障やそのための許可か必 要になってきたので奨学 金制度になり良かったと 感想があった。

この高校で行った式典も例年、政府の許可が必要で、今回は学校側が非常に消極的で許可申請をせず、それを飛び越えて、現地協力者側が直接許可申請をしたとの情報を得た。

その際、過去に当クラブで作成したビルマ語の「広報KIBCH」(写真のもの)を添付し申請したところ、すんなりと許可が下りたと言っていた。

学校側が躊躇するほどいろんな面で政府から圧力があるようだ。よって、当クラブの「人作り」の方向転換はまさしくタイミングが良かったと感じた。

クラブ全メンバーのご支援とご協力で今回も滞りなく活動が 出来、感謝申し上けWS活動報告と致します。

新奨学生:マグエ医科大1年生



あおい奨学会卒業生で医師: 隣村で クリニックを開業



昨年寄付した道路整備工事を確認中

#### 第12回WCS活動事業報告

◎事業内容 奨学金の支給,図書の寄贈

◎寄付金の使途 クラブ奨学会KIBOH の奨学金

◎訪問目的 当クラブで設立した奨学会KIBOH より奨

学生13名 (新奨学生4名含む)に奨学金 (総額\$6,900の支給) と当クラブで平成10年より建設寄付した5棟の「図書館 KIBOHIへ図書(約800冊: ¥73,000相当)

を寄贈。

**◎**実施時期 2010年2月11~15日

◎派遣会員 近藤正俊 (直前会長·団長)

市川聰明(WCS委員長)

田中暉登 (元会長)

太田政信 松永茂夫

◎同行者 京 幸一(奨学会カウンセラー)

岡崎城南ロータリークラブは、国際奉仕活動の一環として行っているミャンマー教育支援プログラムの奉仕活動で本年第11回目となるミャンマーの旧首都ヤンゴンへに自費参加したクラブメンバー5名と本奨学会カウンセラーの元ミャンマー人京氏を含め計6名の訪問団を派遣した。

当クラブは過去1998年からミャンマー各地に図書館、給水施設や道路整備など教育支援プログラムを行ってきたが、昨年のクラブ創立20周年を期に奨学金制度を拡充した。この制度はミャンマーの医学生を支援する目的で行っている。

ミャンマーには医科大学は4校しか無く、全国で2600 名の優秀な学生しか入学できない。出身地域により入学できる医科大学が指定されている。そこで成績優秀でも貧しさから進学できない学生を支援するため当クラブは、この「奨学会KIBOH」を設立した。毎年2-4名を奨学生として受け入れ大学入学から卒業までの5年間奨学金を支給している。

また、この奨学金ですでに5名の卒業生が医師となり、医療活動に従事している。

医学生の奨学金は1年間500ドル~600ドルである。しかし、学生達は1年間の授業料と衣食住の必要金額は計約1,000で生活できる。よって日本と比較ならないほど価値のある奨学金であるため毎年奨学生候補への申し込みも多いが、奨学金資金の関係上当クラブは毎年苦渋の選考をしている。

10年前に当クラブ独自に創設した「奨学会」の奨学生は、ザガイン管区シュエボ出身のマグエ医科大学の医学生達であるため、今まで当クラブ派遣会員はシュエボまで出向き奉仕活動を行ってきた。しかし今回その奨学生13名(本年新奨学生4名を含む)と現在医師になった5名の卒業生をヤンゴンに招待し、当クラブ会員が学生達に今年1年分の奨学金を手渡しで支給した。

その支給式は、ヤンゴンにあるレストランを貸切、現地協力者と共に総勢36名で夕食会を兼ね行った。日本では一般的な中華料理であるが学生達は初めての御馳走で楽しそうに食べていた。食事後、ビンゴゲームを行い会員が日本から持ち寄った



卒業生(医師)と現役医学生



図書購入費を協力者:ウテンモーウー氏へ



本年の新奨学生:医学生



協力者:キンララモ一氏



ヤンゴンで購入した図書の一部



賞品で大いに盛り上がった。

奨学生たちはザガイン管区シュエボはヤンゴンより北部約700km、マンダレーから160km北西部にある田舎町。高速バスを乗り継ぎ約12時間を掛けてヤンゴンへやって来た。

また、今回併せて、事前にクラブ会員から図書購入のための募金73,000円を集め、ヤンゴンで図書を購入、現地の物価や為替格差の違いで子供用図書約800冊も購入出来た。それらを当クラブが過去ミャンマー各地に建設した5館の「図書館KIBCH」に追加寄贈した。既に7年経過している図書館も有り蔵書も古くなったり不足していることから地元の要望もあり、また地方都市には子供用図書の新書があまりなく購入で

#### 第13回WCS活動事業報告

◎事業内容 奨学金の支給,文房具の寄贈

◎寄付金の使途 クラブ奨学会KIBOH の奨学金

◎訪問目的 当クラブで設立した奨学会KIBOH より奨

学生16名 (新奨学生3名含む)に奨学金 (総額\$7,900) の支給と文房具\$1,000分を

寄贈

**◎**実施時期 2011年2月11~15日

②派遣会員 中根常彦(国際奉仕委員長·団長)

稲垣裕幸(WCS委員長) 田中暉登(元会長) 太田政信(元会長)

岡田吉生(直前会長)

◎同行者 京幸一(奨学会カウンセラー)

岡崎城南ロータリークラブは、国際奉仕活動としてミャンマー教育支援プログラムの奉仕活を行っており本年で第12回目となるミャンマー訪問を行った。ミャンマーの古都バガンへに自費参加のクラブメンバー5名と本奨学会カウンセラーの元ミャンマー人京氏を含め計6名が訪問した。

当クラブは過去1998年からミャンマー各地に図書館、給水施設や道路整備など教育支援プログラムを行ってきたが、クラブ創立20周年を期に、クラブ有志で設立した「あおい奨学会」で実施していた奨学金制度をクラブの奉仕活動として拡充した拡充した。この制度はミャンマーの医学生を支援する目的で行っている。

ミャンマーには医科大学は4校しか無く、全国で2600 名の優秀な学生しか入学できない。出身地域により入学できる医科大学が指定されている。そこで成績優秀でも貧しさから進学できない学生を支援するため当クラブは、10年前にクラブ有志で創設した「あおい奨学会」をクラブ設立20周年を期に拡充し、当クラブが「奨学会KIBOH」を設立した。毎年2一4名を奨学生として受け入れ大学入学から卒業までの5年間奨学金を支給している。

また、この奨学金ですでに5名の卒業生が医師となり、医療活動に従事している。

医学生の奨学金は1年間500ドル~600ドルである。しかし、学生達は1年間の授業料と衣食住の必要金額は計約1,000で生活できる。よって日本と比較ならないほど価値のある奨学金であるため毎年奨学生候補への申し込みも多いが、奨学金資金の関係上当クラブは毎年苦渋の選考をしている。

今回ミャンマーの古都バガンにその奨学生16名と現在医師になった5名の卒業生をヤンゴンに招待し、当クラブ会員が今年一年分の奨学金を手渡しで支給した。

又、今回併せて事前にクラブ会員から文房具購入のため募金 85、476円を集め文房具購入費として現地ボランティア に手渡した。



卒業生(医師)と現役医学生



今年一年分の奨学金を支給:笑顔かこぼれる



初参加の稲垣氏





#### 第14回WCS活動事業報告

◎事業内容 奨学金の支給

◎寄付金の使途 クラブ奨学会KIBOH 及びあおい奨学

会から奨学金の支給

◎訪問目的 当クラブの奨学会より奨学生15名(新奨

学生2名含む)に奨学金(総額\$8,200)を手

渡しで支給

◎実施時期 2012年2月9日~13日◎派遣会員 松永茂夫(国際奉仕委員長)

天野邦彦 (WCS委員長)

板倉正直

近藤正俊 (訪問団々長)

太田政信 田中暉登 京 幸一

国際奉仕活動として本年で第13回目の訪問となるミャンマー教育支援プログラムの奉仕活動を現地ミャンマーで参加会員7名が行った。医師となった8名を含め22名の卒業生・現役学生をミャンマーの旧首都ヤンゴンへ招待し、交歓会を開催し物心両面から支援をした。

このヤンゴンでは学生たちも年々、体型や顔かたちが大人になり成長していることを知ることが出来、又、学生たちの希望で地元の田舎にはない「カラオケ店」へも行き、日頃シャイな学生達が積極的に歌い、踊る姿を見て目を細め、笑い声に満ち、我が子の成長のように嬉しく楽しい一時が過ぎた。

また、新奨学生2名はまだ16才であり、日本人を見ることが 初めてなので、彼らは我々の前では極度に緊張し、笑顔も見る ことが出来ず、現役学生の助けを借りて笑顔で接しながら会 話し、緊張をほぐした。

翌日には、また学生達の希望でヤンゴン市内になる遊園地へも同行した。そこにはジェットコースターや観覧車があり、初めての学生もいて、多くの乗り物でスリルを味わい、彼らは大いに盛り上がり日頃のストレスを発散したようだ。

学生の中には高所恐怖症やスピード恐怖症の学生も数名いて、乗り物に乗れないと我々に言ってきたが、無理矢理乗せて体験をさせたことに些か反省をしている。

学生たちに聞くと、ショッピングより観光地へ行くよりもこ の遊園地が楽しいと口々に感想を述べていた。

だが、大学の研修医制度(5年生を終了すると1年間の研修医期間が有る)が、近々に改正されるとの情報を得た。つまり、研修医期間が1年半の変更されるとのことで、それに伴い卒業が延長され、その延長の期間の授業料や下宿代の負担が必要となり、学生たちにとっては経済的に支障となる事案になりそうだ。

そして第1回の卒業生で現在女医のミャータオンダオン (29才)から今年中に結婚をするとの報告を受けた。その相手は1才年下で同じ医師であるとのこと、彼の写真も見せてくれた。これは嬉しい報告であった。祝福してやろう!!



卒業生(医師)へもお土産:天野氏



笑顔がこぼれる一年ぶりの再会



我々と卒業生・現役学生だけでこのメンバーになった

#### 第15回WCS活動事業報告

◎事業内容 奨学金の支給とKIBOHクリニック視察 ◎寄付金の使途 クラブ奨学会KIBOH 及びあおい奨学

会から奨学金の支給

◎訪問目的 当クラブの奨学会より奨学生15名(新奨

学生2名含む)に奨学金(総額\$8,800)を手

渡しで支給

○実施時期 2013年1月25日~30日

◎派遣会員 近藤正俊(国際奉仕委員長・団長)

> 小林通利 (WCS委員長) 中根常彦(会長エレクト)

太田政信 田中暉登 市川聰明 京 幸一 鈴木 豊 永谷和之

佐久間麻耶(市川会員の長女)

当クラブ独自事業の国際奉仕活動として本年で第14回 目の訪問となるミャンマー教育支援プログラムの奉仕活動を 現地ミャンマーで参加会員10名が行った。本年は当クラブ の奉仕活動の拠点であり、過去に図書館3館を建てて寄付し たザガイン管区シュエボを訪れた。この地は、ヤンゴンから空 路で北へ約700kml時間半かかりマンダレーへ、そこから 陸路で北西部へ160km行ったところにあるため日本から は丸一日間以上かかる。



マンダレー空港にて奨学生達と1年ぶりの再会

マンダレー空港では医師となった9名を含め25名の卒業 生・現役学生の出迎えを受け、空港からバスで3時間、車に揺 られシュエボに着く、この道路は、一車線のみの簡易舗装され た悪路であったが、昨年少し改良され二車線の有料道路とな っていた。そしてシュエボ第1高校にある築12年となった 第1図書館KIBOHを始め、他の第2、第3図書館も視察 した。今でも図書館として十分利用されている状況を確認で きた。ただ長い雨期もある地域なので何れの図書館の外装の 痛みは酷く一部塗装が剥げ落ち、外装のリフォームの必要性



メンバーから寄付を募 り、その費用で卒業し

た医学生のために共同 築12年経過の第1図書館KIBOH

診療所を建設した。その名は「KIBOHクリニック」。その建物 建設工事が本年1月上旬に完了したこともあり、その工事完 了も確認する目的もあった。

この視察時「KIBOHクリニック」に多数の高齢者で溢れていた 。開業前なのにこんなに混雑していることが不思議であった ので地元協力者にその理由を聞くと、地元の医師がこの建物 を使い、無料で高齢者の健康診断をしているとの回答であっ た。新築の診療所内ではすでに我々の奨学卒業生である医師 数名がボランティアで診察をしていた。我々が支援してきた

KIBOHクリニックの玄関

医師達の姿をみて、頬が 緩む。我々はとても心が 温かくなった

そんな地元の人でごっ た返す建物前でクリニ ック開所式を目立たぬ よう執り行った。診療所

内には、診療のための器 具、機材が少なく、まだま だ我々の支援が必要であ ることを痛感した。

ミャンマーにはまだ健康 保険制度もなく医療技

術も低く、高度な検査機 クリニック内無料診察中の若き医師達

械・器具がある病院も少ない。大都市に1~2あるのみ。 国民の所得が低いため治療費が払えない人たちが多いので高 度な医療設備が不要なのだろうか?。

また大都市を除く地方では医師達は所得も低く、生活も楽で はないという。加えて医科大卒業後の医師達には政府公務員 として僻地医療の従事義務があるのだが、この数年、その派遣 先の定員が少なく、政府の予算不足もあり医科大学卒業後医 師資格を取得しても、政府公務員として就職するには4-5 年間自宅待機しざるをえない状況が続いている。そのために 昨年、我々は卒業した医師達へ共同して働くことが出来、地元 へも奉仕が出来る診療所をこのシュエボに建てることにした

つまり我々が奨学生として支援して医師になった彼らが、自 宅待機期間にこの診療所で僅かでも生活費を作り、医療知識 の向上を計り、地元の貧しい人たちを救うことが出来れば、



「KIBOHクリニック前で開所のオープニングセレモニー」

を感じた。学校から予 算もなく塗装修理をし

また、今年は当クラブ

ら要望も受けた。



クラブ有志からクリニックへノートパ ソコンとプリンターをプレゼント

我々が6年間支援したこ とが無駄にならないから だ。現状を見て今後も彼ら の支援を望む。

その後、往路と同じ少し良 くなった道路をひた走り マンダレーへの車中で、当 クラブの新奨学生の受け 入れは予定通り本年で終 了することを医学生達へ 説明した。実は当クラブ

の奨学制度は5年計画で進めてきて本年が最終年度に当たる ため新奨学生の受け入れは次年度から停止することになって いる。しかし、既存学生のための奨学金は卒業まで支給を確約 している。

その新奨学生受け入れ停止の方針に彼らは新奨学生の継続を 強くロ々に要請してきた。最年長の卒業生の女性医師は「私は 貧しくて医科大進学を諦めていたが、この奨学金で大学を卒 業でき医師にも成れた。素晴らしい制度だ。」また同じく男性 医師は「人生を大きく変えることの出来るこの制度を続けて 欲しい」、若き医師となった新卒業生は「ミャンマー国内には 奨学金制度は、全くありません。アルバイトも雇用がないから 学費を作れない。 是非、継続を!」と全ての卒業生と現役学生 たちが我々に訴えてきた。

そんな中、僅かな所得しかない卒業生からは、資金提供の申し 出まであった。医師として働いた給料から毎月少額であるが 積み立てた預金をこの奨学金制度に活用して欲しいとの要望 で、我々メンバーはその篤き申し出に驚き,感動した

彼ら医師の給料は公務員であるため給料は月一万5千円程度 だから提供された資金を奨学金資金にするにはほど遠い金額

であるが、奨学金が重要且つ貴重な学資と十

卒業生の医師から要請が!

分体感しているのだろう。 我々の支援目的を彼らが自 分たちの力で実践する日が 近いことに感激した。

悪路に揺られながら、そん なやり取りをしマンダレー に着く、王宮近くのレスト

ランで新奨学生2名の認証式と15名の学生たちへ奨学金の 支給式を楽しく行う。学生たちは毎年この式典を心待してい る。彼らは奨学金はもちろんであるが、他に各スポンサーから の贈物を期待しているからだ。事前に学生たちは、eメールな どで希望のものをこちら側へ要請してくるが、この日まで何 になるかこちら側からは知らせていない。学生個々の顔を間 近に見て、各学生へ今年一年分の奨学金を支給、併せて各スポ ンサーからの贈物を渡した。

併せて、我が心優しきスポンサー達は、この訪問メンバーへ託 し卒業生達へもプレゼントを手渡した。

これらプレゼントは大学の授業で使う聴診器や血圧計などが 主である。現地では聴診器も購入可能であるが、現地のものは 品質が悪く、聴診器は雑音が多く肺や心臓の音が聞きづらい ため日本製の高品質なものを要望してくる。また、血圧計は、 まだデジタル式が普及していなく水銀式を求めてくる。 現地の水銀式血圧計は水銀が漏れるような粗悪なものが多 く、安全で高品質な日本製を要望してくる。

我々は日本人は毎年、日本製の技術力や品質の高い評価をミ ャンマーで再認識でき、貴重なチャンスでもある。

ところで、本年、特に変わった要望は、授業の際、先生の講義 を録音できる長時間対応の録音機で動画や画像も閲覧でき音 楽も聴くことの出来る「mp4プレーヤー」の希望が届いた。 ミャンマーでもインターネットが一部で普及し,学生達は新 しいそのIT機器を知っていた。しかし我々中高年のメンバ ーはこのmp4プレーヤーをそれを知らず、且つ、日本語表示 でなく英語表示のものを購入するのに些か苦労した。

さて奨学金支給式後、何時もの交歓のための夕食会とゲーム 大会を開催。毎年奨学生たちをこの支給式などに招待してい る。。総勢25名の現役学生や卒業生などでその招待費用は、 多人数のため多額な費用が必要だ。そのためこの費用はクラ ブメンバーの篤志で賄っている。メンバーの支援でこのミャ ンマー支援が出来ていることに感謝し、この紙面で厚く御礼 申し上げたい。

学生たちと交流のためのゲームは毎年ビンゴゲームで、ミャ ンマーではこのゲームは殆ど知られて無いが、とても好評だ。 賞品は訪問メンバーの寄付で机やタンスの片隅にある不要品 など物余りの日本ではあまり使われないもの、例えば、貰い物 の折りたたみ傘やノート、ボールペン、カレンダー、手帳など 日本製なら非常に喜んでくれる。そんな交流を通し,同行メン バー達は言葉の壁を越えて、笑顔で物心両面から奨学生達を 支援をしている。

そして、卒業生や現役学生の素晴らしい笑顔と澄んだ瞳と歓 喜の声で、我々の旅の疲れは、どこかへ飛んで行った。

最後にこのミャンマー支援プログラムが形態を変え、新しい 組織とシステムで再稼働する動きが出てきていると噂で聞い た。15年も続いた奉仕活動だ。形はどうであれ、是非、ミャ ンマーと日本の架け橋を継続し国際平和に寄与して欲しいと 切に願う。 訪問団長 近藤正俊



診療所の全景 玄関には「KIBOHクリニック」と掲示



棚には医薬品と医療器具



高齢者で混雑する診療所内 ボランティアの看護師もいる。

# ೨೧೨೧

# KIBOHクリニック

2013/1/26







玄関付近





オープンセレモニー・テープカット



現地協力者へノートパソコン・プリンターの寄贈



診療中のKIBOHドクター(1)



診療中のKIBOHドクター(2)

#### 第16回WCS活動事業報告

◎事業内容 奨学金の支給

◎寄付金の使途 クラブ奨学会KIBOH、あおい奨学会及び新設

された「ミャンマー・きぼう奨学会」から

の奨学金の支給

◎訪問目的 当クラブの奨学会から10名、あおい奨学会

から3名、ミャンマー・きぼう奨学会より新奨学生2名に奨学金(総額\$7,800)を

手渡しで支給する。

◎実施時期 2014年2月6日~11日

◎派遣会員 天野 邦彦 (国際奉仕委員長)

京幸一(WCS委員長)

田中 輝登 (元会長) 太田 政信 (元会長)

岡田 吉生 (元会長)

鈴木 昭弘

板倉 正直

本年2月に国際奉仕活動としてミャンマーへの教育支援活動を行った。5年前から岡崎城南ロータリークラブが行っている「人」への支援であり、医者を志す者に対して経済的に恵まれていない将来有望な学生に奨学金を支給している。

昨年までは、岡崎城南ロータリークラブの有志による「あおい奨学会」、創立20周年の記念事業として設立された「奨学会KIBOH」の奨学金を支給してきた訳であるが、今回ミャンマー人の参加を主体にした、「ミャンマー・きぼう奨学会」の支給も新たに行った。



この新しい奨学会は今まで主体として行動してきた岡崎城 南ロータリークラブから一歩進んだ形での奨学会であり、運 営の主体はミャンマー人自身が行い、現地ミャンマー人の支 援、一般の日本人の支援、加えて岡崎城南ロータリークラブ の支援から成り立つものであり、将来としては、ミャンマー 国内での奨学会の設立を目指すものである。



いかんせんミャンマー国内においてこの様な団体は認められていないのが現状であり、早急にとはいかないが、将来自立可能な出発では無いだろうか。

今回、奨学生と卒業生17名、現地協力者3名の参加による奨学金支給式であり、代表挨拶として太田政信氏、現地協力者のキンララモー氏への感謝に対して記念品の贈呈を田中暉登氏により開催された。奨学金の支給とスポンサーからのプレゼントも同時に手渡され、非常に喜んでいた。奨学金も嬉しいがプレゼントも楽しみにしている様だ。その後卒業生にも当クラブのスポンサーより主に医学関係のプレゼントがあり、出席卒業生に手渡された。

その後のビンゴゲームについては毎回の通り盛り上がりを 見せ、終盤には式典会場のウェイターまで参加して会場が一 体となった感じである。これも大事な国際交流では無かろう か。

翌日は奨学生等と市場の見学、パゴダのお参りを行い、 楽しい時間を過ごした。

今回、私天野がスポンサーであるテンリンアウンは公式 行事には都合で参加できなかったがヤンゴンで会う事が出

き、2年ぶりの再会を喜んだ。彼は日本語へ変換できるタブレット(スマートフォン?)を持ち、ぎこちないながらも会話を楽しむことができた。これからミャンマーはどんどん変わっていくことであろう。



奨学金支給式は、ヤンゴンから飛行機で1時間少々のバガンで行われた訳であるが、ヤンゴン到着時は夜間であり、バガンへの出発も早朝の暗い時間であった為、2年ぶりに訪問したヤンゴンの様子はあまり良く分らなかった。公式行事を終えてヤンゴンに帰って来た時には市内の車の多さに驚かされた。かつてはヤンゴン市内、もう少しのんびりした感じがあったが。バガンの雰囲気は変わっていなかった。しかしながら観光スポットの人(西洋人?)は以前にはあまりいなかったと感じたが今回は多い。お決まりのごとく、人の多い所の土産売りはしつこい。絵葉書売りの少女に30分近く付きまとわれた。(絵葉書は買わなかったが多分その金額以上のチップを同行の板倉氏と渡し、記念写真を撮らせてもらった)ミャンマーの奨学生がどの様に変化していくのか、ミャンマーと言う国がどう変化していくのか、楽しみである。



# ミャンマー支援 Q&A (1)

当クラブは本事業を毎年継続し、その都度、訪問メンバーから 当クラブメンバーに帰国報告や現地状況を伝えています。その 際メンバーから良く聞かれる事柄をQ&A形式でまとめてみました。

#### Q:なぜ、何時もわざわざミャンマーに行くのか?

A:毎回一人20万円もの旅費を掛けてわざわざ現地へ出向くのか? 図書館建設資金を振込等で海外送金すれば、用が足りるのでは?との声もありますがが、それには理由があります。ミャンマーは二重為替レートの国です。

公式レートは、\$1= 6.3kyat(チャット:現地通貨単位)、 しかし市場レートは、\$1=1,200kyat(2005/10月時点)です

これは、日本よりドャンマーの政府系銀行に\$4,000振り込みにをした場合、公式レートの適用となり、現地で受け取る金額は、

#### \$4,000×6.3=25,200kyat

にしかなりません。しかし直接我々が現地にドルを持参して両替すれば、市場レートになり(2005/10市場レート)

#### \$4,000×1,200=4,800,000kyat

にもなります。その差なんと190倍になります。ですから当然、市場レートで両替するためには、直接現地にドル現金を持ち込みする必要があるのです。

(注※なお、ミャンマー人が公式レートでチャットからドルへの両替は、6.3チャット=1ドルになるのですが、上限は約100ドルまでで、それも限られた一部の国民のみだそうです。)



500チャット紙幣、日本円で50円くらい。 国外には持ち出せない紙幣だ

また、ミャンマーーの般国民はドルキャッシュを持つことは法律で禁 じられていますので我々がチャットに両替して渡さないとこの活動で 現地協力者が罰せられることになります。

#### ②:なぜ、毎回図書館建設を現地確認に行くのか?

A:仮に市場レートで送金できるとしても、資金のみ送ればそれで良いのでしょうか? 現地ではこの図書館建設のために無報酬で多大な尽力をしていてくれる協力者がいます。その方々に直接、感謝の言葉を伝え、この寄付を受けた地元の高校にも図書館について今後の維持管理をお願いする必要もあります。つまり、奉仕活動はお互いに顔が見える奉仕が基本ではないかと思いま



ミャンマーは、多民族国家のため、信頼関係の構築は時間がかかる。時折、ミャンマーの方より日本人は信用しすぎと忠告を受けるが・・。

す、

ただ、当初はクラブからの貴重な資金を無駄にした〈ない気持ちと、本当に図書館を建設して〈れるのだろうかとの不安もあり、そのチェックのため再訪問していたことも事実です。

尚、この渡航費用は、すべて訪問メンバーの自費であることも付け 加えておきます。

#### Q:なぜ、複数メンバーで行くか?

A:これもミャンマーの為替に関する規定があり、ミャンマー国外から国内への持ち込みは現金1名\$2,000の制限があります。よって、我々の旅費も各自\$1,000位持ち込みますので、例えば\$4000の図書館建設資金をミャンマー国内に持ち込むためには最低4名のメンバーが必要になります。また、現金\$2000以上国内に持ち込むためには、入国時に申請をして制限の解除の許可を受け、ミャンマー出国時に支払った全ての領収書を出入国管理官に提出する必要があり、尚かつ支払先にもそのための政府の許可が必要とのこと。我々民間レベルの活動には、その許可を受けることは非常に困難と思われます。よってこの制限をクリアするための対応策です。



#### (入国時の税関申告書)

下段に2000ドル以上の持ち込みがあるかの質問がある。 時折、入管で検査があり持ち物全てをチェックされる。

最近はなくなりましたが、以前時計、カメラなど全てを申告し、帰国時にチェックがあったこともありました。

#### Q:今の状況は?

A:ご存じのようにミャンマーは軍事政権で、法律は突然変わる事がしばしばあります。ミャンマーでは、州または管区(県に相当する行政区)により法律も異なり、最近ザガイン管区では、我々の奉仕活動についての寄付金を行政(政権)が経由に管理するような規制が出来て、この事業継続が困難になりました。

現地協力者も我々の寄付資金が、満額現地に交付される事に疑問を持っていて、事業継続は無理であることを伝えてきています。又、他管区及び州でもこのように規制される方向だそうです。

#### Q:ミャンマーの治安は、安全?

A:現在の軍事政権のお怪我かもしれませんが、治安は良く安全な国と感じます。ただ置き引きやスリなどの犯罪は多くあるようですが殺人事件など重大事件は少ない国とのことで、8回の訪問でも治安に関しては問題はありませんでした。タダ、インフレが、激しく庶民の暮らしは苦しくなっているため犯罪は増加傾向にあるようです。

## ミャンマー支援 Q&A (2)

#### Q: 今までに支援した事業と総額はどのくらいになりますか?

A. 下記の表が、本クラブ等から支出した年度別費用です。

2013年2月:現在

回	年度	事業内容	対象地	事業金額	他の寄付種類	寄付金額
1	1999	教育環境整備(道路建設費)	ヤンゴン	\$2, 500		\$0
2	2000	教育環境整備(講堂改修費)	ヤンゴン	\$2, 500	奨学基金(個人寄付)	\$600
3	2001	第1図書館建設(半額)	シュエボ	\$2,000	図書購入費(個人寄付)	\$1,000
4	2002	第1図書館建設(半額)	シュエボ	\$2,000	図書購入費	\$1,000
5	2003	第2図書館建設	シュエボ	\$4,000	孤児施設へ	\$700
6	2004	第3図書館建設	ノースダゴン	\$4,000	図書購入費(個人寄付)	\$1,000
7	2005	第4図書館建設	シュエボ	\$4,000	図書購入費	\$1,000
8	2006	第5図書館建設	マグエ	\$4, 500	図書・文房具購入費	\$1, 780
9	2007	井戸給水施設整備	マグエ	\$4,000	図書購入費	\$1,000
10	2008	教育環境整備(道路整備費)	シュエボ	\$4, 500		\$0
11	2009	奨学金 2名	シュエボ	\$1,000	図書・文房具購入費	\$2,020
12	2010	奨学金 4名	シュエボ	\$2,000	図書購入費	\$780
13	2011	奨学金 6名	シュエボ	\$3,000		\$0
14	2012	奨学金 8名	シュエボ	\$4, 200		\$0
15	2013	奨学金 10名	シュエボ	\$5, 800	診療所建設資金 (会員有志から)	\$16, 700
計				\$50,000		\$27, 580

(注)上記11,以降は、当クラブ特別会計「奨学会KIBOH」から医学生に支給した奨学金額

#### KIBOH clinicについて

ミャンマーの医科大学は卒業後公務員となり3年間 僻地医療従事が入学の条件となっている。

しかし2010年以降、医療機関が増えず,公務員医師の定員も増えなく、民間病院も少ないため医師資格を取得し卒業しても就職口が無い状況が続いていた。

2012年には、政府から未就職の医科大卒業生に対し4-5年間の自宅待機の指示が出され、国内に約2400人の自宅待機組が生まれた。

彼らも生活があり、また医療の道を継続するため,個々に小さな診療所を地元で開設している。

そこで「あおい 奨 学 会」メン バーで卒業生達がこの自宅 待機期間中に共同で働き 医療に従事でき、若干の所

得を得られるよう 共同診療所を建 設した。

奨学会の名に合わせKIBOHクリニックと名付けた。



#### Q: 奨学会KIBOHは、2009年にクラブの奨学金制度となりましたが その前身の「あおい奨学会」は、今までどの程度の奨学金を支給 していますか?

A: 下記が2012年度までに「あおい奨学会」から支給した年度別奨学金支給総額です。 また、同奨学会は現役学生に対しに卒業するまでの期間は奨学金を支給する約束をしています。

#### <あおい奨学会年度別支給金額>

年度	奨学生数	支給奨学金	備考
2000	1	\$220	医学生1年間\$200の支給。当時はこの金額で生活できた
2001	3	\$660	
2002	5	\$1,750	インフレのため年\$300に増額、
2003	6	\$2,000	
2004	6	\$1,800	4~5年生\$400に増額支給とした
2005	7	\$2, 300	
2006	9	\$3,000	研修医期間1年\$200を支給開始
2007	9	\$2, 700	
2008	9	\$4, 500	1~3年生\$500、4~5年生\$600、研修医\$300に増額支給とした
2009	9	\$4, 900	
2010	10	\$4, 900	
2011	7	\$3, 400	
2012	5	\$3,000	就学期間延長(1年半)のため5年生のみ\$800とした
2013 (予定)	(4)	(\$1, 900)	
2014 (予定)	(1)	(\$300)	
計 (予定を除く)		\$35, 180	

- (注) この奨学金の原資はすべて会員有志個人の寄付。
- (注) 奨学金は当初200ドルでスタートした。、この金額で授業料、食事など最低限学生生活を 送ることが出来た金額であったが、以後、ミャンマー国内のインフレにより生活費等が増大 し、授業料も値上がりしたためその時代に合わせて増額をしていった。

#### ● あおい奨学会メンバー数の推移

2000	'01	'02	'03	'04	'05	'06	'07	'08	'09	'10	'11	'12	'13
4	4	7	9	9	11	16	19	22	23	23	23	23	23

## ミャンマー支援 Q&A (3)

#### Q: ミャンマーの大学入試はどの様になって いますか?

A. 現地発のブログより関連記事があったのでご参考に・・・。

2010年2月18 日発行のBI WEEKLY ELEVEN NEWSより

ミャンマー人の人生を決めると言ってよい全国統一大学入学 資格試験が3月に行なわれるが、昨年度の人気大学のラン キングが出ていた。

また、全体的に男子よりも女子の合格ラインが高くなっていて、女子は高得点を取らないと希望の大学に行けない。この試験は6科目で、文系と理系では科目が異なっている。最低点は240点だが、1科目でも40点を満たないと240点以上でも不合格となる。

合格ラインのトップは医科大学(女子)の490点で、医科大学に入学する女子はミャンマーではトップ、本当のオ媛なのである。 やはり女子の方が真面目に勉強しているようだ。

商船大学のランクが高いのも興味深い。これは在学中に給料も出るし卒業後、船員になることができるので就職しやすい大学に人気が集まる傾向がある。

参考:2008年度、ミャンマー人気大学の合格ライン(600点 満点)

#### 医科大学 458(男) 490(女)

歯科大学 447(男) 485(女)

薬科大学 467

医療技術大学 453

看護大学 424(男) 453(女)

基礎健康大学 426(男) 450(女)

漢方薬科大学 422

商船大学 481(男) 485(女)

航空大学 430

コンピューター大学 365

経済大学 300

工業技術大学 320(男) 330(女)

教育大学 398(男) 443(女)

外国語大学(英語) 486

外国語大学(日本語) 472

外国語大学(中国語) 470

外国語大学(仏語) 455

外国語大学(韓国語) 453

外国語大学(独語) 444

外国語大学(露語) 437

以上、もちろん全て国立大だ。ミャンマーには私立大学はない。

また、ミャンマーの医科大学は、ヤンゴンに二校、マンダレーに一校、そしてマグエに一校とミャンマー国内に四校しかない。

そのため4大学で全国の一学年約2,600名の定員だから入学の門戸は非常に狭い。そして出身高校により進学する医科大学は定められている。よって医科大へ進学できる学生は、統一試験で地域のトップクラスばかりが集まることとなる。

つまり、全国統一大学入学資格試験の成績順で進学できる 大学が決まり、成績上位から医科大、歯科大、・・・の順となる。よって、日本で言う大学入試はない。

医科大では、毎年進級試験があり、2年留年すると退学処分となる。修学期間は6年間、授業も長時間で半年毎に試験もあり、単位取得のためアルバ介などする時間は全ない。、また、医科大の授業料も最近値上がりしたようで年\$1000程度と聞いている。そして5年生を終了しその後研修医として各病院に配属され、そこで1年間勤め晴れて卒業、医師免許を取得できるが、卒業後僻地医療へ最低3年間の従事が義務となっており、その義務を果たさないと開業など出来ないようだ。

また日本で言う眼科、内科などの専門医になるためには、上記の僻地医療従事義務を勤め上げ、且つ再度大学に戻り修士課程3年を修学しなければならない。よって、開業医になるためには大学卒業後早くても7年以上もかかり独立開業はなかなか難しい。

この医療従事義務派遣に対し、特に政府当局からこの僻地 医療病院への指定が遅く4-5年間もの長い間、自宅待機期間があるようで向学心に燃えた医者の卵達にとっては無駄な時間を過ごさざるをえないようだ。

よって、最近では医科大を卒業しても医師として開業の道が遠く難しいので、優秀な若者は結局、医師にならず、海外でビジネスや他の職業に就くなど頭脳の流出が多いと聞く。こんなところでで政治は若者と深く結びついていることを知った。



臨床研修中の医学生達















「ありがとう」と言っていた この子たちの嬉しい笑顔を いつまでも 忘れないようにしたい。

### 感謝とお礼



#### 2001年3月

Dr. キョー キョー モー (元米山奨学生) カイン カイン シュエ(奥様)

私は、日本に滞在しているミャンマー出身のカインカインシュエと申します。日本に来て11年になりました。主人のキョーキョーモーさんは、ロータリークラブの米山奨学金のお陰で名古屋大学の博士号を収得し、現在日本の住友ベークラ仆(株)に研究員として働いています。米山奨学金を貰った時、お世話になった岡崎城南ロータリークラブを主人とともに感謝しています。今年2月にお世話になった岡崎城南ローターは、私が卒業したミャンマーのシュエボー高等学校(第1)に寄付しました。心から感謝しています。今年でミャンマーへのWCSは3回目です。

シュエボーはミャンマーの第二の町マンダレーから150キロ位離れている小さな町です。ミャンマーの第三王国を確立した王様、アラウンフヤーは、シュエボー生まれです。シュエボーの町には、このアラウフヤー王様の美術館は有名です。

現在、シュエボーの人口は8万人位です。殆どの人は、農業や商売人が多いです。一般の市民の生活に、余裕はなく、一ヶ月の平均収入は3千円位です。ですから市民の人達は、自分の収入で自分達の生活のために精一杯です。つまり学校に寄付することは、無理な状況です。

今年2月、シュエボー高等学校が、岡崎城南ロータリーWCSの寄付金で図書館を建立することになりました。私は小学校から高校卒業までシュエボー第1に通っていましたが、図書館は、ありませんでした。シュエボー町にある学校の中で図書館が出来たのは、これが初めです。地元の皆さんは大変喜んでいます。私も学校へ通っていた時から、学校に図書館が、欲しいなーとずっと思っていました。今回、夢が叶いました。岡崎城南ロータリークラブの皆さんに心から感謝しています。学校の先生たちや学生達や親たちを含め、皆さんも大喜んでいます。

また、今年城南RCのWCS活動は、寄付金だけでなる古着も 寄付しました。有り難う御座います。私はシュエボーに住んでいた 時、印象に残ったのは近所に住んでいる貧しい家族の子供の ことです。暑い時でも、寒い時でも裸で、私が何で服着ないのと 聞いたら、着る服が無いからこのままですと答えました。

それで、今年2月に学校への寄付金と同時に古着も寄付したい気持ちもあったので岡崎城南ロータリーの一部の会員に頼みました。ミャンマーでも貧しい人達を、支援する団体が現地にありますが、資金がなくてなかなか効率良くできなかったです。今回の古着は、この団体を通して子供達に配りました。

最後に、私から岡崎城南ロータリークラブの会員達にお願いがあります。13年前最貧国になったミャンマーのために学校の寄付金を始め、古着、文房具、本、家庭用品などを捨てずに集めて欲しいです。

これからミャンマーの方に、色々な物を寄付しながら日本とミャンマーの交流も広げたいと思っています。宜しくお願いします。

(記:カインカインシュエ)

皆さんお久しぶりです、私は元米山奨学生のミャンマーから参りましたキューキューモー(Kyaw Kyaw Moe)と申します。現在、住友ベークライト (株) に研究者として在籍しております。学生の時のことを思い出すと、岡崎城南ロータリークラブに感謝の気持ちが一杯です。もし、私はロータリー米山奨学会から奨学金からもらわなかったら博士号を取ることも出来なかったです。今はロータリー米山奨学会のお陰様で私の夢もかないました。

私は奨学金もらった時、何故留学生たちにただでお金あげてるかなとおもったんですが、今、就職してから冷静で考えて見ますと、皆様の生活が楽になる為、大事なことは教育、または技術であることが分かりました。それで、途上国からの留学生たちに奨学金を与えることは立派なことであることが分かりました。人々は地球に住んで、この地球にある資源を優れてる技術で有効に使えばもっと豊か生活になると思います。しかし、現状では先進国と途上国の間では差が激しく、途上国では技術の面で遅れてる部分もあり、この国の人たちにもっと教育に力を入れる必要があると思います。

母国、ミャンマーは日本と比べると経済的、技術的、教育レベルも遅れているのは間違いまりませんが、これから遅れている母国の教育に力を入れなければならない。母国では、まだ学校へ行きたいけと行けない子供達が沢山います。岡崎城南ロータリークラブから毎年ミャンマーの学校に寄付金を与えてることにとって感謝の気持ちが一杯です。今年、岡崎城南ロータリークラブの一部有志のメンバー達が創立したAMFS(AOI MYANMAR FOUNDATION SCHOLARSHIP)はミャンマーの学生達にとって、国にとって幸いなことです。心から感謝しています。私もいつかは一人のメンバーになり、国の教育に力を入れたいと思っています。

ロータリー米山奨学会から奨学金をもらった時から私の新しい夢"ミャンマーでロータリー奨学会を創立"ことをいつか実現出来るように頑張りますので岡崎城南ロータリーの皆様、ご協力お願いします。 (記:キョーキョーモー)

#### <略歴>

- 京 幸一氏(キョーキョーモー) 1963年5月生まれ
  - ・ヤンゴン大学修士課程修了
  - •名古屋大学大学院博士課程終了
  - •1998年工学博士号取得
  - ・2008年日本国籍に帰化
- 京 ゆり夫人(カインカインシュエ)
  - ・ヤンゴン大学経済学部卒業
  - ・ヤンゴン税務署、日系企業勤務経験有り

# ミャンマー教育事情

ミャンマーという国の地理的特徴は、世界で最も人口の多い 中国とインドに国境を接しているということ、つまり両国から歴史的 にも文化的にも多大の影響を受けているということであります。三 次にわたるイギリスとの戦争で1886年には英領インドの一州と なり、1935年に分離されるまでインドに属していました。これはイギ リスから分離独立したパキスタンと比較してみると実に興味深く、 ミャンマーの宗教は国教としての仏教、パキスタンの国教はイス ラム教であり、これらの国の人々の生き方に大きな影響を与えて います。体制はいずれも軍事政権。これらの国々はイギリスの植 民地政策が最も過酷に実行された国でもあり、その影響は今 日もなおあらゆる分野に大きな影を落としています。それは特に 基礎教育体制がしっかルと確立していないこと、つまり義務教育 体制が確立していないことが最大の深刻な課題であります。 しかし、ミャンマーでは伝統的に僧院での寺子屋式教育が普 及し、また歴代政府がミャンマー語の普及に務めてきたため、識 学率は約83%と開発途上国の中では高い水準です。

ミャンマーの学校はすべてが公立校で、1年間の幼稚園課程を含む小学校が5年間、中学校が4年間、高校が2年間、大学が4年から6年間となっており、義務教育制度はありません。小学校から毎年進級試験が行われるため、かなりの生徒が留年したり、退学することになります。

授業は月曜~金曜日の午前8時40分から午後3時20分までで、1日に8つの授業があります。学年によって3~6教科を履修しますが、すべて必修で選択科目はなく、また、体育、音楽、家庭科、技術は履修科目に含まれていません。

校則により、制服は上が白のシャツで下が緑のロンジー(ミャンマー特有の腰巻きスカート)。 髪形は短髪のみで、アクセサリーを身につけることは認められていません。なお、4月~5月の2カ月間が長期休暇で、10月と12月に10日ずつの休みがあります。

ミャンマーでは、前述のごとく義務教育でないため、都市部と異なり、農村に行と経済事情で学校に行けない子どももまだ多い。ま

た、学校も少ないために小・中・高が同じ教室を使用していることも多く、午前は高校生で、午後は小・中学生のような、二部制をとっていることも多い。そのため、一概にはいえないが、観光



平日パゴダ(寺院)で絵はがきを売る少女達。 学校には行きたいと言っていた。(2001年撮影)



図書館建設資金寄贈式の時、外には学校に行けない子供達が集まっていた。(シュエボ第しく、国内に大きな産業2中学校・2002年撮影)

地でPOST CARD などを売っている子達 の中には、学校に行っ ていない子も少なない ようです。

また、所得面から見ると、ミャンマーは世界最貧国の一つになっているように貧富の差が激しく、国内に大きな産業もないため就労先も極端になく、多くの国民の

所得は低く、この国はごく一部の富裕層と大多数を占める低所得者層で成り立っていて、中間所得者層はないと言われています。



送迎の車(バス、トラックバス)などが道路をふさぎ、交通渋滞が 社会問題となっています。そこで経済的理由で学校へ行けない子供達の初等教育は、僧院が学校代わいになっているのが 現状で、大学については、全て国立校で入学試験はなく、高 校時の成績により進学先が振り分けられ、上位は医科大学、 次に工学系、その次は経済系と進学先が決まる。授業料は 年間100ドル程度ですが、農村部では富裕層を除く平均所得



医科大の女子大生:ミャンマー国内 には医科大は4校しかない。各校の 入学生は、毎年250名程度とか。

は年間200ドル位ですから、 国立大といえども大学進学 には経済的な負担は大きく、 進学をあきらめている多くの 優秀な学生も多い。また医 科大以外、国内企業が少 ないため卒業後の就職口 は、厳しいようです。

さて、ご存知のとおり、ミャンマーと日本は、戦前・戦後を

通じ政治・経済上はもとより、文化及び人的交流においても大変深い繋がりがありました。しかし、残念ながら現在は、政治的理由から一部の人道的援助以外の政治間援助は停止された状態にあり、大半の国民は劣悪な生活環境を余儀ないされております。このような中においても有為の若者達は向学の志を持ち続け、大学入学へのチャンスを待っております。ミャンマーが真に民主化の道を歩み始めるには、このような若者に多くの知識を得て貰うことが最も早く、且つ力強い発展に繋がるものと考えます。

# ミャンマーの仏教と僧院学校



ミャンマーのシンボル・シェッダゴンパゴダ

ミャンマーは、国民の90%近くが敬虔な仏教徒で、市民生活の中にも仏教が生きており、お寺や仏塔を建て来世への功徳を積むという思想はいまでも強く残っていて、ミャンマー各地に仏塔がいたるところにみられます。また、ビルマ族の社会では、その大多数を占める仏教徒は男子は一生に一度は出家し、得度してお坊さんになり、修業しなければならないことになっています。これは短い間でもよく、一時的な出家なのですが、とてもマジメできびしいものです。日本でいう三日坊主とは全く違うマジメなものです。

仏教徒の殆どが週に一度は必ずパコダ(仏塔)へお参りに行く。お参りに行く回数はその人間のバックグランドにより異なり、貧しい者ほどその回数は多い。日本でいう"困った時の神頼み"ではないがミャンマーという国においてお金持ちはお金持ち、貧乏人は何ら奇跡が起きない限り永遠に貧乏人なのである。故に現世で不幸せな分せめて来世ではという儚い願いがその行為に込められています。

ミャンマーの仏教は、小乗仏教(上座部仏教)であり、信仰は土着の聖霊ナッ神に現世利益を願う。来世の幸せを日本では大乗仏教の阿弥陀如来か観音にお願いするが、こちらでは釈迦にお願いしている。日本や中国に広まった大乗仏教が大衆救済を重視しているのに対し、上座部仏教は個人の修行を重視します。そのため、修行者である僧侶は人々の尊敬を集めているし、僧侶やパゴダに対する喜捨も在家の務めとして盛んであります。この壮麗な黄金のパゴダも、すべて在家の人々の布施によって建立され、維持されているという。決して経済的に豊かではないミャンマーの人々がなぜこれほどまでに喜捨をするのか、なかなか想像がつきません。しかし、ここで





托鉢の少年僧達

敬虔な祈りを捧げ、尊い存在に対して自分の財産を差し出す人々の姿は、理屈ではなどでも美しいと感じます。小乗仏教は「自己の救済」を意味するどされているが、少なども、先祖供養や葬式の時くらいにしか登場しない形骸化した日本の仏教に比べれば、はるかに人々の生活の中に良い形で溶け込んでいるように思われます。



また、ミャンマーでは僧院とその地域住民とは密接に関係し、伝統的にノンフォーマル教育として僧院学校が初等教においては重要な役割を果たしてきました。仏教の生活習いました。仏教の生活の寄れる世界がランティアによって運営される僧院学校は裕福でない場合でもないでもを受け入れて指導を行りているため、特に地方では今日においても基礎教育の場としてにおいても基礎教育の場として

重要な役割を担っているのです。ただ、学用品や教材、教科書など非常少なく、学校教育とは隔たりがあるようです。

特にミャンマーでは学用品が圧倒的に不足しています。紙そのものの供給量が少ないため、ノートの換わりに石版使う学校もあります。教育現場の慢性的な物資不足を少しでも解消し、子どもたちの教育環境の整備が急務となっています。



寺院には少年僧が多いる



尼僧の托鉢(少女も多い)

# 岡崎城南RC奨学金制度 奨学会KIBOHの創設

# 2008年10月. 当クラブ独自に奨学金制度を創りあおい奨学会と一体化し、医学生の支援拡大を計る。

我がクラブは1998年よりミャンマー教育支援プログラムを継続している。

そのプログラムは教育環境の整備として、ミャンマーに講堂の修復、図書館の建設、給水施設整備、道路整備など主に建設・建築においての支援をしている。またこの建設工事に伴い現地での雇用促進など多面的にも意義がある事業であったことは間違いない。

これらは歴代会長の理解と推進により継続されているため 2760地区でも高い評価を受け、この活動が城南RCのワンクラブ・ワンカラーにむっている。しかし、ミャンマーは高温多湿の国で雨期は5ヶ月間続き、建物は予想外に傷みは早く来る。よって、図書館数が増えると多額な補修費が必要になり、政府からの補助は当てにならないため、多分その要請が寄贈側の当方に来ると思われるが当クラブとしては負担できないであろう。

そこで、今の機にミャンマー教育支援プログラムを「箱物作り」から、「人作り」にシフトした方が事業の継続性から見て好機ではないだろうか。

そこで、当クラブ創立20周年記念を機に「奨学会KIBOH)」を創設し、現在のWCS活動費を奨学金として現地の経済的貧困から大学に進学できない貧しくても優秀な学生に医科大学進学から卒業までの資金援助をすることで「人作り」に寄与できる方向に転換することになった。

#### (奨学会KIBOH制度の概略)

- 1. 本制度は、2009年より5年間とする。以後の継続は該当年度の理事会で協議
- 2. 奨学生は医科大進学の学生を対象とする。対象国は特定 せず門戸を広げるが現地に協力者または世話人が居ることを 条件とする。
- 3. 入学から卒業までの6年間支給、留年した場合は支給を停止する
- 4. 奨学金はドル建てで1年間1-3年生は\$500、4-6年生は \$600を現金で支給。
- 5. 奨学金の支給時期は、毎年1月または2月とし、支給方法 は持参又は送金とする。
- 6. 毎年2名の奨学生を選考し、本制度2009/1/1より開始 する
- 7. 奨学生の選考は、現地協力者経由で校長推薦のある学 生よU2名を選考する。
- 8. 奨学生には、半年に1回レポートを提出させる(支給条件)
- 9. 所管委員会はWCS委員会とし、当該年度の国際奉仕・WCS委員長が卒業まで各奨学生の担当となり学生のレポート受け取りなど行う。
- 10. 奨学生達より届いたレポートは、会報等に掲載する。

11. この奨学会のカウンセラーとして京幸一氏に依嘱。

尚、この制度運営は前述の「あおい奨学会」がすでに発足から 9年経過し、現在学生13名の面倒を見ている実績もあるためこの「あおい奨学会」と一体化した奨学会として運営することになった。

但し、会計的にはそれぞれの資金で奨学金を支給しているため



2005年 パガンにて奨学生達と共に



2009年奨学生と共に



2010年 卒業生と奨学生と共に:ヤンゴンにて

奨学会KIBOH 資金推移表(10年間のシミュレーション)

校入

Section 1998											The second secon
年度	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	総額
収入(WCS資金)	000'005≭	#500,000	#500,000	#500,000	#500,000	¥430,000	0*			· ·	
20周年記念資金	000'00/±										
収入合計	¥1,200,000	#500,000	#500,000	#500,000	#500,000	¥430,000	0#	0#	0 <del>*</del>	0*	#3,630,000

文出	※1-3年生は年\$500支給、4-5年生年\$600、研修医1年間\$300の支給とする。	年\$500支給、4	1-5年生年\$6	00、研修医1:	年間\$300の支	給とする。		<b>\$</b> !=	\$1= ¥110	10	
年度	2008	5008	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	総額
獎学生1	#55,000	#55,000	#55,000	±66,000	000'99 <del>*</del>	000°EE±					¥330,000
奨学生2	000'55±	#55,000	000°55±	000'99 <del>*</del>	000'99≢	000'€€₹			5		#330,000
獎学生3		#55,000	±55,000	#55,000	000'99 <del>*</del>	000'99≢	¥33,000				¥330,000
獎学生4		#55,000	#55,000	¥55,000	000'99 <del>*</del>	000'99*	¥33,000				¥330,000
奨学生5			±55,000	#55,000	±55,000	000'99≢	±66,000	¥33,000			¥330,000
奨学生6			#55,000	#55,000	±55,000	000'99*	±66,000	¥33,000	S. 50		#330,000
獎学生7			,	#55,000	#55,000	000'55*	000°99≠	±66,000	000'££≢		¥330,000
奨学生8				¥55,000	₹55,000	000°55≠	±66,000	±66,000	#33,000		¥330,000
奨学生9					±55,000	000°55±	¥55,000	±66,000	000'99 <del>*</del>	000'££≢	¥330,000
獎学生10		8 2	3 3	9. 1	#55,000	000'55*	#55,000	#66,000	000'99*	000'€€*	¥330,000
運営費	¥20,000	¥20,000	¥20,000	¥20,000	¥20,000	¥20,000	¥20,000	¥20,000	¥20,000	¥20,000	¥200,000
支出合計	¥130,000	¥240,000	#350,000	¥482,000	¥614,000	#570,000	¥460,000	#350,000	¥218,000	000'98 <del>*</del>	#3,500,000
単年度収支差額	¥1,070,000	#260,000	¥150,000	¥18,000	¥-114,000	¥-140,000	¥-460,000	#-350,000	¥-218,000	000'98-*	¥130,000
繰越額	¥940,000	¥1,200,000	¥1,350,000	¥1,368,000	¥1,254,000	¥1,114,000	¥654,000	¥304,000	±86,000	0 <del>*</del>	

<sup>※1</sup> 奨学生は2012年まで毎年2名を認定する。以後、奨学生認定は停止し奨学金支給のみとする。

<sup>※2</sup> 毎年、WCS活動費50万円を奨学金に充てる。不足分は周年記念事業資金で補填する。

<sup>※3</sup> 運営費は、現地との電話代、郵送費等及び送金に必要な経費

# 岡崎城南RC奨学金制度 奨学会KIBOHの奨学生

2009年より当クラブ「奨学会KIBOH」が支援している10名の医学生達をご紹介します。 支援対象地区のミャンマー・ザガイン管区シュエボに五つの高校がありますが、その中から家庭的事情 で我々の支援がないと医科大へ進学できない成績優秀で、且つ学校長の推薦を受けた多くの高校生 より本会が選考した学生達です。2012年度まで毎年2名の医学生を受け入れ、計10名となる。

### 2009年

Khine Tahazin Win カイ タジン ウィン Institute of Medicine, Magway マグェ医科大学 5年生 担当スポンサー: 永田 裕氏



とてもおとなしく気持ちの優しい娘。

体は、まだまだ成長過程、 年々大きなりそう。もちろん 肌色も白くなるでしょう。



### 2009年

Yadana Swe Swe Phyo ヤダナ スイスイ ピョウ Institute of Medicine, Magway マグェ医科大学 5年生 担当スポンサー: 田中暉登氏



遠慮がちな性格で素直な 明るい子。

覚え易いお名前だが、ヤダナの意味はは宝石だとか。

### 2010年

Aye Min エイミン Institute of Medicine, Magway マグェ医科大学 4年生

担当スポンサー: 鈴木 豊氏



気の弱い感じがするが高 校時代管区内で成績上 位。

日本人と会うのも話すのも初めてだった。



### 2010年

Htet Arkhar Kyaw テッアカー チョウ Institute of Medicine, Magway マグェ医科大学 4年生 担当スポンサー: 市川聰明氏



はし-今 なよ

イケメンで温和しそうだが芯はしっかりしている。

今時の若者で音楽が好きなようだ。

### 2011年

Thet Hnin Ei テッイ ニン イ Institute of Medicine, Magway マグェ医科大学 3年生 担当スポンサー: 岡田吉生氏



童顔の残る少女のような 学生。 成績優秀で当該年度申 込学生の中で成績トップ



# 岡崎城南RC奨学金制度 奨学会KIBOHの奨学生

### 2011年

Zaw Thant Khaing ゾーテッイカイン Institute of Medicine, Magway マグェ医科大学 3年生 担当スポンサー: 永井量基氏





生まれて初めて日本人を 見たそうだ。だから初対面で は、かなりの緊張であったが 直ぐに打ち解けたようだ。

### 2012年

Nyein Yu Wai ニャイン ユ ウエイ Institute of Medicine, Magway マンダレー医科大学 2年生 担当スポンサー: 板倉正直氏



物静かでシャイな女の子。 しかし、真は気丈そうだ。 いずれ成長し立派な女 医さんになることが期待できると感じた



### 2012年

Aung Pyae Moe アウンピュエモウ Institute of Medicine, Magway マンダレー医科大学 2年生 担当スポンサー: 松永茂夫氏



医師になることが将来の夢と語っていた。 奨学金を受けることが出来 てとても幸せだとも言ってい た

### 2013年

Pyae Phyo Thant ピュエ ピュー ティン Institute of Medicine, Magway マンダレー医科大学 1 年生 担当スポンサー: 永谷和之氏



驚いたことに日本語が話せる才女であった。 日本語を数ヶ月間学んだと言っていたが、かなり堪能。可愛い17歳



### 2013年

HIwan Htat Aung ルエン テッ アウン Institute of Medicine, Magway マンダレー医科大学 1 年生 担当スポンサー: 小林通利氏





17歳でも大柄の髭ズラ。将来の夢を叶えるため医科大へ入学でき、幸せ一杯とか。 日本人に初めて合い、緊張の連続だった。

※ 奨学会では各学生に対し担当のスポンサー(会員)を委嘱しています。学生から 各スポンサーへは手紙,電子メールなどで近況や報告などが届きます。学生に対し 心の支えになって頂き、且つ彼らと交流をお願いしています。

# Abb 受学金制度 あおい 奨学会について

### (クラブ奨学金制度設立以前のもの)

ミャンマーは、アセアン諸国でもっとも貧しい国と言われ、一般国民は、極貧の生活が続いております。家庭の経済状況から進学や就学をあきらめる優秀な学生(高校までは授業料も安く寺院などのボランティア教育もあるそうです。)も数多く、就職しざるおえないとのこと。

ミャンマーの進学制度は、日本と異なり、高校の成績が、優秀であれば大学進学は保証されている。成績順に医科大学、工学大学、経済大学、一般大学と振り割けられる、特に医科大学(ミャンマーでは4つしかない医科大学)は地域的学区制があり、その地域の高校成績上位者、一大学250名が、そのエリアの医科大(6.5年間)に進学できます。

しかし、成績が優秀でも経済的に困難な家庭の子女は、進学をすることをあきらめたり、折角入学しても退学者が数多く出たりしているそうで、学校・父兄・同窓会も募金を集め就学の支援をしていますが、近年、ますます貧富の差が激しく、多くの学生が困窮している現状です。

そこで、ミャンマーの向学心に燃える優秀な大学生を入学から卒業までの期間、物心共に支援し、日本に対する理解と友好、世界平和を計る目的で、この私設奨学会「AMFSアムス」を創設いたしました。

#### なぜミャンマーか?

ミャンマーは、日本との経済格差が大きく、円の価値が最大限に有効利用できる国と考え、「少ないお金で大きな効果」が期待できると思います。(他国であると我々の負担が多額になり、個人の立場では実践できないと思われます。)

# AMFS

さて、ミャンマーの学生は、1名当たり年間US\$300の学費があれば、安心して勉学に励むことが出来ます。

数度のミャンマー訪問により、以上の実情などが解ってきたので、常連の訪問メンバー4名で下記のような私設奨学金制度を創設することとなりました。この制度は、基本方針として誰でも入会でき、あくまでもポケットマネーで奨学資金を提供することを原則といたしました。

#### ○奨学金制度の概要

(会員)

本会会員は、下記の3種とします。

- ・会員 下記所定の年会費を納入するもの
- ・スポンサー会員 下記年会費と別に特別奨学金を納入

・賛助会員 本会の趣旨に賛同し、寄付金を納入するもの

#### (会 費)

会員・スポンサー会員は、毎月5千円の会費を負担いただきます。この会費および寄付金は、本会運営費・下記1.の奨学資金に充当します。

#### (奨学金)

#### 1. 奨学資金

会員より奨学資金(元金取り崩し方式)として会費を徴収し、その資金から奨学生に奨学金を支給します。

つまり本会がスポンサーとなり、城南ロータリークラブWCS活動対象高校卒業の学生を、選考し奨学生(専攻は問わない)として入学より卒業まで年間US\$300奨学金をこの奨学資金より支給する。(資金額により奨学生の人数は別に定める)以下、この資金による受給学生を「あおい奨学生」と呼ぶ

#### 2. 特別奨学金

上記以外に、スポンサー会員は、会員1名が一人の学生を (一般大学4年間、医科大学6.5年間)支援します。 (もちろん複数の学生も可)

単年度のみの奨学金では、学生は安心し勉学に励めれませんので、卒業まで奨学金とし年US\$300を支援いただき、学生に支給します。ただし当初の1年目終了時に、その学生の就学状況等を把握し、正当な理由が有れば中止することも出来ます。以下、受給学生を「特別奨学生」と呼ぶ。

#### (条件と審査)

#### 1. 対 象

- ① 裕福な家庭の子息子女はこの制度の対象としない。
- ② 真面目に勉学を継続する学生であり、経済的に就学の 継続が困難と思われる学生とする。
- ③ 簡単な日常英会話が出来、かつ日本に興味にあり将来 自国の平和に貢献する学生とする。
- ④ 性別は問わない

#### 2. 条 件

- ① 上記1.2の奨学生は、奨学金受給中に日本語の習得を 条件とする。
- ② 奨学生は、奨学金受給期間中6ヶ月毎に本会、又は各スポンサー会員へ報告書を送ること。
- ③ 奨学生は、本会関係者が自国に訪問したときは面 談し近況報告をしなければならない。

スポンサー及びその関係者がミャンマーに訪門した際には、その 学生の就学状況、日本語学力を採点し、本会が、奨学支援 の継続或いは中止を決定することが出来る。

また、スポンサー又はその関係者がミャンマー訪問時には、その 奨学生を通訳兼ガイとして採用し、国際理解のために交流を 図ること。

#### 3. 審 查

あおい奨学生の場合、対象高校の推薦等により対象となる 学生の紹介を受け、その中から本会が、面接・書類審査等 により選考し、決定する。特別奨学生の場合は、本会が募集 し、その中より各スポンサー会員が面接・書類審査等により選 考し、決定する。この審査を本会がスポンサーに替わり行った 場合、スポンサーは、それを容認する。

また、本会の奨学生として選考された場合、その学生に記念品を贈る。

#### ○本会の状況

2001年にこの制度を4名で発足し、下記の学生に奨学金を支給している。

2001年 マンダレ-医科大学 1名(07年卒業)

シュエボ大学工学部 1名(05年卒業)

2003年 モンユワ大学経済学部 1名(修士卒業)

2004年 マグエ医科大学 2名(08年卒業)

2005年 マンダレー歯科大学 1名

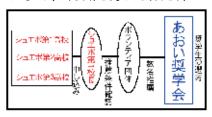
2006年 マグエ医科大学 2名

本会のメンバーは2012年2月現在23名で、メンバーの会費と メンバー外の寄付金もあり、それらで資金運営をしている。

上記の中で2003年モンユワ大学入学の学生に対し、特別な方が支援している。本会の主旨にご賛同いただいたRC会員外の山口女史である。この心優しき山口女史は、例会場ホテル内で我々の奨学会創設の打ち合わせをしているとき、また運営について議論しているときにちょうど居合わせていて是非参画したい旨の申し出があり、1名の経済的に困窮している学生をお世話願うことになった。

全て学生は、城南RCのWCS活動の対象地であるシュエボの学校長と地域ボランティア団体から推薦に基づき、成績表・推薦書などを参考に毎年1-2名を奨学生として選考している。時には単年度で甲乙付け難く、優秀な学生2-3名決定したいが奨学資金の関係上、涙を飲んで1名に限定したこともあった。

卒業までの総支給奨学金は、医科大6.5年の場合は \$2,300(約276,000円)必要で、一般大学4年は\$1,200 (144,000円)である。この金額で入学から卒業までの授業 料、教科書代、食費、下宿代を賄うことが可能だ。もちろん優 雅な学生生活は送ることは出来ないが、金銭的な不安や心配もなく専門教育を受ける機会を得たことに学生達は、喜んで



いて $\langle$ れる。この金額は、日本の学生であれば $1_{7}$ 月分の生活費であろう。

今まで、本会のメンバーが岡崎城南

ロータリークラブのWCS活動で毎年ミャンマーを訪れる機会があるため、直接、学生達にこの奨学金を手渡しで支給することが出来ている。毎年学生達を交歓会に招待し、この直接手渡しの支給で、「顔が見える、顔が見られる奨学会」となり、、彼

らの悩みや心配事、そして夢を聞くことが出来、支給する我々 側にも喜びをもたらしてくれている。

もちろん学生達も年1回我々に会えることが嬉しいようで、半年に1回のレポートにも全学生からいつも「何時来るか」を聞いてくる。



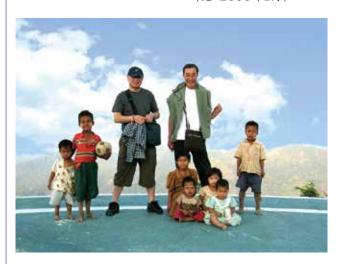
この学生達は優秀で、大学入学当時の英会話は我々の方が優れていますが、2年生になると我々の英語力は、彼らに数段劣ります。それは若さに加え、医科大の授業では、全て英語で進められるようで当然ながら英会話や文法は習得が早いようだ。また、大学は全て国立であるため医学・歯学生は卒業後2,3年間、僻地医療に携わることが国の義務として課せられている。しかし、これが劣悪の待遇らしく、我々も心配しているところだ。

是非、彼らの若さで、これらの苦難を何とか克服してくれることを願っている。

#### 最後に

この奨学会の主旨に賛同いただける方、 是非入会を!

(記:2006年1月)





親愛なる「あおい奨学会」の皆さんへ

ミャータンダオンです。私は、この奨学金を得られなければ医科大に進学できませんでした。ですから今とても感謝しています。この奨学金は、私にとって授業料や

生活費の心配をなくし、安心してマグェ医科大で学ぶことが出来ます。両親も感謝しています。この恩に報いるためにも立派な医師になるよう努力します。また皆様方とコニミュケーションが取れるよう日本語も勉強します

2002年12月13日

Mya Thada Ohn

# ノマーでの広報活動

#### ◎ ミヤンマー国内向けに作成したビルマ語の広報誌。関係者経由でシュエボ地域に200部配布した。





ing pjeden SemiljOFED (Woods Community Survivale) from all fill Semilj of the American (and algorithms of the plane) of the Semilj of the American (and algorithms of the plane) of the Semilj delth Semilj of the Semilj of the Semilj of the Semilj of the Semilj and the Semilj of the Semilj of

applegreiche Erse für gewenn der All der bes Mit gesten für bei der Bestehe de





man(g)misagómithi

သည့် မြောင်းသည်။ သည့် မြောင်းသည်။ သည့် မြောင်းသည်။ သည်။ မြောင်းသည်။ မြောင

loo 15tg

po njeh prograda u Prancijski St. dio njeh prancijski St. dio njeh prancijski St. saranje i njeh prancijski saranje saranje i nje







### နီကာတီရောနန်းမျာ်တလီသယ်နှင့်ဖြန်တပြည်

Armany part of the control of the co

AOI MYAHMAR FOUNDATION SCHOLARSHIP

AMFS ဆရီးဆီးလုတ်လေးမိုင်းသော်ပြုသည်။ မြိုင်ပိုင်မိုင်ပို လေးပိုင်သည်။ မေးကိုသည် မြောင်းသော ရေးရှိသော်သည် ဆုံးသော်ပို့မှုပြင်းသည် ပြုနှုန်းသည်။ ရေးရှိသော်သည် ဆုံးသော်ပို့မှုပြင်းသည် ပြုနှုန်းသော သည်သော်ပြုသည်။ လေးပို့မြိုင်းသင်းသည် မြောင်းသော်သည့်ဆိုပြန်လည်း ရေးပြုနှင့်ပြန်လေးပြုသည်။ သူ့ပြုနှင့်ပြောင်းသည်မြို့မှုပြုနှင့်သည်။



in Gerbands of Benegations



Name of the last

efigifdenefilej

ANT Prograde and professional of the profession of the professional of the professiona

gestundiffinnflydgion







mild physiologic



Ohando Johann Berlay Oldr and all WONWorld Community Storical

ાર્થ પ્રાપ્ત કરિયા કિલ્લી અને પ્રાપ્ત કરવાના કર્યા કર્યું કર્યું કર્યા કરિયા કિલ્લી અને પ્રાપ્ત કરિયા કિલ્લી અને પ્રાપ્ત કરિયા કિલ્લી અને પ્રાપ્ત કરિયા કિલ્લી અને પ્રાપ્ત કરિયા કર

#### ◎ 裏面は日本語で作成、一部内容は異なる。2003年発行





本語は、ミャンマーでの出世日刊など つれて、その記憶や記さられたもはす るためのものです。 1888・8月 Val 2 2000 00 1

#### ミャンマーへのきっかけ

今までの歩み Process

1888-200 具件を表面CM、5900をより生を特別選載を いたシマーベル業をもでいる。当時等3回目 は、何子か会第3かの業を基礎を対するシェンでかっている。 もプロート第5条以内では有可能を参考を収る2000と近り、この 実金は、日本を収出るでも、そのために対け可能を提出している。

(時隔2000年) かを併立い852000年、有年年の資金を を書に終てられ、数十年二月に建金の利用が可能にな 「最近が生まり作ました」か立馬也であるか、上述に持 らっかで資金度で全事を担からないと聞いた。







の出書者は「希望」と単様 うちれ、おみを集成で、明明 ありまるのがで、地域とであるができた。 かられ、他変であるができます。 ことが実力から成成のである。 には異ななどから成のの考えと のをかまするとし、光めまりない。 ではまたない。 ではまたない。 のからない。 のからない。 のからない。 のからない。 のからない。 のからない。 のからない。 のからない。 のがからない。 のがからない。 のがからない。 のがからない。 のがある。 のがない。 のがな。 のがな。 のがな。 のがな。 のがな。 のがない。 のがな。 のがな。 のがな。 のがな。 のがな。 のがな。 のがな。 のがな。 のが

#### クラブの独自活動に



事を表す場合は「本宝」の形成的の その表別の第1フミットことにも

#### ミャンマーの概要

明念:250版(日本年前10日、1+>マーロを前1日本) 現実: 高文を知はサック OKYAD

#### あおい奨学会 ACI MYANMAR FOUNDATION SCHOLARSHF AMIFS

■ 走立の内容をした対し、対明がカランニーに よる他の音を発射する時間、上の、明確を 人間等・合意を対する場合。 との、単位を 人間等・合意を対しては一般がある。 現在を表 でで、電池機の型して発きが出たする。 この相手を制定は、発射を含量機関に回路 でもかっ、光を対しては考りとは、一般では、 等もって、光を対応をはずり、一般では、 等もって、光を対応をはずり、一般では、 等もって、光を対応をはずり、一般では、 等もって、光を対応をはずり、一般では、 を含まったが変化しても表現しては、 を含まったが変化しても表現しては、 を含まったが変化してもませい。 では、またが変化してもまた。 では、またが変化してもまたが変化しまた。 は、またが変化してもまたが変化してもまたが変化しまた。 は、またが変化してもまたが変化しまたが変化しまた。 は、またが変化しまたが変化しまたが変化しまたが変化しまた。 は、またが変化しまたが変化しまたが変化しまた。 は、またが変化しまたが変化しまたが変化しまたが変化しまたが変化しまた。 は、またが変化しまた

城南RCのWCS活動に抵謝

Nasta Ye Aung







図書館 KIBOHスナップ















#### ◎ 2004年発行の「広報 KIBOH」 英語も併記。



### **ဆိုကာဗကီဂျောနန်းရော်တာလီကလပ်နှင့်**မြန်မာပြည်





ရှိသေးကို လေလျှင်း ရှိသို့သေး မိုးသည် လေလျှင်းသည်။ ရောန်နှိုင်းရှိသေး ရောန်းရှိသေး မိုးသည် လေလျှင်းသည်။ ရောန်နှိုင်းရှိသေး မေးသည် ရောန်းရှိသည်။ ရောန်းရှိသည် လေလျှင်းရှိသည်။ လေလျှင်း ရောန်းရှိသည် လေလျှင်းရှိသည်။ လေလျှင်း ရှိသည် လေလျှင်းရှိသည်။ လေလျှင်းရှိသည်။ လေလျှင်းသည် လေလျှင်းရှိသည်။ လေလျှင်းရှိသည်။ လေလျှင်းသည်။ လေလျှင်းသည်။ လေလျှင်းရှိသည်။ လေလျှင်းရှိသည်။ လေလျှင်းသည်။ လေလျှင်းသည်။ လေလျှင်းရှိသည်။ လေလျှင်းသည်။ လေလျှင်သည်။ လေလျှင်းသည်။ လေလျှင်းသည်။

### ခ်ိဘိုးစာကြည့်တိုက်မှအနာဂတ်သားကောင်းရတနာများသို့

စီးကို အကြောက်မှုကို မောက်လည်းမှု ဖို့ ရခြင်းမေးကြသို့ မောက်သွား ရခြင်းမေးကြသို့ မောင်းသည်မှု မောင်းသည်မှာ မောင်းသည့်မောင်းသည့်မောင်းသည့်မောင်းသည်မှာ မောင်းသည်မှာ မောင်းသည်မှာ မောင်းသည်မှာ မောင်းသည်မ





1 is a the TRUTH?
2 is a FARE to all concerned?
3 will a suid GOODWILL and SETTER FIRENDISHER?
4 Will a be (ICHOFICIAL to all concerned?

#### မြန်မာနိုင်ငံကျောင်းများအတွက်ကျောင်းစာကြည့်တိုက်ဆောက်လုပ်လှူဒါန်းခြင်း







ခေါ က လာသက္ခရိုကျောင်မှာ ရှိချီးခေါ်ချီငီခြီးရွာ ထိုကေလော် မက္ကရန် အတွင်တာလို တာလုပ်တာခေါကိုပါ ကျိုပါ ခရုတို့ ချိန သိရို့အသေး လိုကျော် အတွင်တွင် ရှိတွင် သိရေးသည်။ လိုကျောင်း အတွင်တို့ လောက်ချိန်တို့ မြန်မာတွင် အတွင်တို့ လောက်ချားကိုသည်။ ရှိ ရှိ ရှိသည်။ သိရာတော် သိရာရန်း ရှိ ရှိသည်။ သိရာတော် သိရာရန်း ရှိသို့ မောက်ချားကိုသည်။ ရှိ အတို့တာလိုက် လင်ရာတွင်တွင် အာဝကိုပဲ ရေးနော်သို့ သည့် တွင်တွင် ကိုလာတွင်တွင်တွင် အတွင် အတွင် အတွင် အတွင် တွင်တွင် ကိုလာတွင်တွင်တွင် အတွင် အတွင် အတွင် အတွင် အတွင် ကာပိုင်ရှိသို့ လောက်ချိန်သည်။ သိရာတိုင် သင်တောင် သင်တွင်တို့ ထိုတွင်တောင်ရှိသည်။ သို့သည်။ သင်တွင် သင်တွင် ရှိသည်။ သို့သည်။ သင်တွင်သည်။ သင်တွင် သင်တွင် သို့သည်။ ရှိသည်။ သင်တွင်တွင် သင်တွင် သင်တွင် သင်တွင် (၁)သည်။ တွင်တွင်တွင် သင်တွင် သင်တွင် သင်တွင် သင်တွင် (၁)သည်။ တွင်တွင်တွင် (၁)သည်။ သင်တွင် သင်တွင် လောက်ချိန်သည်။ သင်တွင် (၁)သည်။ သင်တွင် သင်တွင် လောက်ချိန်သည်။ သင်တွင် (၁)သည်။ သင်တွင်တွင် (၁)သည်။ သင်တွင် လောက်ချိန်သည်။ သင်တွင် (၁)သည်။ သင်တွင် (၁)သည်။ သင်တွင် (၁)သည်။ ရက်ချိန်သည်။ သင်တွင် (၁)သည်။ သင်တွင် (၁)သ





البارز والمراجعة والمراجعة والمراجعة





ရိုကာ၏ ရကူနန်းပေါကာလီကလခ်တန်ရှိ မရှိခဲ့ခဲ့သည် ပို့ချိန်တျာင်ရာ။ အတွင်းသမားပဲရေတို့ဖြဲ့နယ်တွင် ရှိခြေလွန်လုံး လင်းပောင် အတွင်းလည်းဆောင်သောရာသေနလိန်သားမှည် များ၏ လူစုစွပ်မှော အရှိ, အတူ လည်နဲ့ လူသိန်ရိန်ခဲ့ ပါတယ်။

ခိုလာခေါ် ရကျနန်းပေါ့လာတိုကလေနဲ့ (B) ကြိုမ်းရိုက်၏ ရကျွန်း နှံ မှု မြန်မာ ျပင်မှုနှန်းမှ လောကဆာလေ (ဥမ်မြား၏ ရကျန်းကို နီးဆုပင်း ဆင့်ခင် တတိုင်းမျှောက်ပြော များကြီးမေးမြည့် တိုက် တိုင်းျန်းမို နှင့်ချိုသော တိုက်မေးမြည့်မြော် ရနိုင်ငံ နိုင်ငံများ မြန်မာနှစ်ချိန် ( သင်များလို့ မြန်မာများကြိုင်းမှာ ရှိနောင်များမှုနှင့် မော်ပြီး တင်များလို့ မြန်မာများများမှု သင်များများမှု မောင်ပြောင်းသည်။ ပြည်သင်များ နှင့် မြန်မာများမှု မောက်ပြုမှု မိုင်ငံပြောင်းသည်။ ပြည်သင်များ နှင့် မောက်ပြုမှု မောင်ပြုသည့်များမှု မောင်ပြုသည်။









12.FEB.2004 PHOTO ALBUM IN YANGON

### ◎ あおい奨学会への申し込み要項を掲載した。

#### AOI MYANMAR FOUNDATION SCHOLARSHIP

#### AMFS

အဆိုးဆီသညာသင်စေးရိတ်ထောက်ခဲ့ရကြးအနှံ့ ဟာဆိုယင်ဖြန်စေပြည်ကိုရခိုတ်ဆိုကာကေိစရာနန်း စော်တာလိအခွဲ ၁၆ ခုနှစ်သောက်ကနေတည်ထောင်ထား တဲ့အခွဲ့သေးတစ်ချွန်ဝါတယ်။ အခွဲ့ရဲ့ရည်နှင့်ထိုဆိုကာတော့သောတော်ပြီးစေရာင်ဒီ တာတို့ အတော်အခြဲတဲ့ရောင်းသားကျောင်း သူတွေကိုသညာသင်စေးနိတ်ထောက်ခဲ့ရှိခေါ် တယ်ပေ စကော်မှီသည်။တောင်သည့်ဆင်တော်သညာသင်စား ရိတ်ထောက်ခဲ့နေပါတယ်နှစ်ချိတ်ထောက်မှာကြွစ်ပါ။ ထွောက်ထွာခေါ် ယူနဲ့ နိုင်ဘိုလာပြီးရေးရယ်ဖြင့်ပါ စောက်သွားလောက်ခဲ့ ထာတိအချိန်တို့ ကျောင်းသားကျောင် ယူတွောက်သွားတိန် ထိုသည် အမိစ်တကက်မှာကြွစ်ပါ။ ယံကျောင်းတက်ခဲ့ အတော်အနိုင်တို့ ကျောင်းသားကျောင်









(သ)တန်းကိုသူ၊ ချင်သာလှပ်ပြုံ တေင်ပြင်ခဲ ကြသည်သည်သောပါပုံကြာ ရလှပင်သေး/ ရများ























#### AMFS Application

#### Requirements:

Are you able to speak in English?

Do you have financial need?

Do you have a strong desire to continue your studies at university?

If you arewored "Yes" to all three questions, you are gligible for the AMFS.

If you receive the AMF scholarship, you must.

1) submit a report every 6 months to your

- study the Japanese language,
   meet AMF members in Myanmar next.

If you do not fulfill your obligations, the scholar-









# 私設奨学金制度 あおい奨学会の奨学生たち(1)

2001年より「あおい奨学会」が支援している15名の学生達をご紹介します。 すでに大学を卒業して医者や主婦になっている子もいます。(2012年9月現在)

支援開始年度 写 ※スポンサー	真	名前・年齢 卒業または在学大学	支援開始度 ※スポンサー	写 真	名前・年齢 卒業または在学大学
2001 小野智範氏		ミャア タンダ オン Mya Thandar Ohn  Institute of Medicine- Mandalay マンダレー医科大学 卒業 医師 31歳	2001 太田政信氏		ピィ ピィ ピョー PYI PYI PHYO Shwebo University シュエボ大学物理学部 卒業 主婦 31歳
2002 近藤正俊氏		ネ ユ ルウィン NAY YU LWIN Institute of Medicine, Magway マグェ医科大学卒業 医師 30歳	2002 京 幸一氏		タンダーソー Thandar Soe Institute of Medicine, Magway マグェ医科大学卒業 医師 30歳
2003 中根常彦氏		テッ テ レン HTET HTET LWIN Institute of Economy, Monyuwa モンユワ経済大学修士 課程 卒業 銀行員 29歳	2004 市川聰明氏		ココタイン Ko Ko Thine Institute of Medicine, Magway マグェ医科大学卒業 医師 28歳
2006 天野邦彦氏		テン リン アゥン Htein Lin Aung Institute of Medicine, Magway マグェ医科大学卒業 医師 26歳	<b>2006</b> 加藤豊生氏		ヤン アゥン Yan Aung Institute of Medicine, Magway マグェ医科大学卒業 医師 26歳
2007 千賀邦二氏		キンタンダーシュエ Khin Thandar Swe Institute of Medicine, Magway マグェ医科大学業 医師 25歳	<b>2007</b> 太田政信氏		ソーサントン Soe San Tun Institute of Medicine, Magway マグェ医科大学卒業 医師 25歳

※ 奨学会では各学生に対し担当のスポンサー (会員) を委嘱しています。学生から各スポンサーへは手紙,電子メールなどで近況や報告などが届きます。学生に対し心の支えになって頂き、且つ彼らと精神的な交流をお願いしています。

# 私設奨学金制度 あおい奨学会の奨学生たち(2)

支援開始年度 写真 支援開始年度 写真 名前・年齢 名前・年齢 ※スポンサー ※スポンサー 卒業または在学大学 卒業または在学大学 チュエピュイウィエ ミョウミインソー Kywe Pyae Wai Myo Myint Soe 2008 2009 Institute of Medicine, Institute of Medicine, Magway Magway 近藤正俊氏 中根常彦氏 マグェ医科大学 マグェ医科大学 研修医 22歳 5年生 21歳 テェ アカー ピェ ピョウ アウン Htet Arkar Pyae Phyo Aung 2009 2010 Institute of Medicine, Institute of Medicine, Magway Magway 松永茂夫氏 足立 修氏 マグェ医科大学 マグェ医科大学 5年生 21歳 4年生 20歳 スモンレィン Hsu Mon Lwin 2011 University of Phar-近藤正俊氏 macy, Mandalay マンダレー薬科大学 3年生 19歳



5<0

ミヤンマーは軍事政権の国。

だが、医者なら政治とは関係なく地域で多くの 人々を助けることが出来る。そんな気持ちから支援している。 ・・・・ 一支援者より



ミャンマーを訪問した会員などの方々より無理矢理?いや気持ちよく投稿を願い、ここに紀行文を掲載することが出来ました。感動したこと。困惑したことなどが素晴らしい文章で描かれています。

貴方も是非一度「微笑みの国」へ訪れてみては如何でしょうか?

# 「微笑みの国」ミャンマー訪問記

1. ある年の11月25日~12月1日にかけて、5回目となるミャンマー(かつてビルマといった)訪問を終えた、酒を飲むと人格がかわる大編集長 $Y \cdot S$ 先生が、これを聞きつけて、「Nさんが5回も同じ国を訪問するのは、何かよこしまな目的があるに相違ない」と思ったのか、私に対し、「今回は、支部報に、『ミャンマーも美女ばかり』の題名で投稿するように」とのお達しがあった。しかし大編集長の推察は、私の人間性を誤解している?というものであろう。

2. ミャンマーという国は、仏教国であり、仏教を中心として人々

の生活が回っているといっても過言ではない。古くは、成功した人々は、パガンの地にハゴタ(寺)を建てるのが夢であり、パガンの仏教遺跡群が生まれた(パガンでは、イラワジ川をひかえた大平原に、2000ともいわれるパゴタが林立してい



ここで見る夕陽は「パガンの夕陽」として超有名であり、しばし時の経つのを忘れさせる)。現在でも、人々は寺へ寄進するのがあたり前とされており、さらに貧しい人々に奉仕をすることは、むしろ豊かな人々の努めとされ、奉仕できた人が奉仕できたことを感謝しなければならないとされる。



もちろん、家族、親族、そして 地域の人々同士の相互扶 助の精神は、生きづいている。 「ビルマの竪琴」を、読んだ皆 さんは、ミャンマーの人々の暖 かさを感じるであろう(ミャンマー の人々は、敗走する日本兵

をみかね、侵略者である日本兵を手助けした)。

3.「微笑の国ミャンマーというのが旅行会社の宣伝文句になっているように、人々の「微笑」が素晴らしい。特に女性の「微笑」は最高である。私が、これに大いに惹かれていることを考えると、大編集



長の上記の推察は少し当たっているともいえなくはない。人々は 慎み深く、謙虚である。戦前の日本人のよい所を感じさせる。 男性が女性を口説くには、約2-3年の月日を要する。女性からはアプローチできない。男性が必死に口説き、やっと女性は 重い腰を上げるのである。

4. 私がミャンマーを訪れるようになったのは、私が所属するロータリークラブが、ミャンマーでの奉仕活動(ロータリークラブでは、こ



第1~6·8回訪問 会員 中根常彦君

れを世界社会奉仕活動、略してW・C・Sといっている)をはじめ、私も参加することになったからである。

最貧国の一つであるミャンマーではあるが、国民の教育にかた

むける情熱はすごい。学校はちゃんと存在するのだが(5-4-2制)、何せ政府が教育に金を出さない。校舎は老朽化の一途である。ここで「希望」という名の図書館をつくろうという活動をすることになったのである。4000ドル位で40坪並の建物ができてしまう。



5. 又、同時に、プライベートなグループで、大学生に奨学金を 出そうという運動もはじめた。現在5名の奨学生に奨学金を 送っている。原則として医学部に進む大学生を選んでいる。

ミャンマーでは、大学が完全に格付けされていて、統一試験の成績が国レベルで1~550番位までがまず医学部に進学できる。かっての司法試験のようであるが、最近では医師になっても国外へ行ってしまう人が多いため、2000名位にまで枠を拡大したようであるが、これでも極めて医学部に進学するのは難しい。

成績がよくて医学部に進めない子を1人でも2人でも援助できることを願って、奨学金を送ることにしたのである(医師に比べて、これらの途上国で我々法律家の役割はどうしても見劣りしてしまう)。1年の奨学金はわずか300ドルである。しかし、400~500ドルあれば、医学



部の学生が学費と生活費をまかなえるようである。

1~2回ゴルフに行くことをやめれば、これが支払いできる。我もと 思う先生方は、どんどん申し出して欲しい。奉仕することは奉仕 する人間の救済なのである。

6. 以上、今回はいさか真面目な文章で読者の期待を裏切った? かもしれないが、やはパキンマーの女性の「微笑」は最高に美しいのである。

記:2003年

# ミャンマー初訪問で、 「驚き?」そして「感動!」

市川聰明会員の令嬢 2004年同行 市川 藍 さん

私は、祖父が早くからロータリーの活動をしていたので、幼稚園の頃からロータリーの家族旅行やクリスマス会に参加していました。小学校3年生で岡崎に引っ越して来てからは縁がなかったのですが、最近、父が城南ロータリーに入会させて頂いたのを機に、私も再び家族例会や



英会話教室に参加させて頂き有りがたく思っています。今まで華やかな集まりばかりを見てきていたので、ロータリーの活動は、いろいろな職業の方の社交場所だと、思っていました。

今回ミャンマー訪問をすると聞いたときも、学生の私に とって

- 1. 海外しかもアジアを訪れる機会は滅多に無い。
- 2. 物価が安い国なので、父のお金で豪遊できる!? と言う気持ちで同行させて頂きました。

2004年2月12日にミャンマーに着き、想像していた 国と違い思ってたよりキレイで車が多いのに驚きました。 そして、女の子達は小さくて細くて、化粧をしなくても十 分キレイな顔立ちをしていて、そして何よりイキイキとし た表情をしているのに、さらに驚きました。ミャンマーの 人は美人が多いです。

2月13日、美しい人達と一緒に北ダゴン高校へ行きました。チビッコ音楽隊と沢山の花束に迎えられながら、この学校を見たとき、ビックリしました。「いつの時代の学校?」というのが正直な感想です。私の通っていた高校は古く、冷暖房が無く、壁はがれていて、最悪!!と影で言われていたのですが、ここを見たら私の母校は上流の部類に入れるかも・・・・と思いました。



教室、机、椅子どれを取っても比べものになりません。そしてトイレなんて思い出したくないほど、スゴイ建物でした。皆様も一度ミャンマー式トイレを試してくださ!!! 一生に一度の経験になるはず。

今回の目的である図書館建設の費用が\$4,000(40万円強)というのに驚きつつも納得してしまいましたミャンマーの学校には日本の学校になら、必ずあるという用具や場所がありません。日本はとても恵まれていると思いました。そしてミャンマーにも有るべき物を作ろうとして、協力している皆様方を尊敬しました。

ミャンマーの学生は、 日本の学生と違いました

私たちを笑顔で受け入れてくれる心の広さ。 学校には、勉強が好きだから通っているという気の持ち方。そして



一番になる為の努力を惜しまない根気の強さ。これら私を 含めて実行している日本人は多くないと思います。また、 ミャンマーの学生を見ていて、今までボランティアに興味 がなかった私でも応援したいと思いました。ただ学歴が欲 しいからと大学に通うのでなく勉強がしたいから通いたい と思っている人って見ていて気持ちがいいのです。だか ら、みんな目がまっすぐでキラキラ輝いていたのかも知れ ません。これは直接会わないと分からないことですが、一



度彼らに会ったら、 再度訪れたくなりま す。

ミャンマーマジック は、スゴイです。吸 い込まれてしまいま した。ミャンマーの 自然はキレイです。

「雄大」という言葉

はこのためにあると思います。バガンに行って朝日と夕日を見ました。とお~っても大きな光に包まれてしまいました。遠くにあるはずなのに、近くにあると錯覚してしまうほど大きかったです。ミャンマービューティーは自然の力も影響しているのでは。悪いことは出来なくなります。

心に残る景色、心に残る出会い "来年もご一緒させて下さい!!

(記:2004年)

# ミャンマーの呼吸

牧野正高会員の令嬢 (2005年同行) 牧 野 暁 世さん

ヤンゴンに降り立ったのは日も暮れ きった頃であった。生まれて初めて 訪れるこの土地は、もうすっかり 真っ暗だ。辺りを見渡し、なんて寂 しい首都なんだろうと思わずにはい られなかった。



2005年2月3日から3泊5日の日程で行われた第7回ミャンマー訪問の話をいただいたのは、ちょうどその10ヶ月前のこと。二つ返事で参加を希望して以来、未知の国への想いが膨らんでいた私は軽い落胆を抱き始めていた。乗り込んだ送迎バスの窓から、流れていく景色を眺めてみる。

何も見えないのだ、いや、何もないのか。次第に目が慣れてくるとぎょっとした。暗闇に蠢く群衆。

かすかな灯りに群がって路上のあちこちで食事をとっている。



よく見ると、数え切れない 程の飲食店や商店が軒を連 ね、それらは目下営業中で あった。

夜の街を大人も子どもも平 気な顔をして闊歩している 姿に、さっそく私は不意打 ちのミャンマーショックを

食らってしまったのだった。

だが、この明るさに慣れると街の活気が見えてくるのだ。後で知ったのだが、熱帯の地域に住む人々にとって夜は絶好の活動時間なのだそうだ。そして何より、日本の夜が明る過ぎたらしい。

ミャンマーの昼の街。スカートの風を切って走り去っていく自転車の群れ。車体が膨らむほど人がぎゅうぎゅうに押し込まれたバス。お祭りのような色彩と豊かな物資が溢れる市場。



砂埃が舞い上がるガタガタ道。編んだ木の皮でできた 家。高い空。黄金に輝く仏塔。人間達の営みには無関心 な放し飼いの犬。悠々と草を食み、時の流れに鎮座する 牛達。どこかで見たあの情景はここだったんだと、不思 議な懐かしさすら感じるような国だ。人々は働き、学校 に行き、お茶を飲み、読書し、談笑している。外国人の 私にはそれがとても羨ましかった。

ある時、バスの窓越しにマンダレーパレスを護衛する若い兵士と目が合った。彼が腰掛けるベンチの足元で2匹の子犬がすやすやと眠っている。黒光りする腰の拳銃とは対称的に、彼は眩しいほど白い歯を見せて私にニカッと

笑いかけながら親指 と小指を突き出し、 鈴のように振るしぐ さをしてみせた。

「彼がしているのは どういう意味?」 奨 学生の女の子に聞い てみた。クスリと笑 い、「愛してるよっ



て意味よ。」彼女たちはそう言って、またクスクスと笑い合った。

お返しのつもりで、カタコトのミャンマー語で彼女たちに「恋人はいる?」と聞いてみると、コトバとは裏腹に花が咲いたような笑顔が答えてくれた。そんな彼女たちに帰国後、すぐに手紙を送ることになる。こんなにシンプルな方法で心が通じていくんだと、感動さえ覚えながら。



「発展途上国」と言われるミャンマーに、私たちが住む国では見つけることのできないものを垣間見たのは私だけではないはずだ。実際、私が日本から持ってきた価値観は、ミャンマーに到着したときから全く役立たずだったのだ。空気が違えば呼吸も違う。そして、私たちがこの国に貢献できることがあっても、彼らの呼吸の速さはやっぱり自由でいてもらいたいと思う。

そんなことを願うとき、何故だかあの幸せそうに眠る子犬たちが記憶に蘇ってくるのである。 ミャンマーの呼吸に、またいつか出会えたらいい。



(記:2005年)

# ミャンマー訪問記

以下は、2005年2月3日から7日までのミャンマー訪問記である。

#### 遠い国ミャンマー

ミャンマーは遠い。距離よりは時間的に遠い。名古屋空港からタイのバンコクまでが6時間、バンコクでの乗り継ぎ時間が3時間半、バンコクからミャンマーの首都ヤンゴンまでが1時間半、飛行機による所要時間のみで合計11時間だ。日本からの直行便は、名古屋は言うに及ばず成田からも関空からもないとのこと。どうしても行き帰りだけでそれぞれ1日を覚悟しておかなければならない。

バンコク国際空港は知る人ぞ知る東南アジアのハブ空港なので、乗り継ぎ時間を使った楽しみが色々ある。その一つがマッサージだ。空港内に何軒かのマッサージ店があり、どこも繁盛している。われら訪問団一行も近藤正俊隊長に誘われてフットマッサージを試してみた。料金は1時間で18米ドル。大体1分当たり100円の日本に比べると、1/3からせいぜい半分の値段である。マッサージ師はほとんどが女性で、腕前もなかなかのもの。身動きできないエコノミークラスの座席と機内の低い気圧のためにむくんだ両足を気持ちよくほぐしてくれる。世界を股にかけて仕事をしているビジネスマンなどには重宝がられるだろう。

朝の6時半に家を出て、ヤンゴン市内で夕食をとった後ホテルにたどり着いたのが現地時間で夜の10時頃、時差はマイナス2時間半だから、約18時間かかったことになる。明日の目的地はシュエボという田舎町。早朝4時半の出発のため、ホテルのバーで一杯、との計画も諦めて荷物の整理後早々にベッドに入る。

#### シュエボの町

目的地シュエボは、ギリギリ日帰り可能な町だ。ホテル を朝4時半に出発。ヤンゴンから北へ向かって内陸の都市 マンダレーまで飛行機で約1時間半。マンダレーは日本で 言えばさしずめ京都のような町で、後にあらためて触れ ることにする。マンダレーからシュエボまでは、さらに 北へバスで3時間半。距離にしておよそ160キロとのこと。 ヤンゴンを飛び立ったプロペラ機は、途中何人かの客を 降ろすためにパゴダ(仏塔)の町バガンに立ち寄る。バガン 上空にさしかかると、太陽の光を反射して金色に輝くパ ゴダが飛行機の窓からいくつか視認できる。高度が下が るにつれ、金色のほかにも白、あるいはかつては白だっ たと思われるパゴダがそれこそ無数に目に入ってくる。 あぁミャンマーは仏教の国だったのだと、心から実感す る瞬間だ。バガン離陸後ほどなくマンダレーに着陸。バ スに乗り込み、いよいよシュエボに向かって陸路の移動 を開始する。マンダレーからシュエボまでのバス旅行 は、ミャンマーの農村と田舎町を安直に見学するには最 適だと思った。以下は車窓からの印象。現地の人々と直 接触れ合ったわけではないので、物見遊山の観光客ゆえ の思い違いはご容赦を。



2005年訪問(第7回) 会員 牧野正高 君

道は見渡す限りの農地や草原から1メートルほど土を盛り上げて造られており、両側に植えられた街路樹から大きく枝がかぶさって、道路周りが日陰になるように工夫されている。中央の部分に簡易舗装が施されており、バス、トラック、オートバイ、さらに町に近づくにつれて急に増えてくる自転車はこの部分を走る。舗装の幅はバスやトラックがやっとすれ違うことの出来る程度だ。その外側には左右とも未舗装の部分が設けられており、時折牛に引かせた荷車が土ぼこりを巻き上げながらのんびりと行き交っている。そんな街道が何十キロも延々と続くのだ。

点在する農村部にさしかかると、道路の両側には木柱、

板壁、草葺の農家が適当 な間隔を置いて建っる。 高床式の住居もり る。 高床式の住居もり 水につかる光景が目に かぶ。 電柱や電線はない ないため、電気はないだ うだ。 会は農関期なの ろう。 今は農関期なの



か、昼間から家の周りで所在なげにしている人々の姿が目 につく。

街道に沿って数十キロに一つくらいの間隔でちょっとした町がある。さしずめ江戸時代の宿場町のような感じだ。 簡単なテーブルと椅子を置いた飲食店や小さなショーケースに色々な品物を並べた小売店が何件か軒を連ねている。 町は賑やかであちこちに多くの人影が見えるが、午前中のせいか店はどこもヒマそうだ。モノ作りの作業所は少ないけれど、トイレ休憩に立ち寄った場所にたまたま鍛冶屋があって金属をたたく音がしている。主人と思しき男性がバスやトラックの廃材の鉄板をハンマーで打ち伸ばして、日本で言うところの衣装缶を作っていた。

町で見かける工業製品(衣装缶が工業製品かどうかは別として)はほとんどがリサイクル品か中古品である。一見の訪問者に分かりやすいのはトラックやオートバイ、自転車で、特にトラックはそのほとんどが日本製の中古車だ。話はそれるが、ヤンゴン国際空港でお客を乗せて出発・到着口ビーと飛行機の間を往復するバスの車内には 'お降りの方はこのボタンを押して下さい'と日本語で書かれたブザーが付いていた。いたずらに押してみたものの、予想通り音は出なかった。

私は元来乗り物好きなのでバスの旅も全く苦にならず、 車窓からの景色を眺めていることはとても楽しい。しか し、道路が簡易舗装なのに加えてドライバー氏がかなり飛 ばすため、次第に腰が痛くなり乗客の口数もめっきり少な くなってくる。もうそろそろ限界かというところで、やっと目指すシュエボに到着した。

同行のミャンマー通氏の説明によれば、シュエボの人口はおよそ10万人、その地方の中核都市の地位にあるらしい。都市といっても雰囲気は大きな田舎町という感じで、街道に面して店や家が建ち並び、さらに街道に交わる何十本かの未舗装の道路に沿って多くの家がひしめき合っている。いまさら言うまでもなく、このシュエボの高等学校に図書館を寄贈するというのが今回の旅の目的である。

シュエボでは、4,000米ドルで図書館が建つ。わが岡崎城南ロータリークラブでは数年前からミャンマーの学校に図書館を寄付する活動を行っており、今回で4回目を数える。あらかじめ日本から送っておいたお金を使って現地で図書館を建ててもらう。その寄贈式に出席するための訪問団の一員として、初めて私もミャンマー旅行の機会を得たわけだ。

私の職業は税理士である。2月というのは会計事務所がいよいよ確定申告に向けて忙しくなる時期で、当初は休暇をとることに不安もあったが、こうした用事でもなければミャンマーという国を訪れるチャンスなど滅多にあるものではないと、腹を決めて参加することにした。さらになぜ2月かと言うと、この時期ミャンマーは乾季で、旅行に最も適したシーズンだからだ。

シュエボには少なくとも三つの高校がある。どの学校もグリーンがシンボルカラーのようで(ということはおそらくすべて公立学校なのだろう)、先生や生徒の制服には深緑色が使われている。平均的には決して豊かとはいえない暮らしむきのようだが、式典で出会った子供たちは皆澄んだ美しい目をしていた。

クラブが寄贈した図書館は小さな一軒家という感じで、2



室に分かれており閲 育用のテーブルとも それに扉つか置ししたのなく、書けいる。本は入れたい。 で別に1,000米ドル、 ま付したのだが、、 れでどれほどの新したのだれました。

い本が購入できるかは聞きそびれてしまった。

学校内を散策。中庭では子供たちがサッカーらしき球技をして遊んでいた。子供の遊ぶ光景は万国共通だ。長屋形式の教室には屋根はあっても床がなく、地面がむき出しになっている。3人掛けくらいの木の長テーブルと長椅子が並んでおり、前の壁には黒板が取り付けられている。照明器具はない。授業はすでに終わっていたが、この教室で学ぶ子供たちが是非とも将来のミャンマーを背負って立つ大人になって欲しいと思った。

今夜のホテルはマンダレー市内だ。その日のうちに帰らなければならない。また3時間のバスの旅が待っている。シュエボでの滞在時間はわずか4時間足らずだったが、私にとって忘れられないひと時となった。なお、この間わが訪問団以外の日本人はおろか、外国人には唯の一人も出会わなかったことを付け加えておく。

#### 古都マンダレー

マンダレーは古い都 だ。町の真ん中北寄りに 王宮跡がある。かつてイ ギリス軍に滅ぼされた王 朝の宮殿だったとのこ と。敷地は一辺が3キロ くらいの広大な正方形 で、一番外側は満々と水



を湛えた堀になっており、これがぐるりとその内側を取り 囲んでいる。シュエボへの行き帰りでは乾季の農地や荒原 を見慣れていたため、いったいこの大量の水はどこから来 るのだろうと不思議に思える。

東側の入り口から宮殿の敷地に入ることが出来る。軍が管理しているようで、堀を渡ったところでキョー・キョー・モー氏がバスから降りて受付係と思しき制服姿の兵士と何やら話した後(多分入場料がいるのだろう)、バスは城壁をくぐることが許されて宮殿内にしずしずと進んで行く。敷地の中には意外にも人々の日常生活があり、驚いた。木立に寄り添うように幾棟か住宅が並んでいて、道沿いには移動式の店を開いている者もいる。聞けば、住宅は軍人の官舎になっているらしい。

宮殿敷地の中央部分に見学可能な建造物群があり、そのうちの一つの円筒形をした監視塔に登ると、再建された金色に輝く王宮を見渡すことが出来る。建物はすべて木造だ。かつての宮殿は太平洋戦争末期にイギリス軍と日本軍との戦闘によってすべて焼失してしまったとのこと。ミャンマー通ではない私でも、旧ビルマに花開いた仏教文化の荘



厳さにいささかの感 慨を覚えざるを得な い。

マンダレーのもうひ とつの観光資源はマ ンダレーヒルのパゴ ダ群である。マンダ レーヒルは王宮の北 側にポッカリと盛り

上がった小高い丘で、その全体がお寺になっている。あちこちにパゴダが林立し、昨夜泊まったホテルから見えた金色のパゴダも丘の最も高いところに位置するその内の一つであることが初めて分かった。大きくて有名なパゴダにはエスカレーターやエレベーターが設置されていて、厳かな雰囲気とのアンバランスさにはちょっと笑ってしまうが、入り口との高低さもなかなかのものなので実際にはすこぶる有難い。

パゴダへ入るときには素足になるのがルールだ。最初は戸惑うが、慣れてしまえば裸足で1日過ごした小学校の運動会での感触が蘇って結構気持ちがいい。屋内ではヒンヤリと冷たく、陽の当たる戸外ではほかほかと暖かい足の裏が、ここがミャンマーの人々にとって大切で清浄な信仰の空間であることを感じさせてくれる。

観光客にとっての楽しみの一つは、その土地で開かれる 市場を見物することだ。マンダレーでもダウンタウンにあ るマーケットへ出かけた。まず遭遇したのが、鳥かごに小 鳥を十数羽も入れて往 来で声を掛けてくる女 性である。小鳥なご 買っても持ち帰ること がでさないたら、どう でこれたら、を空に ないたりまと すと良いことがある、



というようなことらしい。

同行氏が代金を払って挑戦、一羽が飛び立つと周りで小 さな拍手が沸き起こった。 東南アジアの他の町でも同じ ような商売があるようだ。

建物の中では、衣類や布などの繊維製品や金物などの日 用雑貨の店が多い。物資はすこぶる豊富だ。店主は共同 のマーケットにそれぞれ小さな売り場を占有し床から天 井までうず高く商品を積み上げて、時に客に声を掛けな がら、時にその場で食事をしながらそれぞれのペースで 商売をしている。地元の買い物客や観光客に加えて店主 向けの食べ物を売り歩く少年たちの行き来が交じり合 い、狭い通路はかなりの混雑具合だ。うっかりすると迷 子になりそう。

建物の外へ出ると、今度は野菜や果物などの農産物、今 朝獲れたばかりの鮮魚やナマズの一種だという川魚の干 物、各種の鳥や肉類、様々なスパイスなどを売る店がひ



しめき合って並んでいる。店と言っての場所での場所を ででないが一定の場所を ではした露店の集まこれでのままでの、 を でももそりの、 でももこれた。といれた。 でももいれた。といれたの といれた。 といれたのものもいた。 といれたのものもいた。 といれたのものもいた。

が眩むほどだ。光景を油彩画にしたら賑やかで楽しい作品になりそう。試食に差し出されるままオレンジなどをつまんで食べてみるのも楽しい。水や食べ物にはくれぐれも気を付けなさいと注意されていたことなどどこ吹く風、市場の喧騒の中で、ある種の酩酊状態に陥ってしまう。いつまでも巡っていたい心地良さだ。

マンダレーでは多くの観光客を見かけたが、フランス人やドイツ人が多いとのことで日本人はあまりいないようだ。旅行会社の企画商品が少ないのかもしれない。でも古都マンダレー、間違いなくお勧めだ。

#### エーヤワディー川の鉄橋

マンダレーからシュエボに向かってバスで数十分ほどのところに、エーヤワディー川(日本では 'イラワジ川'の方が通りがいい)という大河をまたぐ鉄橋がある。エーヤワディー川は、乾いた大地を見慣れた目には脅威に映る。川幅は2、3キロもあるだろうか、今は乾季だというのに、満々とした土色の水が滔滔と流れている。こ

に映る。川幅は2、3キロもあるだろうか、今は乾季だというのに、満々とした土色の水が滔滔と流れている。ここが河口から数百キロも内陸に遡ったところだとはとても思えない。源流から河口まで、短い距離を急流で一気に下る日本の川とは趣を全く異にしている。

バスの窓越しに見下ろす限り、水の流れはかなり速そうだ。これほどの大量の水はいったいどこから来るのだろうか。マンダレーの王宮を囲んだ豊かな堀の水を見たときと同じ驚きだ。ひょっとしたら、二つの水は繋がっているのかも知れない。

インワ鉄橋と名付けられたいかにも無骨な感じのトラス構造の長大橋は、軍が管理しているそうだ。近藤隊長が写真撮影はご法度だと言っていた。マンダレーからシュエボへの行き帰り、バスでこの橋を2度渡った。真ん中に鉄道の線路が走り、両側に1車線ずつの車道が設けられている。バスは数分かかってこの鉄橋を渡り切る。途中オートバイや自転車を追い越す。車道が狭いため、眼下に川面を見た追い越しはスリル満点だ。

途切れることのない大河の流れには不思議な感動を覚える。再びミャンマーを訪れる機会があったなら、その時も またインワ鉄橋からエーヤワディー川を眺めてみたい。

#### ミャンマーのビール

ミャンマーでは、ミャンマービールとマンダレービールという名の2種類のビールを味わった。ホテルにはシンガポールなどでお馴染みのタイガービールもあるが、やはり郷に入れば郷に従え、飲むならその土地の酒に限る。水にはくれぐれも用心せよ、との先達の教えを忠実に守って、水分はもっぱらビールで補給することに最初から決めていた

もっとも、本当の喉の渇きは水以外では癒されないのだけれど……。





緑のラベルのミャンマービールはどちらかといえばスッキリ系で、さっぱりと飲みやすい。これに対して青のラベルのマンダレービールは香りが高く濃厚なコクがある。私はマンダレービールがお気に入りで、朝食を除くほとんど毎食、近藤隊長やモー氏に銘柄指定で注文してもらって飲み続けた。食事は主にミャンマー料理と中華料理だが、いずれもビールに良く合う。幸い食べ物と飲み物には全く違和感を覚えなかった。

ビール好きの妻のために、現地でミャンマービールとマンダレービールをそれぞれ2本ずつ買い、ビンが割れないようにTシャツにくるんで日本まで持ち帰って来た。家の食卓で居ながらにして異国情緒が味わえるのだから、こんなに楽しくて安い土産物はない。

(記:2005年)

# ミャンマー旅情

ミャンマーへ何度も行かれる近藤、中根、田中、市川氏。何故か・・? WCSの図書館寄贈? あおい奨学生の援助? 実はそれは、ほんの一部。これを機に彼らは日常の「世俗の色と欲に塗れた自分自身の心の垢」を洗い流しに行くのだ。新同行者の天野氏、特に岡田氏もミャンマーの素朴で清純な心とともに帰国した。以下紀行報告。

暗いヤンゴン空港。ローカル鉄道の駅舎並だ。恐ろしく時間のかかる入国手続。「こんなに時間が?」「いつもの事です」と中根氏は平然。私は限界だ。

税関では賄賂の請求。国際弁護士?の中根氏、あざやかに近藤 氏に押し付ける。

全く狭い夜の空港前の雑踏、ボロ車の渋滞、テレビの後進国の 映像の世界へ入ったようだ。早くベッドで眠りたい。明朝4時 起床だとか・・・。

翌2日目。灼熱の空の下、バガン空港には、あおい奨学生たちが乾燥した道を何時間もかけて出迎えに来ていた。何度も来ている近藤氏他3名には1年ぶりの再会。自分の子供達に会ったような親密さだ。皆スリムな美



人とハンサムな男子。しかし不良オヤジを寄せ付けぬ聡明さと 純朴な目。いつかミャンマーを背負う人になる・・・オヤジ達 の夢だ。

バガン地元の生活市場。土埃に塗れた人、人、人。牛車に馬車。雑踏の埃。野ネズミの天日干。蝿のたかった生魚、家畜の生肉、氷なんかない。日本では捨てられるような野菜、果物、汚い手、悪臭。しかし、人々の逞しさ。私は、ここでは生きていけない。戦前、戦中生まれの人達なら多分・・・大丈夫だ。

3日目。乾いた荒野をバスは砂塵をあげてマグエへ走る。途中の農村。家とはいえない小屋、バラック。死んだように寝そべる犬達、痩せた牛、逃げもしない豚や鶏。土に汚れた子供。音の無い無声映画のようなミャンマーの風景。

バスは第一高校の門をくぐる。拍手、大歓声。いったい今日は何があるというのか? 校庭には千人近くのロンジー姿の子供達。ひょっとして我々への歓迎か? 両側から多数の生徒達の拍手、寄贈する真新しい立派な図書館まで緊張して歩く。建設費僅か50万円ポッチで・・・いやクラブ会員の浄財だ? と思いながらも私が出したのは義援金としてクラブで集めた3千



可愛い高校生を捜してスナップ

円のみ。これで、この大歓 待を受けるのは私には背中 がこそばゆい。そこは田中 さん、大統領のような貫禄 で、にこやかに生徒達に手 を振り、鷹揚に歩く。最後 尾から緊張してついて行く 私など、まるでビルマ人の 付き人。私の痩せた体も



2006年訪問(第8回) 会員 加藤豊生 君

ミャンマーでは標準体型だ。此処の土臭い子供達の輝く目は遠い昔の私の目・・・。

4日目ヤンゴンに戻り「ほっ」とする。レストランへ。又だ・・「ミャンマービール!」「ミャンマービール!」「マンダレービール!」 席に着く前からスズメの子でもあるまいし。只でさえ、この国では肥満、髪が薄い、白髪、メガネの人は見ることがない。それに、この国の人は食事中は皆、静かだ。このグループはなんだろう? 更に、どこのレストランもビールはすぐに持ってくるのにコーラ等はひどく遅い。 近藤、田中、岡田、天野氏、この4人は私のコーラが来る前に、いつもビール2本は飲んでいる。中根氏に市川氏?この両氏は思いのほか食べ物にうるさい。この極貧国で・・・。全員出家、托鉢で糧を得るべし。この国では子供の托鉢僧も数多く見られ



あおい奨学生ヤンアウン君

最後にエーヤワディー河。 ミャンマーの大地を流れるこ の河は薄黄色に濁る。純白の ハスの花に座る御釈迦様、花 の下は泥の水。この河はミャ ンマーの人々の喜び、悲しみ を洗い流す。仏教心厚い純朴 な人々は、貧困をものともせ ず逞しく、いつかこの河の大

平原に花を咲かせる・・・。 ロータリーのWCS活動が少しでも役に立てば幸いだ。

過去8回この活動に熱意を持ち、ご尽力された近藤隊長はじめ 各訪問メンバーに最大の賛辞を送り、心から敬意を表するもの であります。また、この活動が今後も益々拡大することを願う 一人でもあります。 (記:2006年)



エーヤフディー川

仏像に溶け込む本人

# 行ってきましたミャンマーへ。

今回岡崎城南ロータリークラブのWCS活動の一環である ミャンマー訪問に同行をさせて頂きました。

往路においては気力、体力共に十分な為、疲れなど一切 感じず快適な空の旅となりミャンマーでお会いするである うドクター・モー氏、あおい奨学生、訪問先の学校の事な どあれこれと思いを馳せました。実際の所ドクター・モー 氏(当城南ロータリークラブで米山奨学生として在籍して いた時には一般にキョー・キョー・モー君と表現した方が 分かりやすい。)とは米山奨学生時代に我がクラブにいた 時にあまり話かけたこともなく、たぶんモー氏も私の事は 覚えていないと思いますので「やあ、久しぶりだねえ」と 言うのも大変おこがましいところがあります。で、どの様 な格好で最初の挨拶をして良いのやら軽く悩みました。で も実際に会ってみると大変気さくな人で日本語もうまく、 尚かつ親切にいろんな事を教えてくれ、また諸事のフォ ローをもしてくれましたのでそんな心配は吹っ飛び、とて も頼りになる人でした。モー氏には失礼ですがツアーコン ダクターの方が職業としてむいてはいないだろうか。

現地の気温は高く、出発時の日本の最低気温が0度を下

回る時に先方では最高気温が4 0度にも達しそうな勢いです。 事前に近藤隊長さんより情報を 頂いていたので体調管理は大丈 夫だろうかと心配していまし た。しかしながら湿度が低いせ いなのか、とっても快適でし た。私の体にはミャンマーの気 温は合っています。



さて、現地の学校に到着した時にあまりにも多くの学生、生徒に出迎えをうけ正直なところびっくりしてしまいました。過去、何回もミャンマーを訪問している方の言われるところ、これだけの数のお出迎えははじめてだそうです。バスを降りると同時に合唱が始まりその列の中を歩い



て図書館、校舎に向かう わけですが大変緊張をし ました。同行者の人はと 見ていると皆さんリラック スしておみえで、まし と歓迎に応えていまか た。 0 さんあたりはわ いい生徒さんの顔写真を



2006年訪問(第8回) 会員 天野邦彦 君

撮っておみえです。個人的な趣味でありましょうか。生徒さんたちは皆おそろいの緑色のロンジー (一見スカート風のもの)を着ていましたが、その光景はやはり異国の地であるのだなあと感じました。 (ただし一部の教室から出迎えてくれた少し年



齢の低い子供達は他の子供達より粗末な身なりをしており、 ロンジーは着ていませんでした。)



講堂にて寄付の贈呈式が行なわれました。今回の参加メンバーはそれぞれ何がしかの役割を壇上に出て行なわければならず、またまた緊張の連続です。大勢の人を前に話しをする事は殆どのロータリア

ンの皆さんは慣れてみえる様ですが、私はこれがとっても苦 手。緊張のあまり気が遠くなってしまいそうでしたが、そこ は精神力で耐えました。何を話したのかすっかり忘れました が、事無く仕事を終了する事ができました。最後に田中さん が皆の注目を引くべく登壇をされたのはさすがです。モー氏 の通訳によって我々のスピーチが進み何回かのセレモニーを 終えて無事公式行事の一部が終了しました。

今回、鉛筆、ノート、服その他諸々を岡崎城南ロータリー の代表として高等学校へ寄贈したわけですがある一部の子供 達にとってその物自体の貴重さは相当なものではないでしょ



うか。たしかにミャンマーの市街地 においてはいろんな物品は売ってお り、手に入るとは思いますが先程目 にした他の子供達と少し服装が違う 子供達にはおいそれとは手に入れる 事はできないのではないでしょう か。 (思い違いかもしれませんが)

私は今回のミャンマー訪問で初めて外国らしい所を見聞き したと思います。見る物、環境、風土どれを取っても初めて づくしでとても良い勉強になりました。多大な御協力して頂 いた会員の皆様、また同行して頂きました皆様に深く感謝い たします。

「近藤隊長、ご苦労様でした。カンパイ!」 (記:2006年)

# 「I love Myanmar. I love Magway.」



ン間が飛行機で2時間。これにバスの5時間を足せば移動に要した総時間は14時間、それだけかけて今回の目的地に着くのだ。私は交通機関に乗ると、なるべく目的地に着いてほしくない、ずっと乗っていたいという性格。マゾヒスティックな快感が心と体を満たす。



マい瞬こ覚小でえが鳥いいだのない瞬こ覚小でえが鳥いいだれる。今の、生2,000と五立感感感でいる。を経強襲高のを五立感感感の大路を経強襲高のをもでで極いたらのがないといいないをはいしなた生出歌うれなよ日

になったような気分だ。田中角栄もこんな感覚を味 わったのだろうか?

マグエ第一高校の図書館建設のセレモニーには、私にも役割が与えられていた。子供用衣服の贈呈である。ミャンマー初心者の私には軽い役割が割り振られた。先輩諸氏もそれぞれ出番があるのだが、私も含めてそのスピーチ内容は近藤隊長によりしっかり台本ができていた。みなさん日本語でスピーチし、それをキョーキョー・モー君が通訳する。台本があると本領を発揮できない私は、軽い緊張を覚えていた。

「今回、地域の恵まれない子供や生徒に、子供用衣服



2006年訪問(第8回) 会員 岡田吉生 君

約80枚を持参しましたので、ボランティアグループの皆さん、彼らに配布をお願いします。」ベタに読んで15秒、う~ん。アドリブ入れたら、近藤隊長いやがるだろうなあ。

式の終わり間際に私の出番が来た。それまで式は 粛々と順調に進んでいた。



「恵い本始目藤チせて今ま…どめの隊ャ」いないがで合うでいいがで合いがで合。のがで合。をは、は喋るのエのを調め、ないない。のがでは、は吹るのエのを調め、は吹るのエのを調め、

進みすぎてあっさり短時間で終わることを懸念して のことのようだ。

「……彼らに配布をお願いします。」原稿はここまで、さあ何話そう。

そのときなぜか英語の文章が頭に浮かんできた。

「This is my first visit to Myanmar. My impression of……」 あれえ、英語で考えてるよと思いながら、それを頭の中で日本語に訳して話し始めた。

「今回は私にとって始めてのミャンマー訪問です。……ミャンマーの青い空、子供たちの澄んだひとみがとても印象的です。」(なんかつまらないなあ。ふつうだなあ。)笑いを取れないと酸欠状態になる私の特異体質が顔をもたげる。

突然日本語に訳さず原文のまま口に出た。

I Love Myanmar. I Love Magway.

私には会場がどっと沸いたように感じた。隊長は報告の中で「すべった」と書いているが、私の意識の中では喝采に包まれていた。

調子に乗って「ミャンボー・マーボー天気予報」を 歌おうと思ったが、やめた。

今後この旅の中で歌う機会もあるだろう。

(記:2006年)

# ミャンマー紀行 遺産

今回父からミャンマー訪問の話を聞き、私は即座に「行きたい」と申し出た。理由は、妹が2度同行していることと、私自身旅行が好きで、アジアの中でもミャンマーを訪れる機会はめったにないと思ったからだ。私の知るミャンマーについての知識は、アウンサン・スーチー女史と軍事政権国家、そしてビルマの竪琴位だった。友人たちにも尋ねてみたが、ミャンマーに関してほとんどといっていいほど知識が無い。友人たちはこんな状態の私が果たしてミャンマーに何をしに行くのか?という疑問と不安を持ち続けていたようだが、それをよそに私は、少しの不安と大きな期待を胸に抱き、ミャンマーへと旅立つことになった。

ミャンマーの空港に降り立ち、辺りの暗さに驚いた。よく停電が起こるという記事を読んでいた私は「これが噂の停電か…」と一瞬思ったが、この国ではこれが普通の夜の明るさらしい。だんだん目

が慣れてくると、遅くまで小さい子を連れて 街を歩いている親子が目に付く。日本で同じ ことをしていたら、やや冷たい視線を浴びる ことになるかもしれないと思ったが、熱帯地 方であるミャンマーでは、暑い昼よりも比較 的涼しい夜の方が活動しやすいのだそうだ(確 かにあの暑さは半端ではない)。

れて同じるる地
較
(確

景色も昔の日本を思わせる場所が沢山ある。都会暮らしの私に とって、満点の星空を見たときは息を呑んだ。また、人々の澄んだ 瞳や笑顔、学生たちの目の輝きや心から学ぼうとする力に圧倒さ



座して祈る

れ、大学をただなんとなく卒業 した私は恥ずかしくなった。ま た、パゴダを見学している た、ちょうど日曜日と重なった こともあり、多くの家族連れの 人々をみかけた。ほとんどの 人々がお弁当持参で、朝早くか ら夕方になるまでパゴダで祈り を捧げるのだそうだ。御先祖様 を大切にするという習慣が薄れ ている今の日本とは違い、御先祖

様を大切にする心を持ち続けているこの国に私は感激した。この国 は懐かしい匂いがし、私たちが忘れてしまった何かを取り戻させて くれる気がした。のどかな良い国だなぁと。

ただし、良いことばかりではない。疑問に思った点もあるので、 そのことについて書こうと思う。

学校の図書館設立開館式典に出席させてだ。 まだいた時のことだったが終わり、帰ろうと、校長先生が湧き出してくれた。 が湧き出してくれたのだな私たちに見せるのに見せるのいと、 がったがいかと思い、



第5図書館KIBOH前にて

見せた理由を訊ねると、学校の

下には地下水が通っているのに地下水をくみ上げる機械が無いのだという。その真意は機械購入の資金を要請するデモンストレーショ



2006年訪問 (第8回) 市川聰明会員の令嬢(長女) 市川麻耶さん

ンだったようだ。私は少し違和感を覚えながらも学校を後にした。



話は変わるが、観光地に行くと必ずといっていいほど子供たちの物売り攻撃にあう。中には旅行者の持っているお菓子などをねだる子供たちの姿も見られた。初めのうちは私もキャンディーを何気なく渡していたのだが、そのうちに「日本人=必ず物をくれる人」という目で見られること

に気付いた。

さて、先進国と呼ばれる国(人)が、発展途上国である国(人)に対して物をあげるという行動はどこからくるのだろうか。まずは同情心からではないだろうか。先進国としては発展途上国に対して良いことをしたという「自己満足」ができる。一方、発展途上国は、私たちはかわいそうだからなんでも貰えて当然なのだと言わん



ばかりに要求する。そこには、 「自国で解決する前に他国に頼ろ うとする体制」ができてしまって いる気がする。

生活や教育は確かに重要なことだが、それ以上に重要なのは「自らつくり出す力」なのではないだろうか?

この国には、多くの自然や古き良き文化があり、子供達の輝いた 瞳や純粋な笑顔がある。これらは決して失ってはいけない遺産と言 える。援助の際にはそのことを忘れてはならないと思った。

(2006年2月 記)



親子仲良く、馬車に揺られる

# 11回目となるミャンマーを訪問して



式典で挨拶する田中氏

本クラブ創立10年目に当クラブ独自に始めたミャンマー教育支援プログラムについて振り返るとそのきっかけは、1997年米山奨学生として当クラブで受け入れたキョーキョーモー氏の故郷に何かを・・と言うことで進められた。当時ロータリークラブの無い国に対して国際奉仕活動を行うことは良いのかなどクラブ内で色々議論が出た。地区等に承認を貰いその後、現在まで続いている。今回で12回目になるが1回目は1999年ヤンゴンにあるアローン第5高校に学校の道路舗装工事を寄付、2回目は同高校の講堂等の修理費用を寄付、第3~7回までミャンマー各地へ5棟の図書館を、それらは図書館「KIBOH」と名付け建設し寄贈してきた。

このたび当クラブが創立20周年を迎えた2009年給水施設、道路整備、図書館など「物作り」からミャンマーで苦学している医学生のための奨学金制度である「奨学会KIBOH」を創設し、ザガイン管区内の各地区より数名推薦を受け、当クラブにて成績を基に毎年2名の医学生を奨学生として決定し奨学金を贈る制度とした。昨年より始めその学生を入学から卒業までの5年間、一人当たり毎年五百~六百ドルを贈り、支援している。



が、今回、参加者は私を含め高齢者も多くなり、今回は奨学生達にザガイン管区シュエボなどから(約860km)高速バスを乗り継ぎ約12時間以上も



2010年訪問(第11回) 会員 田中 暉登 君

かけてヤンゴン (旧首都) に来て貰った。彼らの中には生まれて初めてヤンゴンに来た学生も多く意外に結構、喜んでいた。

奨学会「KIBOH」認証式・奨学金支給式は市内のレストランにて行われた。その式典後夕食会、会員の皆さんから頂いた景品でビンゴゲームを行い、学生達と楽しく過ごした。今回、クラブ会員から資金カンパを行い集まった73,000円でヤンゴンにて子供用図書を購入し、既にある図書館「KIBOH」5館へ寄贈した。



ミャンマーについて皆さ んの知識としてどれだけ 知っていますか?

マスコミの流す ニュースな悪く」 「旅行などしづら い国」だと思って

いる人が多いと思うが、現実は仏教による宗教の信仰心があり、本当に親切で優しい人々が多く、また学生達は明るく素直な生徒ばかりです。この子達が一人でも多く医師になりミャンマーの人々のために活躍することを望む一人であります。

(記:2010年)



寄贈する図書に押すゴム印

# ミャンマー「モノより人への援助」



2010年2月11日から15日 岡崎城南ロータリークラブの世界社会奉仕活動(WCS)でミャンマーに行ってきました。今回2回目で、参加メンバーも前回参加者(ベテラン参加者)の隊長K氏、T氏、O氏、I氏と私の5人で少ない人数となりました。いつものように朝早くJR岡崎駅よりセントレア行きのバスに乗る予定でしたが、先に来ていたT氏とI氏が不安な表情で「バスがない」と叫んでいた。とりあえず私の車で東岡崎に行ぐととした、そこには私たちの心配をよそに、K隊長とO氏が待っていた。まずは一安心・・・・・

ミャンマーへは直行便がない為、タイ経由になり、タイまで7時間はどかかる。この間、飛行機に乗りなれていない私には、とても苦痛の時間である。エコ/ミーのため座席が狭く寝るのも外の景色も見られずただ耐えるのみ。タイに着〈1時間前に機内食が出る、それを食べて気を紛らわす。

タイからミャンマー・ヤンゴンへは2時間ほど、ヤンゴンへ着いたらもう真っ暗、夜7時(日本時間9時30分)であった。空港には モー氏とその仲間が迎えにきていた。



早速夕食を、市内のレストランでとる中華料理だおいしいものもあるが、私の口に合わないものもあるが、私のは食会感覚で食が始める。ただミャンマービールはとてもおいしい。次の日朝早く目が覚める。時差の関係か早朝の4時には関わらず

ホテルの廊下が騒がしかった、朝一の飛行機でバガンに行く観光客かな?前回観光でバガンに行ったがパゴダ遺跡と地平線に沈む夕日はとても感動した。

朝食事を終えホテルのロビーでモー氏と会った、奨学生がヤンゴンに着いたようだ。彼らは10時ごろやってきた。早速日本からのプレゼント(デジカメ)を渡し片言の英語で操作説明をするがすぐに使いこなしていた。彼らも日本の学生たちと同じだなと思った。昼から学生たちとショッピングに行った店に入るときはボディチェックを受けるまた現地の人はバック預けてから売り場に入っていた、



2010年訪問(第10.11回) 会員 松永 茂夫 君

万引き対策か? われわれは バックを持っていてもOKだっ た。

夕食時 奨学金支給の式 典とビンゴゲームを楽しみ翌 日遊園地、動物園観光を 行った彼らには珍しいことだっ たようだ、20年前、自分の子 供たちを連れて行ったことを 思い出した。

こうして特段の問題もなく帰国することができた。

2回の訪問でミャンマーが、 少しづつではあるが経済発 展をしていると感じた、道路の 信号機にLEDのタイマー表





示や ショッピングセンターには なんとIPODも展示してあった。しかし一番感じたのは、学生たちの生き生きとした目と明るい笑顔である。

観光としてのミャンマーも魅力があるがWCS活動を推進している 我がクラブメンバーとして、学生たちに会えることにとても楽しみを感 じる。「モノより人への援助」彼らに援助し大きく育ってくれることを期 待したい。そのときまたミャンマーへ行ってみたいと思う。

最後にこのような機会を作ってくださった隊長のK氏とWCS委員 長のI氏 また理解ある城南ロータリークラブの皆様に感謝いたします。 (記:2010年)



# ~ 我が城南RCの

### 国際奉仕・世界社会奉仕プログラムだ ~



1999年~2010年まで12年間の長きに渡り、先輩諸兄により継続事業として引き続けられて来た。通学道路の整備に始まり、教室兼講堂の修理、5館の図書館の建設や図書の寄贈、給水設備の建築と続き、クラブ創立20周年を期に、「社会に役立つ人を育てる」をテーマに奨学金『KIBOH』を設立、さらに1999年発足の『あおい奨学金』(15名の奨学生)とあわせて一本化して以来、2010年2月現在卒業生を含む奨学生は19名に及ぶことは周知のことと思います。

今日までの奨学金総額は \$55,000 -。さらに、会員 から寄付された文具・子供服 等を10 kg 入りの段ボール ケースで55箱 (600kg以上) を、現地ミャンマーに足を運 び直接手渡してきた。



奨学金の支給



シュエボ第1高校でテープカット

1999年~2010年の12年間に11回のミャンマーへの訪問(2008年は政情不安の為中止)を行い、



2009~2010年度 WCS委員長 市川 聰明 君

延69名(会員63名と家族6名)が現地を訪れている

会員19名とその家族6名の人々が、どうして?

遠くて

(岡崎発、ヤンゴンホテル着まで約15~16時間)

- ・熱くて (気温34度以上)
- ・埃っぽい (乾季のため、酷い砂埃)
- ・不衛生 (水は雨水?ため池の水?川の水?)
- ・誘惑もスリルも存在しない国に

3泊5日の日時と一人当たり22万円近くの費用を費 やして、何故に訪れるのか?

<del>31-</del> 881⊏1 <b>%</b> L	お明く日とめ	ᆉᄜᄉᄇᄥᄴ
訪問回数	訪問会員年齢	訪問会員職業
10回	60歳	不動産
9回	68歳	家具製造
7回	58歳	弁護士
6回	70歳	新聞販売
"	64歳	新聞買取
4回	65歳	高僧
3回	52歳	市議
2回	63歳	製造
"	60歳	倉庫
"	60歳	印刷
"	59歳	事務機
"	56歳	産廃
1回	64歳	花火
"	62歳	眼鏡
"	58歳	税理士
"	55歳	テニス
1、2回		退会者3名
	計	19名

黄金に輝くパコタ、パガ ンの夕日に魅了されて なのか?

マンダレーの夜空の星の輝き、インレイ湖の静けさ、チャイティーヨの自然の不思議さなのか?

ミャンマー人々の生活の 素朴さに昔の生活を思 い起こすからなのか?

どれをとっても日本では 味わうことのできなく

なった自然の魅力がこの国には残っている。



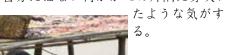




学校を訪問しているときの子供の笑顔、キラキラと輝く子供の眼、どんな宝石よりも心に残る光がそこにある。日本人の忘れかけている何かが、貧しくてもミャンマー人には残っているような気がする。

私も最初の訪問から何の事故もなく、6回の回数 を重ねることができた。関係者に恵まれたこと、娘 二人を同行できたことに感謝している。

ミャンマーという国の一部を知ってから、ではあるが、今までの自分にはない何かが心の片隅に芽吹い







者が多い。来年からも我がクラブの継続活動ととえるならば、訪問者として40~50歳の若き?会員諸兄の参加をWCS委員長としてお願いをしたいと思う。

#### 会員諸兄の皆さん!!

パガンの夕日と、子供たちの星空よりも美しい眼の輝きを、一度現地を訪れて味わってみてはいかがだろうか?

訪問によって、諸兄の人生観が変化するかも知れ ません。

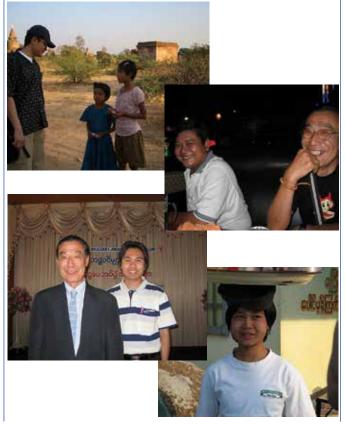
#### ~一度は行ってみようよ、ミャンマー~

最後になりますが、今年度の世界社会奉仕活動にご協力くださいまして、誠に有難うございました。会 員の皆様温かい心遣いに心から御礼申し上げます。

また、事故・トラブルもなく訪問活動ができたことに同行者各位のご協力に感謝いたします。本当に有難うございました。

この事業が永く継続されることを願っています。 また、皆様の健康を祈念いたします。

(記:2010年)



# ミャンマー・2013年の様子

既に大勢の先輩方が紀行文を執筆しており、正直に言ってネタが尽きている感があるが、なるべく 重複しないように2013年のミャンマーの様子 をお伝えしたい。

#### 乾期のミャンマー

ミャンマーには暑期、雨期、乾期の3つの季節があり、私たちが訪れた1月下旬は乾期に当たる。

ミャンマーに旅立つ前に多くの方から暑いと聞かされていたが、実際に現地に立つと全く暑さは苦にならない。日中30度を超えることがあるが、日本の夏のような蒸し暑さはなく、カラッとしていてとても過ごしやすい。感覚としては北海道のような爽快な暑さだ。

じものでも平気だっ た。北風が吹きすさ ぶ真冬の日本と比べ ると別天地のよう

念のために雨具も

持参したが、これまた全く不要だった。モーさんいわく、乾期には絶対に雨が降らないそうだ。そんな話を聞いた直後、ヤンゴンでわずかながら小雨が降り、モーさんが絶句していたのはご愛敬。

むしろ、これから行かれる方は朝晩に15度くらいまで冷え込むことを心配された方が良いと思う。長袖シャツや薄手のジャンパーのようなものがあると安心だ。





2013年訪問 (第14回参加)

会員 永谷 和之君

#### ミャンマーの酒

湿度が低く快適だと言っても、日中は30度を超えるので暑い。そんな暑い季節に飲むと美味いのが ビールだ。

現地で飲んだのは、ミャンマービール、タイガービール、マンダレービールの三種類。飛行機の中ではシンハービール(タイのビール)が出てきたが、ミャンマーでは一度もお目にかからなかった。

ミャンマービールは、何とも表現し難い独特の風

味があるが、3種類の中では最もライトなビールだ。現地ではとこの店に ピュラーで、どこの店に も置いてあったし、街頭にもよく看板が立って た。

タイガービールは、日 本のキリンビールにとて も似ている。青いラベル がドライな印象を与える が、実際の口当たりはそ れなりにコクがあって美 味い。



私が一押するのはマンダレービールだ。日本のエビスビールを彷彿とさせる濃厚な口当たりが特徴で、聞けば、本場ドイツから職人と機材を持ち込んで製造を始めたとのこと。その説明を聞いてなるほどと納得した。ただ、その後、軍事政権がこのビール工場を接収してしまったらしい。ミャンマーらしい話だ。

モーさんにビール以外の地酒はないのか尋ねたが、現地にはいかがわしい酒しかなく、とても健康の保証ができないとのこと。チャレンジしたい気もしたが、ミャンマー初心者の身なので今回は遠慮した。

### ミャンマーの交通事情

現地の交通事情についても先輩方から色々と聞か されて(脅されて?)いたが、実際に言ってみる と、これまた何ということはなかった。

入国してから出国するまでの5日間は、飛行機で の移動を除いてバスで移動することが多かったが、 舗装されていない道というのは一度もお目にかからなかった。地方へ行くとセンターラインもないような田舎道だが、ちゃんとアスファルトで舗装されており、ガタガタと揺られていくようなことは一度もなかった。



日本と異なり自動車は右側通行とされているが、町を走っている車のほとんどが日本製の中古車で右ハンドルという点が印象的だった。これだけ日本車が多いなら左側通行にしたらどうかと思うのは私だけだろうか。

また、同行した先輩方の話では、1年前と比べてもかなり自動車が増えているらっているのの移動しくなっては激しくなってた。ある交差点でのおってに20分近くももかった。その法帯であるまでに20分近くももつった。それだけの事の間を歩き回て商売しいまでは面白い。それだけるのは、ミャンであることなく待ち続けているのは、ミャンががの国民性なのか、それともピーナッツのおかげか。









#### ミャンマーの奨学生

国際奉仕活動としてミャンマーに行っているので、最後に奨学生のことを紹介したい。私が今つつとを紹介したい。私がけ持つでスポンサーをさせていただき、私が受け持していたのは大学1年の女子学生だ。マンダーの空港で初めて会ったとき、流暢な日本語介したの名前はピーピュータインです。」と自己藤隊長もくのの日本語のとしきりだった。ある日、彼女に驚いたのはなどしきりだった。ある日、彼女に覧にないというを記したのか強していないという。勉強がとても好きだと笑顔で語る彼女が印象的だった

そんな学生たちに接すると、どうして先輩方が15年にも及ぶ援助を続けてきたのか本当によく分かる。

初めての訪問でこれだけミャンマーを満喫することができたのは、モーさんや近藤隊長を初めとする大勢の方に気を遣っていただいたおかげです。この場を借りて改めて厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

また色々とご心配をおかけしたことも、この場を 借りてお詫び申し上げます。



# 不思議な国ミャンマー

昭和30年代初め日本にはまだ自動車も少なく、道路も幹線 道路以外大半が未舗装。テレビもまだ無くラジオだけ、子供は 雑貨屋でガラス箱に入ったあめ玉を買い、道路には八百屋、 魚屋からはみ出たナス、カボチャや魚が並ぶ。停電もチョクチョ クありロウソクで過ごした夜もあった。町内の祭りは大人も張り 切って盛り上げていた。子供達は空き地や畑で元気よくチャン バラごっこや鬼ごっこで遊んでいる。雨が降れば、道路に水たま り。そんな光景を思い出してください? それが今のミャンマーで す。私は6~7才の時の記憶が蘇り、タイムスリップしたような不 思議な気分でした。でもミャンマーの車は昔のスタイルでなく15年前の日本の中古車ですが・・・・・。



さて2000年2月、初めてミャンマーを訪れた。夜7時にやっと着いたヤンゴン国際空港内は真っ暗、ちょうど停電であった。ロウソクの光の下で入国審査。もうここでミャンマーの洗礼を受けた。というのは、入国審査で1時間、ターンテーブ

ルで荷物を待ち1時間、加えて税関で30分、何でもゆっくりのミャンマーがここから始まった。このユックリンには、慣れないと腹も立ちます。例えば、第5回目訪問の前年2002年11月始めに会員より寄付を受け文房具、衣類、団扇などダンボール箱23個を船便で送った。船で約25日かかりヤンゴンに予定通り到着。その後ヤンゴン郵便局でなんと30日間の税関検査,結局我々の2003年1月の訪問時にこれらの寄贈品をプレゼント出来ずに帰国。(その15日後にボランティアに荷物が渡った)ミャンマー人は待つことになれているか、それとも諦めているのか知らないが我々にはそんな感覚はありませんので何時もイライラのし通しです。

ビルマ語は難しい。中国語は4音あると言うが、ビルマ語は6音あるという、日本人の我々には全く聞き取れない。むろん文字も丸い文字で判読不能。そこで会話のためにネッで探した「指さし会話帳」で会話。各イラストにビルマ文字と日本語が併記されているものだ。これで結構会話できる。「これ少し負けてよ」と言うビルマ語を指さしてこの会話帳を差し出す。するの店員がビルマ語の「幾ら?」と言うところを指さし答える。後は簡単な英語で交渉する。同行した会員の娘さん達は、この会話帳でロから声を出さずに結構お



(これで「近藤さん」と読

しゃべいをしていた。また、先々回よいにれが、同行者田中氏の必携アイテムになり、至る所活用している。

ミャンマーの観光というと、パゴダ(仏塔)のみと言って良いかと思う。はじめの2~3箇所のパゴダは、それなりに見学しているが、あとは皆同じ様に見え、飽きてる。また、おみやげ屋も何処も同じ商品が置いてあり目を引くものはない。



2000年~2010年訪問 (第2~12回) 会員 近藤正俊 君

私は市場見学が好きだ、市場は露天集合型と大きな建物内の多店舗型との2種類ある。どちらも好んでいく、別に買い物をするわけではないが、庶民の生活を目と臭いで感じるから見ていて飽きない。猛烈に臭う魚屋の隣に小ぎ



れいな貴金属店が臭いを気にせず営業している。日本にも昔この寛容さはあったと思う。見慣れない野菜や果物を見つけると楽しなる。お菓子などパッケージに意味不明の日本語文字が書かれた中国産のものがあり驚かされる。それと、値段も驚くほど安い、ほとんど中国製で粗製濫造に近いものばかりと感じる。下シャツなど10枚で500円、ボールペン10本80円、驚く値段、多分一回で使えなくなるだろう。だからミャンマー人は、良質な日本製品を好む。また電気製品は高いが品質の良い日本製がよく売れている。中古衣料も日本製が多く売られている。多分廃品回収で集めたものが流れているのだろうか?日本語で学校名の入ったジャージや体操服もあり堂々とそれらを着ている人も多い。



ファッションなど無関係な国だ。いやこれがニューファンションかも?

ミャンマーの人たちの服装は、男も 女もロンジーという巻きスカートがほと んど。最近ヤンゴンでは、男がズボン を履くようになってきているが、女はロ ンジー以外見られない。トイレのない ところ(野外)では、小の方でも男は 座って用を足す、一見「大」をして いるように見える。だが郊外では野 外の立ちションは注意が必要。サソ リがいるというので、我々は出るもの

も出ない。

つい最近まではロンジー着用時は日本の着物と同様に下着は着けなかったようだが近年は着けるそうだこのロンジー、一着オーダーでも綿製は500円もしない。私も一着持っている。夏の暑い日は快適で、短パンよりも涼しい。

ビルマ語で名前のことを「ナメー」というそうだ。ミャンマー人の名前は、姓はなく名のみだ。生まれた曜日に因んだ名前を付ける。だから名前で、生まれた曜日が分かるそうだ。

月曜日 (例) kyaw (チョウ) Khine (カイン) Gyi (ヂー) khin (キン) 等

火曜日(例)Saw(ソウ)Soe(ソー)Zaw(ゾウ)Nyaing (ニャイン)等

よって、似た名前が多く、日本人の我々は時々混乱する。

ケースバイケース。また家族の絆について言えば、姓というものが存在しなくても、これは日本以上に強いものがあるようだ。でも、一族を表すファミリーネームがないのは、なぜだろう? 一度調べてみたい。

ミャンマーの国土は日本の1.8 倍、人口は4900万人、だから まだ未開の土地は広大にある。 それも平原なので見渡す限りの 原野だ。所有は国だが一定面 積以上開拓すれば国より払い 下げ可能という。農地は田んぼ



1枚200m×500mの単位面積で耕作される広いものだ。主に米作が多いようで土が肥えてないから一期作、耕耘機もコンバインもない。機械化していないからすべて手作業、気の遠くなるような農作業だ。雨期にはたびたび有る洪水で農地に被害も多いと聞いた。広いから復旧は苦労だろう。

ミャンマーを代表する、エーヤワディー川(日本ではイラワジ川と言っている)は、本当に広い。ミャンマー北部を走るヒマラヤ山脈の南部から流れ出し、ミャンマー中央部を北から南へと2400km流れ、アンダマン海に注ぐ。乾季から雨季では水位が10m近〈上がり、水上交通の大動脈にもなっている。また数少なくなった川イルカ(イラワジ・イルカ)の生息地としても知られている。寛大且つ偉大な川、これが本当の「大河」と言えよう。

ミャンマーの食について語ろう。首都ヤンゴンには、和食、インド料理、タイ料理、中華料理、イタリア料理など何でもあり楽しむこと



が出来る。さすが首都だけ有る。しかしヤンゴンを離れた地方では、ミャンマー料理だけになる。このミャンマー料理は、全般的に脂っぽく、香辛料、ニンニクを使い、中年の日本人には、馴染まない。ミャンマー料理と中華料理を食べ比べると中華の方がさっぱり

味に感じるらい、マンマー料理は脂が多い。油は料理により 1. ラード、2. ピーナツ油。3. ゴマ油。4. ココナッツ油 (輸入品) 5. ひまわり油。 を使うようだ。 食べ慣れない油なので余計に馴染まないのだろうか?

だが二品だけ、キンマー料理でお薦めできるものがある。それは、朝食に食べる「モヒンガー」だ。米でてきたヌードルを、魚を発酵して作ったナンプラーという醤油ベースのスープに入れ、魚や鶏肉などトッピングしたものだ。これはさっぱり味で、なかなかイケル。あとは、お馴染みの「チャーハン」、長粒米にチャーハンは最適。どの店も旨いと感じる。

尚、食肉は、鶏肉が多い。一般的に牛肉は硬くて食べられない。多分太った牛がいないのか、食肉用の牛でなく、農作業のやせた牛なのか?ともかく牛肉は期待しない方が良い。豚肉もあまり見かけない。

ミャンマー料理に飽きた後に海鮮料理を食べたいが、ここでは無理だ。なぜなら、魚、エビは、全て川魚、海魚はない。海に近いヤンゴンにもない。多分冷蔵設備や技術が遅れてるし停電も多いので無理なのだろう。こんなに油を多く使う料理が多いのに肥満した人は少ない。しかし一部の金持ちはデブが多い。デブは

富裕層の象徴のような体型ともなっている。ヤンゴンで食事を楽しむなら中華料理だ、フカヒレなどの高級食材はないが、ピータンや飲茶など本当に安く食べることが出来る。経営者は主に中国人のようだ。また、インドに近いのでヤンゴンにはインド人街がある。カレーもイケル。野菜カレーやチキンカレー本当のカレーはこんな味だったのかな?暑い国は、辛いものが好まれるようだ。

果物も豊富にある。バナナでも黄、赤、黒と十数種類あり、スイカやパパイヤも安い、雨期には、とても美味しいと有名なマンゴー、ドリアン、ジャックフルーツなど取れる。マンゴーを食べに雨期に一度ミャンマーへ行きたいと思う。只、イチゴは日本のものの方が数段おいしい。ミャンマーのイチゴは、原種に近く、堅くて甘なな、とても小さいものなのでお勧めしない。



ミャンマーの通貨はkyat(チャット)、現在紙幣のみ、硬貨はあるらしいが流通していないし造幣もしていないようだ。この紙幣がくせ者で古い紙幣が多く、臭いも強烈だ。排泄物と同じ臭いだからたまらない。加えて紙幣が最高額で1000チャット(100円相当)だから10万チャット(1万円相当)だと100枚、500チャット札で200枚、とてもかさばり財布には入らない枚数。

金持ちは、10万チャット単位に輪ゴムでまとめ、カバンに入れ持ち運んでいる。銀行を信用しない大多数の国民は、本当の意味でタンス預金らしい。よってもちろんクレジットカードは使用できる国ではない。



第1回目の為替レート\$1 = 350kyat、 第8回目の為替レート\$1 =1,130kyat

インフレが激しいので国民の生活は苦しくなる一方。そのため毎年犯罪が増加しているらしい。

特に、スリの被害が増大していると聞いた。バスとか船、電車など 人混みの中で被害に遭うという。カバンをカッターで切り、そこから 現金だけを抜き取るという悪質で恐ろしい手口だ。ただどこかの国 のように毎日起こる血なまぐさい事件は少ないようだ。これも敬虔 な仏教徒の多い国民性だろう。

国民性と言えば、世界三大仏教遺跡と言われるカンボジアのアンコールワット、インドネシアのボロブドゥール、そしてミャンマーのバガンがある。前述の二者は世界遺産として認められているが、バガンは認められていない。その理由、国民が遺跡を勝手に自由に修復するため過去の物と異なる物になってしまっている。つまり復元とか修復でなく素人が補



修したため世界遺産の認定が取れないとのこと。ミャンマー国民の人柄が出ている。なにかホノボノとした空気が伝わってくるようだ。



パガンの日の出と夕日 は素晴らしい。遺跡とパ ゴダしかない田舎なので 空気が綺麗で邪魔す る建物もないため「日の 入り」は見る価値があ る。今まではパゴダに上 リタ日を見ていたのだ が2005年10月に国

策により遺跡が一望できるよう展望用タワーを建築した。 広い遺跡の中に建設したため、小生当初はそんな無粋なものは 見た住ないと思っていたが2006年2月訪問時にその展望タワー に登った。タワーからパガン全体を見ることができ、また、無粋なタ ワー内には前面ガラス貼りのレストランからビールを飲みながらタ 日が独占でき、観光客にはベストスポットと感じ始めた。

2005年8月 ミャンマー政府は突然ガソリン価格を8倍に値上げした。もともとガソリンは配給制であるが闇価格も当然8倍に、全ての物価に影響し始めた。2006年訪問時、ヤンゴン市内の車がどことなく少ないように感じるくらいガソリンの値上げが庶民の生活に大きく響いているようだ。これによりインフレにも拍車が掛かり、「微笑みの国」はどうなるんだろうか?

粗悪ガソリンでヤンゴンの街は臭い、停電は日常茶飯事、飲み



水もミネラルウォーターしか飲めない、標準時報もなく、時間はいい 加減、衛生観念などない国ミャンマー。私はこの国に7回も行っ た。なぜだろうか? 自分でもわからない。

平成17年8月にキョーキョーモー氏の両親が来日し、彼の住居(横浜市)を起点に両親は長野県、愛知県、奈良県、福井県など精力的に観光し約1ヶ月間滞在した。藤江会長の招待で当クラブ例会にもゲストで来た。そこで日本の感想を聞化初来日の母親は、「日本には田舎がない」という。ミャンマーの田舎は、広い平原に未舗装の狭い道路が続き、ぼつりぼつりと民家が点在、高床式の木造住宅に数匹の家畜がいて、自給自足の生活。日本はどうか?道路は舗装、どこも住宅はキレイな屋根や外壁、集落内の道路は、全て舗装道路で自動販売機が至るところにある。そんな風景に、田舎がないと思ったんだろう。又、「日本の橋は綺麗だ」とも言っていた。そういえば、日本の橋梁は欄干にオブジェなどありデザインにも金を掛けている。だがミャンマーの

橋は、飾りむないちょうど日本のローカル鉄道の古い鉄橋のような感じだからそう思ったと推測する。また、私が父親に贈り物をしたいと申し出ると、ミキサーと電話機と返事が来た。ミキサーで乾燥エビを砕き食するそうだ。加



工食品が少ないことが分かった。電話機は電源の要らないものを指定、停電が多いので電源は不要とのこと。電気事情の悪さがよく分かる。よって私には安価のもので助かった。別日にモー氏より両親が和風ドレッシングが気に入ったとの情報も得ていたので、後日、数種類のものも差し上げた。帰国時にお土産が多すぎて苦労したようだ。私はミャンマーのホテルでも生野菜などサラダ類は食べたことがない。水が悪いから多分作らないのだろうか?さて、あのドレッシングは何に使うのだろう?

ൻu്ർറനer: girl

親切でやさしい人々が多く暮らすミャンマー。政治的には多々あることは承知しているがそれらを今言わないでおこう

そういえば、この国には東南アジアのどの国の首都にもある歓楽街というものが見当たらない。よって毎夜ホテルのラウンジでいつものおじさん同士の歓談で夜は終わる。

本当に、ミャンマーのナ仆ライフは寂しい。

仏教信仰に熱心なミャンマーの人々 の楽しみは、現世のはるかかなたにあるのではないかと思えてならない。 (2006年記)

# 不思議な国ミャンマー、まだまだ見飽きない。





# 沈黙のミャンマー

# 「微笑みの国」だが今、国民は無言の抵抗をしている。

編集/発行:ミャンマーを愛する

発行日:2007/10/23

### 自由へのメッセージ

外を戦車が走っていないことだけを取り上げて、この国に問 題がないなどと言うことはできません。街に戦車の走る国は 世界にそうはありません。にもかかわらず多くの国で人々の 基本的権利が尊重されていないのです。(アウンサンスー チー)

国民を守るための軍隊が、丸腰の国民に銃口を向け銃弾を発 射した。治安部隊と称する第66師団は、本当に貧しい少数民族 の兵士を集めた部隊で宗教も民族も異なる部族。だから僧侶 や一般市民にも銃を乱射した。もはや、恐怖政治と言っても 過言でないミャンマーの軍事政権。

#### 軍事政権

軍政トップのタン・シュエ議長 絶大な権力、逆らう者は失脚 2007年9月29日配信 産経新聞

ミャンマーの軍事政権は、最高意思決定機関、国家平和発 展評議会 (SPDC) のタン・シュエ議長をピラミッドの頂 点とする厳格な縦社会からなっている。議長の決定は絶対と いわれ、過去、議長の不興を買い、汚職などの罪を問われて 失脚していった軍政幹部も少なくない。

「ミャンマーでは法律は重要ではない。何でも議長の考え 次第だ」。地元紙の記者がこう指摘する通り、「タン・シュ 工議長の支配体制は盤石」 (ヤンゴンの外交筋) とされる。 同記者によると、最近2~3年で、議長の逆鱗(げきりん) に触れ、汚職などの罪を問われて収監された軍人や政府職員 は1000人を下らないといわれる。



タン・シュエ議長の絶大な権力を最も象徴する事件は、2

004年10月、軍政内部で比較的、穏健派とされた当時の キン・ニュン首相(序列3位)の失脚劇だった。軍情報局の トップを兼任していたキン・ニュン氏は、不正蓄財や、軍幹 部の秘密情報を握っていたことが議長やマウン・エイ副議長 (序列2位) の怒りを買い、汚職罪などで懲役44年の刑を 受けた。キン・ニュン派人脈は徹底的につぶされ、情報局そ のものも消滅した。

キン・ニュン氏の失脚後、軍政指導部は民主化勢力への強 硬派で固められている。序列3位のトゥラ・シュエ・マン陸 海空軍作戦調整官は議長の右腕とされ、将来の後継者と目さ れている。同4位で入院治療中のソー・ウィン首相は200 3年に民主化運動指導者アウン・サン・スー・チーさんの拘 束を直接指揮したとされる。

ミャンマーでは、軍が中心となり、英国の植民地支配を脱 し独立を勝ち取った歴史がある。しかし、その後、軍は政治 に関与するようになり、ネ・ウィン将軍(のち大統領)は2 6年にわたって「ビルマ式社会主義」を掲げ独裁体制を敷い た。ネ・ウィン氏は1988年、国民の大規模な民主化デモ で辞任するが、軍は国民のデモを武力で弾圧し、再び軍政を 敷いた。国民の言論や政治活動を厳しく制限する軍の存在 は、今では市民の怨嗟 (えんさ) の対象でしかない。 (岩田 智雄氏)

#### 鎮圧部隊の国軍兵士

日本人女性2人が9月29日午前10時過ぎ (ミャンマー現地時 間)、27日に日本人映像ジャーナリストの長井健司さんがミャ ンマーの兵士に銃撃された場所を訪れ、献花したという。

長井健司氏を銃撃した兵士は、小柄でゴム草履を履いてい る。ミャンマー人は一般的にゴム草履を履いているが、鎮圧 部隊の国軍兵士が軍靴ではなく、ゴム草履を履いている点に は違和感がある。 小柄な兵士たちの風貌からは、貧しい地 方の出身者であるように感じる。しかし、命令無くして銃 は、撃たない。



1988年の民主化 運動の際、ヤンゴンの 鎮圧にあたった部隊 は、チン州など貧しい 地域出身の少数民族兵 士だったと聞いたこと がある。ミャンマー国 軍には、少数民族の軍

# 軍政トップ

編集/発行:ミャンマーを愛する

発行日:2007/10/23

は、自身の出身の地域ではないところに派遣されてきた。少数 民族の多い各州にはその少数民族の反政府武装勢力がおり、同 じ少数民族同士が殺し合うことを嫌がる心理が働くからだ。

ウワサでは、少数民族の囚人を雇い治安部隊に仕上げたという 情報もある。 チン族・カチン族・カレン族などの少数民族に はキリスト教徒が多い。僧侶に対する弾圧のために、異なる宗 教を信仰する兵士を一部投入している可能性がある。

イラワジの報道によると、軍事政権トップのタンシュエSPD C議長とナンバー2のマウンエー副議長の間でデモ鎮圧をめ ぐって意見の対立があるという情報も出ている。また、バンコ クの西側外交官筋の情報として、マウンエー副議長が近いうち にスーチー女史と面会するという情報も出ている。

確認がとれた情報ではないが、もし事実であるならば、2004年のキンニュン首相更迭時のような事態が起こる兆候かもしれない。

[内容が重複するが、あるブログにもこんな記事が・・] ビルマの正規軍なら普段から軍靴を履いています。今回の治安 部隊がゴム草履なのは履きなれている軍靴を持っていないか、 あるいは支給されたが足に合わなかったものと考えられます。 また制服に折り目がついていることが不自然です。つまり少数 民族兵士を急いで編成し派遣したのではないかと推察するのが 自然ではないでしょうか。

また襲撃された僧院の僧侶の証言にもあるように完全なビルマ 語を話さなかったとありますが、このことからも彼らがビルマ で正規な学校教育を受けることが出来ないくらい辺境の地に住 んでいたということが推察できます。

以上、あるブログより転載。

# 謎に包まれた ミャンマー軍政のトップ

ミャンマーの軍事政権が首都をヤンゴンから同国中部の森林地 帯ネピドーに移してから、その実態は謎に包まれたままだ。

現在、実験を握る軍政は1988年9月、タン・シュエ議長らが率い



る軍部が独裁体制を敷いた ネ・ウィン(Ne Win)将軍へのクーデターを決行。1992年にタン・シュエ議長が軍政トップに 就いた。それ以来、ミャンマー軍事政権は秘密主義的な政治を貫いている。 早くから軍人としてのキャリアを築いてきたタン・シュエ議長は心理戦部隊に所属した経験を活かして、民主運動家アウンサンスーチー(Aurg San Suu Kyi)氏や、その他のライバルを排除してきた。専門家らによると、タン・シュエ

議長は軍事的な戦略やミャンマーの伝統に加え、占星術などのオカルト的な思想に基づいて政策を決定するため、その行動は 予測しがたいという。

首都移転の際のエピソードがその典型的な一例といえるだろう。2006年11月7月、タン・シュ工議長は 占星術のお告げがあったとして、突然、ミャンマー中部の森林地帯にあるピンマナ周辺に首都を移すことを宣言。官僚らは数時間以内に荷物をまとめて、移動するよう求められた。しかし、ネピドーと名づけら



れた新首都は、まだ水 道や電気といった基本 インフラも整備されて いなかったという。

や豪華マンションなど、ミャンマー官僚の贅沢な生活の一端を 知ることができる程度だ。

評論家によれば、タン・シュエ議長が首都を山奥に移設した理由の1つは、都市部の抗議デモを避けるためだという。

国家平和発展評議会(SICNC)が、1988年の社会主義政権崩壊に対する反応として作られた時、タン・シュエは21人のメンバーのうちの1人として指名され、ソウ・マウン将軍の片腕になる。その後、1992年4月23日、健康上の理由によるソウ・マウンの辞任に伴い、SLOR C議長(国家元首)、国防相、国軍最高司令官として彼の後継者になりSDCの議長としての任命された。

近年、タン・シュエ氏は国家平和発展評議会 (SPIC) 議長の辞任の準備をしていて、すでに、国軍最高司令官であるトゥラ・シュエ・マン大将に、かなりの権限を委譲し始めているというウワサもある。

なお、大規模なデモが始まった26日、、ミャンマー中部の新首都ネピドーにある空港からタン・シュエ議長の妻と子どもたちはチャーター機で出発し、ドバイに入国。現在も高級ホテルに滞在中と報じられている。また、ネピドーでは議長自らが、空港で家族を見送った模様。

### 【タン・シュエ議長の略歴】

1. 氏 名 タン・シュエ

(Chairman of the State Peace and Development Council, Senior General Than Shwe)

- 2. 生年月日 1983年2月2日生
- 3. 出身地 チャウセー

(中部ビルマの稲作地帯)

4. 現 職 国家平和開発評議会 (SPDC) 議長

# 多民族国家

編集/発行:ミャンマーを愛する

発行日:2007/10/23

(国家元首) 首相、国防相、国軍司令官

5. 学 歴 高等学校卒

6. 職 歴

1948年 高校卒業、郵便局員

1953年 国軍幹部候補生学校入校

1970年 第1連隊長

1983年 南西軍管区司令官

1986年 陸軍司令官

1988年 国軍クーデター、

国家法秩序回復評議会

(SLORC:97年にSPDCに改組) 委員

1990年 SLORC副議長、国軍副司令官、

大将に昇進

1992年 SLORC議長、首相、国防相、

国軍司令官に就任

1993年 上級大将に昇進

1997年 国家平和開発評議会議長に就任

(首相、国防相、国軍司令官兼任)

2003年 首相を退く

(国防省、国軍司令官はそのまま兼任)

昨年、独裁者タンシュエの娘が出来ちゃった婚での結婚式 を、国の迎賓館で行った時の起豪華結婚式映像が流れていま す。政商からの豪華な貢ぎ物ばかりだよ。

噂では出来ちゃった婚の子供はモト彼の子で、それに落胆した新郎は慰謝料代わりにシンガポールの駐在武官のポストをもらったそうです。

### 新憲法草案

ミャンマー軍政、新憲法草案で自治権と引き換えで、少数民 族押さえ込み

僧侶らによる反政府デモを「制圧」したミャンマーの軍事政権は、民主化勢力と並ぶ、もうひとつの大きな"敵"である少数民族の動きも押さえ込んだ。一時は10万人規模に拡大したデモが、急速に勢いを失った背景には、歴史的に民族解放を求めて闘ってきた少数民族のほとんどがすでに軍政側に取り込まれ、一大勢力として結集できなかったことも要因のひとつにある。

ミャンマーは人口の約6割強を占めるビルマ族をはじめカレン、シャン、カチンなど少数民族から構成され、細分すればその数は、150を超えるとも言われる。1948年の独立後、ミャンマーでは多くの少数民族が独立を目指して各地で蜂起し、深刻な状況に陥った。軍事政権が成立した1988年には、17の少数民族武装勢力が反政府闘争を展開。軍政にとって、大きな脅威になっていた。

軍政はこれらの少数民族に対して弾圧を進める一方で、「和解工作」を展開。89年、コウカン族と停戦協定を締結したのをはじめワ族、カチン族などと次々に交渉を進め、95年までに南東部の主要民族であるカレン族をのぞき、ほとんどの少数民族勢力と停戦を結んだ。

今回、発生した大規模デモでは唯一、残ったカレン族の武 装勢力、カレン民族同盟(KNU)が、軍政との停戦協定に 応じている他の少数民族に共闘を呼びかけたが、これに呼応 する勢力はなかった。



軍、ア数に強州以政したがををを取国通族っ。はがデ」「集戒断開は対した。結警分開に報数る、るたりで、政とチ万軍参じ民こ動工」に対して、政とチ万軍参じ民こ動工」

消息筋は分析する。

ミャンマー観測筋は、少数民族の積極的な関与を思いとど まらせている理由として指摘するのが、9月3日に終了した 国民会議によって採択された新憲法草案の基本原則の内容 だ。

「シャン州のパオ族は国民会議終了後、自治権を約束されたと喜びの思いを知人に語った」といい、民主化プロセスの過程で少数民族の中には軍政側から自治をほのめかされている可能性を指摘。すでに少数民族が反軍政として市民や僧侶と呼応する土壌は失われていることを示唆している。

※以上は、あるサイトに掲載されていたものだが、軍政は少数民族を巻き込んだ政策をしている。しかし、民主化になるとこの少数民族との乖離が生ずることは間違いない。火種は尽きない。

軍事政権が先月26日、反政府デモへの武力弾圧に踏み切ってから10日が過ぎた。最大都市ヤンゴンでは完全にデモが押さえ込まれ、表面上は以前の市民生活に戻りつつある。

ただ、現地からの報道によると、デモ参加者などの検挙がいまなお行われ、街に笑顔は見られない。一方、拘束された僧侶がハンガーストライキを断行したり、一部市民が国営放送の視聴を拒否したりするなど、軍政に対する"無言の抵抗"が続いているもようだ。

(記 2007年10月)

# "ドル箱"天然ガスが逃げ道

### 多民族国家

ミャンマーは多民族国家であり、150民族がいる。

ミャンマーには大きく分けて8つの民族がおり多数民族はビルマ族である。各民族はさらに細かく分類され、カチン族は12、カヤー族は12、カイン族は9、チン族は51、バマー族は9、モン族は1、ラカイン族は7の支族からなっている。インドからミャンマー西部の山岳地帯に住み首狩りで知られるナガ族はチン族の支族とされている。

平野部にビルマ族、山岳部に各少数民族が住む。各民族は言語学系統によってチベット・ビルマ語族、タイ諸語、オース

トロアジア語族、オーストロネシア語族に分けら

れる。

人種・民族 ビルマ族 68% シャン族 9% カレン族 7% ラカイン族 4% 中国系 3% インド系 2% モン族 2% 他

少数民族諸語 (シャン語、カレン語な ど)

言語:ビルマ語

(公用語)

行政は、7つの管区(タイン)と7つの州(ピーネー)に分かれる。 管区は、主にビルマ族が居住する地域の行政区

州は、ビルマ族以外の少数民族の居住地域で、自治権が認め られている。

ミャンマー (ビルマ) 国民の大多数が信仰する上座仏教に対し、キリスト教や土着信仰を重んじるカレン族、イスラム教を進行するインド系の移民たちは軍事政権と激しく対立したり、迫害されて難民として国外に流出したりしている。

≪経済制裁:軍事政権 "ドル箱"天然ガスが逃げ道≫

ミャンマー軍事政権による旧首都ヤンゴン市内の反政府デ モ武力弾圧で日米欧などが新たな経済制裁に動く中、日本貿 易振興機構(ジェトロ)アジア経済研究所は9月2日、中国の



支援や天然ガス輸出による外貨収入などを理由に「ミャンマーは経済危機には陥らない」として、これら制裁発動の実効性は 薄いとの見方を明らかにした。 僧侶や市民らによる反政府デモ の背景にコメや食用油など生活用品の高騰があったことも改め て指摘した。

同国の家計支出に占めるコメの割合は一般的に約2割、食用油が1割と高い比率にある

食用油はミャンマーの家庭料理に欠かせぬ食材であり、低所得層になるとこの2品目で家庭支出の半分近くに達するという。 昨年5月以降、30%を超える価格上昇が続くコメや、昨年12月ごろから3月にかけて一気に50%以上の高騰となった食用油、さらにガソリン価格の値上げなど厳しい生活環境への不満が、反政府デモにつながった。

問題の中国は、2006年に公表されているだけでも2億ドル(約230億円)の優遇借款をミャンマー軍政に供与。発電所などのインフラ整備のほか、民間案件の形で中国向け石油・ガスパイプラインの建設を進めている。エネルギー資源確保を狙う中国が、ミャンマーの天然ガス資源を狙って軍政と経済を支えている側面がありそうだ。

ミャンマーで天然ガスの生産量が増え始めたのは2000年以降だ。タイ向けに天然ガスの輸出を始めた。その外貨はミャンマー軍事政権の懐を十分、潤した。さらに刺激的な発見が2004年にあり、軍事政権から権益を獲得した韓国の大宇インターナショナル(が新たな天然ガス田を発見したのでだ。

ミャンマーの天然ガス田はベンガル湾のミャンマー領海に広がっているが、2004年に発見された鉱区は、ミャンマーの 北部、バングラデシュの領海に近い沖合で、シュウェ

(Shwe) と呼ばれている。当初、シュウェの天然ガス埋蔵量は $4\sim6$  tcfと推計されていたが、その後、新たな鉱区が発見され、最近では $5.7\sim1$  0.0 tcfあると見られている。

※国民は、生活に苦しんでいるが軍政幹部は、懐が豊だ。中国だけでなく最近は、インドにも利権を与え、益々、懐が膨らんでいるらしい。それが証拠に、米国にある多額の資産が凍結された。

編集/発行:ミャンマーを愛する

発行日:2007/10/23

# 本報告書作成に当たって

(Part-1 編集後記)

まず始めに、岡崎城南ロータリークラブの1999年から継続されているこの世界社会奉仕活動ミャンマー教育支援プログラムは、偏に岡崎城南ロータリアン全員のご理解と温かい支援により遂行できたことに心より感謝とお礼を申し上げます。

また、歴代の会長、幹事、国際奉仕委員長、WCS委員長並びに委員の皆様、目標の「ミャンマーに5館の図書館KIBOH」を達成することが出来、現在は医学生達への奨学金支給で教育支援に対し拡充しています。

当クラブの奨学金制度KIBOH奨学会では2009年より毎年2名の医学生の支援を継続し、加えてクラブメンバー有志の奨学金制度「あおい奨学会」からと併せて既に計9名の医師が誕生しました。心よりにの支援についてのご協力有り難うございます。

併せて、自費の訪問にかかわらず、数度も現地に赴てくれた訪問メンバーにも、厚く感謝したいと思います。そして我々の無理な要望や面倒な依頼も断らずこの事業のコーディネートや現地手配などしてくれ、またミャンマーの訪問に必ず毎回日本から同行してくれる京幸一氏(キョーキョーモー氏)及び奥様のゆり夫人(カインカインシュエさん)にも感謝します。この紙面を借りお礼申し上げます。

現在ミャンマーに建設した5つの図書館KIBOHは、図書を含め地元数千人の小・中・高校生の児童生徒に利用されています。また、多くのメンバーからの文房具、衣服などの寄贈品は、現地ボランティア婦人グループから経済的に恵まれない数多くの子供達に公平に配られ、我々の心が彼らに届いています。

また、我々の奨学金で卒業した医師達も地域医療に従事し、多くの貧しいミャンマーの人々の健康管理などで活動し、彼らの手で我々の奉仕活動が果実となっています。

当初からこの事業に「まず我々で出来ることから始めよう!」「力まずにやろう!」「継続することが重要!」と心を合わせ、肩の力を抜き、その結果、回数を重ねることが出来ました。我々の出来る範囲内で無理をしないことが事業継続の原点でした。

毎年ミャンマーを訪問しているメンバーたちが何時も感じることは、ミャンマーでは人も時間も物も全てゆっくり動いているような感覚を得ます。、しかもミャンマーの人々の笑顔は、あわただしく暮らす我々にとって心暖かく、時を過ごさせてくれるようにも感じます。クラブを代表して数回そんな国に赴ぐとが出来、幸運であったと言ってくれたことに心が和みます。

ここにミャンマー教育支援事業を総括するためにこの事業報告書を作成しました。今後も当クラブのWCS活動に会員皆様の暖かいご理解ご支援をお願いし報告とさせていただきます。

[編集責任者] 2012-2013年度 国際奉仕委員長 近藤 正俊



# Part-2

2014--2020

奨学金制度の継続と、現地奨学会設立へ









2017-18 年度のゴールを目指して続けられたミャンマー支援プロジェクト。 ゴールは、ミャンマー支援の独り立ちであった。 2009 年設立の「クラブ奨学会 KIBOH」を引き継いだ 「ミャンマーきぼう奨学会」を経て、 2015 年、現地の「ミャンマーKIBOH 奨学会」 MYANMAR KIBOH FOUNDATION(SHWEBO)として結実する。

### 2014-15·WCS 活動·第 16 回訪問報告

### 2015-16·WCS 活動·第 17 回訪問報告

◎実施時期 2015年2月6日~11日

◎事業内容 奨学金の支給、KIBOH 図書館視察

◎寄付金の使途 クラブ奨学会 KIBOH、あおい奨学会、

ミャンマーきぼう奨学会からの奨学金

の支給

◎訪問目的 当クラブの奨学会、あおい奨学会及

びミャンマーきぼう奨学会より奨学生

に奨学金を手渡しで支給する。

◎派遣会員(7名\*) 松野 敏(国際奉仕委員長)

太田 政信(WCS 委員長)

小野 進一

京 幸一

鈴木 昭弘

牧野 正高(会長)

\*牧野 暁世(牧野会員ご子息)

### (概要)

- 1. 奨学会KIBOH、あおい奨学会及びミャンマーきぼう奨学 会の奨学生に奨学金を授与し、彼らを励ますと共に交流を 深めた。
- 2. 過去に建築、贈呈したKIBOH図書館を視察し、学校関係者と交流を深めた。
- 3. 2014 年 10 月、一般社団法人日本国際協力センターの事業で来日し、当クラブ会員家族がホームステイホストファミリーとしてお世話をしたミャンマーの大学生と再会を果たし、交流を深めた。
- 4. 急速に変化発展するミャンマーの実情を現地で見聞きし体験することにより、国際理解を深めた。

◎実施時期 2016年2月24日~29日

◎訪問目的 国際奉仕活動

◎寄付金の使途 クラブ奨学会 KIBOH、ミャンマーきぼう

奨学会からの奨学金の支給

◎派遣会員(5名) 京 幸一(国際奉仕委員長)

小野 進一(WCS委員長)

鈴木 昭弘 永谷 和之 辻村 繁仁

(概要)

教育支援プログラムは2009年から「モノから人へ」の支援に変わり、現在のミャンマーきばう奨学会となっている。

同奨学会は日本人のみならず、ミャンマー人の支援者やかつて前身の奨学会の支援を受けた卒業生もメンバーとなっており、将来的にはミャンマー人によるミャンマー人のための奨学会への発展を願っている。

- 2. 今回は、ミャンマー最大の仏教の聖地バガンにおいて、「奨学会KIBOH」、「あおい奨学会」及び「ミャンマーきぼう奨学会」の奨学生に奨学金を直接授与し、彼らを励ますと共に交流を深めた。
- 3. 奨学金贈呈式・交流会では、「奨学会KIBOH」の卒業生であるネ・ユ・ルウィンさんが、メンバーに以下の通り感謝の言葉を述べた。

「みなさん、こんばんは。ネ・ユ・ルウィンです。私は岡崎城南ロータリークラブKIBOH奨学会の第1期生です。私は医学部を卒業して医師になりましたが、現在は小児医学の学位を取得するための勉強もしています。現在は、公立病院を辞めて自らクリニックを経営しています。

奨学生を代表して、岡崎城南ロータリークラブのみなさま に感謝申し上げます。私はみなさまからご支援を頂き、一所 懸命勉強して医師になりました。これからも国民のため、国 のために頑張りたいと思います。ミャンマーきぼう奨学会にも できる限り協力することをお約束いたします。

### 2016-17·WCS 活動·第 18 回訪問報告

◎実施時期 2017年5月16日~22日

◎事業内容 奨学金の支給

◎寄付金の使途 クラブ奨学会 KIBOH、ミャンマーきぼう

奨学会からの奨学金の支給

◎訪問目的 国際奉仕活動

◎派遣会員(8名) 天野 邦彦(会長)

鈴木 昭弘(国際奉仕委員長)

太田 政信(WCS委員長)

京 幸一

給木 豊

板倉 正直

辻村 繁仁

岡田 吉生

### 2017-18·WCS 活動·第 19 回訪問報告

◎実施時期 2018年5月18日~23日

◎訪問目的 国際奉仕

◎事業内容 奨学金の支給

◎寄付金の使途 クラブ奨学会 KIBOH、ミャンマーきぼう

奨学会からの奨学金の支給

◎派遣会員(7名) 柴田 仙功(幹事)

田中 暉登(国際奉仕委員長)

松永 茂夫(WCS委員長)

太田 政信

倉田 長秀

辻村 繁仁

鈴木 昭弘

### (概要)

1. 1999 年にスタートした岡崎城南ロータリークラブのミャンマー教育支援プログラムは 2009 年から「モノから人へ」の支援に変わり、現在の「ミャンマーきぼう奨学会」という奨学制度となっている。

この制度は、奨学金の支給対象を経済的に困窮している 優秀な医学生に限定し、年1回\$500の奨学金を6年間に わたり支給するものである。

これまで、35 名の学生を支援し、うち 16 名が医師となって活躍し、3 名が研修医として医師になる準備を進めている。 現役の学生は 13 名で、医師になるため日々勉学に励んでいる。

現在の奨学制度は日本人のみならず、地元ミャンマー人の支援者や現奨学会(「ミャンマーきぼう奨学会」)の前身である「あおい奨学会」(2001年~2010年、岡崎城南ロータリークラブのメンバーによる私的奨学会制度として設立)「奨学会きぼう」(2009年~2013年)の支援を受けた卒業生もメンバー(支援者)となっており、近い将来には、ミャンマー人によるミャンマー人のための奨学会へ発展させることを期待している。

2. 今回の訪問では、ミャンマー第二の都市であるマンダレー において、奨学金授与式を開催し、「ミャンマーきぼう奨学会」 の奨学生に奨学金を直接授与した。

また、「現地版・ミャンマーKIBOH 奨学会」の支援者も多数参加し、日本のメンバーと共にミャンマーの発展を願って交流を深めた。

- 3. 奨学金贈呈式・交流会では、「あおい奨学会」の卒業生であるミャア・ダンダ・オンさん(2001 年採用/現・産婦人科の専門医)、「奨学会きぼう」の学生ピュエ・ピュー・ティンさん(2013 年採用/医学部 6 年生)及び現行の「ミャンマーきぼう奨学会」の学生ポン・ミャンイ・モ・モさん(2015 年採用/医学部4年生)が、メンバーに感謝の言葉と共に今後の抱負を語った。
- 4. 奨学金贈呈式の終了後は、訪問団が日本から持ち込んだ 雑貨やおもちゃ、衣類などを景品とした全員参加の毎年恒 例のビンゴゲーム大会で、多いに盛り上がった。

### 2018-19·WCS 活動·第 20 回訪問報告

◎実施時期 2019年6月7日~11日

◎訪問目的 寄付金の授与(単年度事業)

◎事業内容 当会より現地ミャンマーKIBOH 奨学会

へ30万円(4,000,000チャット)の寄付・

贈呈、奨学生1名に奨学金贈呈

◎寄付金の使途 成績優秀地元小学生200人への賞品、

文具•制服

◎派遣会員(6名) 近藤 保則(会長)

岡田 吉生(国際奉仕委員長)

鈴木 豊(WCS委員長)

太田 政信

松永 茂夫

辻村 繁仁

(概要)

岡田吉生君紀行文「現地視察と交流の旅」 参照



### 2019-20-WCS 活動報告

「実現できなかった元奨学生の日本招待」

2019-2020 年度

幹事 鈴木昭弘

### 1. 計画の概要と目的

20 余年に渡る当クラブのミャンマー教育支援プログラムの 集大成として、山本剛司会長年度のミャンマー支援事業の 目玉として、当クラブの奨学金を得て医師になった元医学 生(ピューピュータインさん・23歳・女性)を2020年4月上旬 に日本へ招待することとなった。

主たる目的は以下の通りであった。

- ①当クラブの例会において、彼女に当クラブの教育支援プログラムの意義についての卓話をしていただき、これまで当クラブが行ってきた国際奉仕事業の意義をクラブ会員 全員に実感していただきたい。
- ②これから医師になる前途有望なミャンマー人研修医である彼女に日本の医療施設等を視察してもらい、将来のミャンマーの医療の発展の糧としていただきたい。
- ③そして今回の来日体験を機に、彼女には当クラブのミャンマー教育支援プログラムを承継していくための架け橋となってもらいたい。

### 2. 招へいに至るまでの経緯

(1) 1999 年より当クラブでは、国際奉仕活動の一環としてミャンマー教育支援プログラムを実施してきた。これまでに、ミャンマー各地の高校に給水施設工事や道路整備等を行い、また、図書館 5 棟を建設・寄贈している。

さらに、これまで 38 人(成績不良による途中失格者を除 く。)の医大生らに奨学金を支給し、すでに 20 人の元奨 学生が医師になっている。

2020年2月現在、奨学金の支給を受けている学生は16 名である。

この間、当クラブの悲願であった現地での奨学会

(Myanmar KIBOH Scholarship Foundation)が発足し、現在では当クラブと現地奨学会との協働で医学生の支援を行うまでになってきている。

(2) 2019-2020 年度を迎え、当クラブでは、これまで 20 年 に渡り継続してきたミャンマー支援のあり方を変えて行こう という気運が高まり、今後は親睦・交流を中心として、現地奨学会 (Myanmar KIBOH Scoleorship Foundation) の独り立ちを後方から支援していくこととし、新しい形での教育支援プログラムを模索していくこととなったのである。

(3) そこで、これまでの当クラブの国際奉仕活動の集大成として、過去のミャンマー教育支援プログラムの意義を再認識すべく、本プログラムにおける象徴的な人物を招へいし、当クラブからの支援の意義を直接語ってもらうこととなったのである(2020年2月4日理事会承認)。

人選について、これまでの歴代奨学生の中から検討したところ、日本語が話せるうえ、丁度 2020 年の春に研修医を終え6月の病院勤務開始までにまでに休暇が取れるという彼女を選抜することとなった。

(4) 当クラブがこれまで行ってきたミャンマー教育支援プログラムを新しい形で承継していくためには歴代の奨学生である現地医師らとの協働が有用である。

そのため、彼女が今回の来日を機に、一層日本との絆を 深め、将来にわたり当クラブと現地との架け橋の1人に成 長してくれることも大いに期待できた。

### 3. コロナ禍による計画の頓挫

以上の様な経緯で、2020年2月10日付けで、日本から ビザ申請書及び必要書類を現地に郵送し、現地日本大使 館でビザ申請を行った。

ビザ発給の審査は円滑に進み、同年3月17日、現地よりビザが下りた旨の連絡を受け取った。

しかしながら、世界中に蔓延したコロナウイルスによる影響で、感染リスクの大きい海外渡航が非常に困難な状況となり招へい計画は中止せざるを得なくなってしまった。

今回の計画に深く関与した立場としては、残念至極と言わざるを得ない。

近い将来、人類がコロナ禍を脱却して、再び彼女を招へ いする機会が訪れることを願ってやまない。



招へい予定だった、 ピューピュータインさん 2019.6.8 公式行事にて



### 「25・30 周年記念式典において感謝の寄贈」

☆創立 25 周年記念式典 (2014.03.4)

4つの記念事業

-3 WCS 活動への寄贈

**受贈者** タントゥンアウン、キンララモーご夫妻様 (ミャンマー現地での協力者)

寄贈対象「図書館 KIBOH」5 館の改修工事資金

岡崎城南ロータリークラブは、創立 10 周年より国際奉仕活動の一つ、ミャンマー教育支援プログラムとして給水施設建設、通学路整備や高校に図書館建設等の支援活動など取り組んできました。また創立 20 周年からは「奨学会 KIBOH」を設立し、ミャンマーの教育支援活動も15年となりました。そこで2002年から2006年にかけミャンマー各地に建設した図書館 5 館の外装が劣化しているため、外装のリニューアル工事の資金として金50万円を寄贈しました。

寄贈内容 改修工事資金 金50万円

☆創立 30 周年記念式典 (2019.03..26)

4つの記念事業

-2ミャンマー教育支援

受贈者 ミャンマーKIBOH 奨学会(代表者 京 幸一 御 夫妻)

寄贈対象 ミャンマーの子供たちへの教育支援 (学用品、制服等の配布)

当クラブは、創立 10 周年以降国際奉仕活動として、ミャンマー教育支援プログラム(給水施設建設、通学路建設及び図書館建設等の支援活動)に取り組んでまいりました。又、創立 2 周年以降は、「奨学会 KIBOH」を設立し、医師を志す学生への奨学金を支給する教育支援プログラムに取り組んできました。さらに当クラブの支援を契機としてミャンマー国内にボランティア団体「ミャンマーKIBOH 奨学会」が設立されました。そこで、創立 30 周年を迎えるにあたり、ミャンマーの子供たちへの学用品、制服等を「ミャンマーKIBOH 奨学会」を通じて支援するため、教育支援金 金 30 万円を寄贈します。

### 寄贈内容 教育支援金 金 30 万円



2014.3.4 タントゥンアウン、キンララモー御夫妻



2019.3.26 京 幸一 御夫妻



# ミャンマー紀行文集 Part-2



1999 年より 20 回を数えたミャンマー訪問であるが、 1~17 回までは、1~2 月にかけて訪れ、 2016-17 年度の第 18 回からは、5~6 月に訪問している。 ミャンマーには雨季と乾季があり、 多くの訪問は、5 月下旬~10 月中旬の雨季を避けて、 気候の良い時期が選ばれた。

第 18 回以降の訪問は雨季で、 激しいスコールに見舞われる心配が多かったが、 その代わり、マンゴーの豊かな季節の訪問であった。

# ミャンマー訪問記 2014

(第15回訪問) 2014年2月6日~11日 会員 鈴木 昭弘君



### (出発当日 いきなりの強行軍)

2月7日(金)早朝6時、先乗りメンバー2名を除いて訪問団が名鉄東岡崎駅に集合。2月の上旬の早朝であるためまだ暗いうえに寒い。しかし、訪問先はこの時期ですら気温30~35度のミャンマーである。あまりの重装備は、荷物を増やすだけなのでここは限界ぎりぎりの薄着で我慢し、空港行きのバスを待った。

今回の訪問団メンバーは、アルコールが嫌いではない 人が多いのか、中部国際空港に到着して搭乗手続を済 ませると、空港のレストランで早速朝食代わりの酒盛りが 始まった。この先が心配・・・いや楽しみだ。

午前中に中部国際空港を離陸して、さあ、ミャンマーへの長旅だと思いきや、2 時間もかからず、韓国仁川空港に着陸。そう、今回は韓国で乗り継ぎがあるのだ。乗り換え時間は、なんと 7 時間!どうやってこの時間を過ごそうか。

せっかくなので空港外に出るという選択肢もあるが、それにしては時間が少ない。万が一のことを考えると空港内にとどまるのが安全だ。ということで、空港内でヤンゴン行きの便を待つことに。

幸い、というか不幸なことに、天野団長のリュックの肩 紐が切れてしまったので、みんなで天野団長のリュックを 選ぼうということに。アジアのハブ空港を自負する仁川だ けあって、免税店はたくさんある。たっぷり時間を掛けて、 団長お気に入りのリュックを購入。でもまだ 6 時間近くある。どうしましょう。

そういえば、お昼だ。昼食にしよう。ということで韓国レストランに。

オーダーしたものは、プルコギ、石焼きビビンバ、冷麺、 そして大量のビールとマッコリ。時間はたっぷりある。どこ にいるのか忘れてしまうくらい普通の宴会が始まってしま った。

我々の席を担当した店員の女性が、実に気さくで朗らかな中年女性ということもあり、お酒はどんどん進んだ。

おかげで、夕方の便を苦もなく待つことができた。

深夜、ヤンゴン国際空港に到着した。ついに来ました。 ミャンマー。

ほっと一息つくまもなく、目前には長蛇の列。この様子では入国手続に相当な時間を要しそうだ。イミグレーションの外では、先乗りした田中さんと京さんがニコニコして待っているが、我々は長旅の末にここで足止めを食らってうんざりだ。と思った瞬間、制服を着た強面の職員が、我々のグループに対して「こっちへ来い!」とミャンマー語で言っている(ようだ)。

事前に配布された資料に、「ミャンマーは民主化が進んだとはいえまだ軍事政権です。自由は束縛されていますので「郷に入ったら郷に従う」これ大事!! ヌード写真付き週刊誌などは持ち込まないように!!」という注意書きがあったのを思いだした。

メンバーの誰かが、イケナイ物を持ち込んだのか?持ち込んだ大量のお土産の中に禁制品が含まれていたか?などと不安が脳裏をよぎる。

制服男は、我々全員をイミグレーション脇の通用口に 連行し、イミグレーション外にあるベンチに座らせた。

イミグレーションで行列を作っている外国人旅行客が 我々を哀れみの目で見ている(ようだ。)。

制服男は、「パスポートを見せろ!」とミャンマー語で言っている(ようだ。)。団長以下われわれはおとなしく指示に従いパスポートを差し出す。制服男は、我々全員のパスポートを一瞥し、「OK!」といった。

あれっ?どうやら、入国手続が完了したようだ。京さんがわれわれのところにきて「お疲れ様。」といつもの笑顔で言った。

イミグレーションの向こう側では、さっき我々のことを哀れみの目で見ていた大勢の外国人旅行客がぽかんとした顔で我々のことを見ている。一体、どんなカラクリがあったのかは知らないが、無事に入国完了だ。

さあ出迎えの車に乗り込み今夜の宿に移動だ。

「ホテルまで大体30分くらい。」と京さんが言った。長旅の末、更に移動か。

そう思った瞬間、「着いたよ。」と京さん。

「えっ?」我々全員あっけにとられる。「京さん、まだ 30 秒くらいしか経っていないよ。」と誰かかが言った。

「ごめん。分と秒を間違えた。」「えーっ!」まあ、嬉しい間違いだからいいか。

### (訪問2日目)

翌朝、4 時半(!)にホテルを出て、国内線でバガンに向かうことに。

京さんの部屋で始まったウエルカムパーティー(酒盛り)もそこそこにベッドに着くことにした。眠りについた途端、大音量のモーニングコール。

どうやら一瞬で眠りに着いてしまったようだ。しかし、あたりは真っ暗。電力事情のよろしくないミャンマーだからかホテルの部屋には足下灯などない。

半ば寝ぼけて、受話器を取ろうとしてベッドから転げ落ちてしまった。ホテルのベッドは、座面が非常に高いため私は暗闇の中、頭から落下して危うく首をどうかしてしまうところであった。

まだ、これから恐怖のプロペラ機搭乗が待っているのだ。ここで命を落とすわけにはいかない。

### (人生発のプロペラ機搭乗)

今回の奨学金授与式の会場は、ヤンゴンから北へ約600km に位置するバガンである。

移動時間を考えると交通手段は飛行機を選択せざるを得ない。

ミャンマーの国内線はプロペラ機である。私は人生に



おいてプロペラ機に乗ったことが無かったのである。まさか半世紀近く生きてきていまさらプロペラ機に乗ることになろうとは。

しかも、ミャンマーで!! 因みにチケットをみると、「座 席:自由」となっている。

渡航前の持ち物リストには、「何もない国です」って書いてあったな。飛行機が故障したとき修理する部品はあるだろうか?など出発前から今回の旅の最大の心配事であったため出発前には遺言を書いて妻に渡して来たのだった。

そんな心配をよそに、飛行機は驚くほど安定して静か に飛行し、窓からそれはそれは美しい日の出を見ながら 2時間ほど飛行し、無事にバガン空港に着いた。

空港といっても、東岡崎駅程度の大きさしかない。何 はともあれ無事に到着してやれやれである。

そういえば、昨夜ヤンゴンに着いたときは深夜で、ヤンゴンを発ったときも早朝で真っ暗だったため、ミャンマーの風景をちゃんと見たのはこのときが初めてであった。

何もない、土と木と適当に舗装された道路くらいである。 時々茅葺き風の民家の集落がある。のどかだ、じつにの どかだ。素晴らしい。アフリカのサバンナにいるようだ。

途中、素朴すぎるほど素朴な土産物屋(らしき物)に立ち寄りながら、日本製の中古マイクロバスに揺られること数時間。



訪問団一行は、ミャンマーの土着宗教ナッ信仰の聖地ポッパ山に到着した。ポッパ山はそれほど高くないが険しい山の頂上にお寺があり、参拝者は麓か

ら延々階段を上って行かなければならない。そういえば、 先月四国へ行ったときに金比羅さんにいったなあと思い ながら、延々と階段を上った。

ミャンマーでは、どこのお寺も土足厳禁なので、全員 裸足になって上るのだが、石造りの階段がひんやりして 持ちいい。ポッパ山登頂は、遠くから眺めたほど苦痛で はなく、途中で遭遇した観光客らしきミャンマー美人と一 緒に写真を撮ったりしながら無事に参拝は終了した。

その日の夕方、ミャンマーの学生達と合流する前に、 他のメンバーの人たちが、「いいところ」へ連れて行って くれるという。どこだろう?



じつは、バガンは美 しい夕陽が眺められる ことでも有名で、我々も バガンでも有数の夕陽 スポットと有名なバゴダ (仏塔)へ行った。既に、 何百人という人でごっ

た返している。ここはミャンマーなのに、なんと欧米人の多いことよ。他のメンバーは、以前にも来たことがあるようで、私だけがみんなに勧められてパゴダに登った。30分もすると次第に太陽が沈みはじめた。多くの人々の歓声が上がった。それはそれは美しい夕陽でした。



みなさん、私にこれを見せてくれるためにわざわざここ に来たのかな?本当にありがとうございます。

私がパゴダに登って夢中で夕陽を見ている間、他のメンバーは地上で土産物売りの子供達にずっと囲まれていたようだった。

日が沈み、湖の畔にあるおしゃれな屋外レストランに移動し、いよいよ奨学生との対面だ。初めはお互いにぎこちない雰囲気だったが、恒例のビンゴ大会の頃には大声で笑って楽しいパーティーとなった.

### (訪問3日目)



翌日は、学生達と同じて、バック。 そこ々のは、ののと、観光客

を呼び込む声と、騒音と、干した魚が発する強烈な臭いと、ハエとホコリにまみれたすごい場所だった。だが、不思議と不快ではない。むしろワクワク感すら覚えてしまう。 バガンの場では、米、鶏卵、野菜、魚など地元の人々のための食材の他、観光客向けの土産物屋も多い。 私も土産と してロンジン (男性が着 用する巻き スカートの)を うなもの)を



300 円で購入した。せっかくなので、すぐに着用してみようと店の女の子に着方を教えてもらって履いてみた。

しばらく散策して集合場所に戻ると、女子学生達が、は にかみながら私に何か話しかけてくる。どうやら一緒に写 真を撮りたいようだ。次から次へと女子学生が寄ってきて、 自分のカメラでも撮りたいと何枚も写真を撮られた。ロン ジンを履いたおかけで、モテモテになったようだ(それが 冒頭の写真)。

その後、市内のレストランで、昼食会をして学生達とは お別れし、再び恐怖のプロペラ機に搭乗し、その夜、わ れわれはヤンゴン市内に戻った。



翌日は、ミャンマー最大の仏塔シュエダゴンパゴダや 巨大な涅槃仏のチャウッタージー・パゴダを参拝し、深 夜帰国の途についた。

ヤンゴン市内の印象も記述したいところではあるが、紙面の都合上来年以降に寄稿しようと思う。きっとまた来るだろうから。

最後に、今回の訪問では、初訪問の私を何かと気に かけ、いろいろ丁寧に説明してくださった同行者の皆さ んに心から感謝したいと思う。

特に京幸一さんは、今回の訪問直前に奥様がアクシ デントで入院するという事態に見舞われたにも関わらず、 われわれに心配をかけないように、終始にこにこして案 内してくださった。彼の友情と責任感に対して心より感謝 と敬意を表して本稿の筆を置きたい。(了)

# ミャンマー訪問記 2015

(第 16 回訪問) 2015 年 2 月 6 日~11 日 会員 鈴子昭弘君



インレー湖畔の水上レストランにて

昨年、新会員で初めてミャンマー訪問に参加させてもらい、大変感動した私は、必ずまた「いつか」来ようと思った。

そう、「いつか」。ミャンマーは遠いし、お金もかかるし、そうそう毎年行くわけにはいかないなぁ。と思っていた。今年のミャンマー訪問の応募締め切り時期(前年の8月頃か?)には・・・。

ところが、10 月に日本国際協力センターの事業でミャンマーの大学生がホームスティのため訪日来岡し、当クラブからも9家族がホストファミリーとして協力することとなった。我が家も2名の学生を受け入れたことを機に、以前にも増してミャンマーへの親近感が強くなってしまっていた。

そんな矢先、京さんから、「鈴木さん、今年のミャンマー訪問どうする?もう締め切りは過ぎているけど、ミャンマーのことは何とかするよ。ホームスティの学生とも再会できるよう段取りしてあげるよ。」という頼もしくも甘い誘いを受けて、1週間ほど悩んだ末、2年連続での訪問を決意してしまったのだった。

ミャンマー国内のことは、京さんに頼る他はないが、 すでに締め切り日を大きく過ぎており、その他のことで は迷惑をかけられないと、ミャンマーの往復チケットは 自分で手配することにした。 そのため、今年は他のメンバーとは別便で、数時間 早く夕方にはヤンゴンに到着することになった。

夕方 5 時頃、ヤンゴンに到着して空港からそれほど 離れていないはずのホテルに移動するのだが、なか なか車が進まない。ひどい交通渋滞だ。

ヤンゴン市内は原付バイクの乗り入れが規制されているようで、原付バイクは見当たらないが、日本車だらけである。

結局、直線距離で 10 kmもない道のりを 1 時間ほどかけてホテルに到着した。

他のメンバーが到着するのは深夜になるため、ホテル近くのワイルドなバーベキューレストランで夕食をとり、夜 10 時頃に他のメンバーを出迎えに空港へ向かった。

そうだ。せっかくなので昨年バガンの市場で購入したロンジンを履いていこうと、気分はミャンマー人になりきり、他のメンバーを出迎えた。

翌日は、ヤンゴン市内でキンララモー女史率いる学 生達と合流し、一緒にシュエダゴンパゴダやチャウッ タージー・パゴダを観光(参拝?)した。

学生らは、マンダレーやその周辺の街に住んでいるので、ヤンゴンへ来るのはちょっとした旅行のようでとても楽しそうだ。

その夜、市内のレストランで奨学金授与式を行い、 その後の恒例ビンゴゲームで大いに盛り上がった。今 年は、学生達とはこれでお別れである。



今年も盛り上がったビンゴゲーム

翌朝早く、我々はヤンゴン空港から国内線でシャン州のヘイホー空港へ飛んだ。出発時間が早く、ホテルの朝食時間前だったので、ホテルが特製の朝食弁当を用意してくれた。搭乗手続き後、我々は空港合室我々は空港の待合室で朝食をとった。





朝食弁当。素朴だけどなぜか 命を預けるプロペラ機 愛情を感じます。

昨年はあれほど恐怖を感じたミャンマーの国内線 プロペラ機だったが、既に3回目の搭乗でそれほど恐怖を感じることなく乗ることができた。3 時間ほどのフライトの後へイホー空港へ到着した。

ヘイホー空港では、キンララモー女史のご主人と娘 さんが出迎えてくれた。彼らは、私たちを案内してくれ るために、シュエボから 10 時間近くかけて車で来てく れたとのこと。

昨年、東岡崎駅より小さいと感じたバガン空港よりさらに小さなヘイホー空港だったが、出迎えの人々でごった返していた。

キンララモー一家が用意してくれた車に乗って、舗装が不十分で砂埃が舞う道を走ること 1~2 時間ほどでシャン州の州都タウンジーを通過してどんどん高地へ登っていく。時折、むき出しのエンジンを積んだトラックや原付バイクとすれ違う。このあたりはヤンゴンとは異なり、原付バイクは規制されていないようだ。

それにしてものどかだ。バガンののどかさとはちょっと異なる印象である。バガンは、アフリカのサバンナのような印象だったが、シャン州は南米の高地のような印象だ。アフリカも南米もいったことはないのだが。

延々と続く道は、両脇に畑や原野や山林や時折、 集落があるくらいで本当に何も無い。

何も無いがそこがたまらなく心地よい。ふと何もかも 忘れてここで暮らしてしまいたくなるような衝動に駆ら れてしまう。

ところで、今日は日曜日のはずだが、外に出ている 人々は皆働いているようだ。確かミャンマーでも日曜 日は休日のはずでは?





埃っぽい道路





のどかな田園風景

シャン族の女子学生

京さんによれば、シャン州の人々はとても働き者で、 それ故、シャン州はとても豊かな地域だという。

数時間車に乗って着いたのが、カクという仏教遺跡である。ここは無数の小さなパゴダ群が林立しており、この世のものとは思えない雰囲気を醸し出している。 足を一歩踏み入れると、とたんに外部の音が遮断され、静寂の中でパゴダの上部に付いている風鈴の音のみが鳴り響き、あたかも極楽にいるような気分である。当然、極楽に行ったこともないのだが。

途中で出会った少女達は見たことのない装束だが 愛想がよくとても可愛らしい。

今回の訪問の少し前に、NHK で有名女優がミャンマーを旅する番組を見て、「こんなすごいところへ来られるのは、TV番組だからだよなぁ」と思ったものだが、自分の方がもっと凄い場所に来られるとは、本当にありがたいことである。





幻想的なカク遺跡



シャク族の少女

この世のものとは思えないカク遺跡を見学したのちは、再び田舎道を走り、タウンジーの街へ戻った。

その夜は、インレー湖の畔の街・ナウンシュエに宿泊した。

### (インレー湖へ)

さて、大した予習もしないままインレー湖へ来てしまったが、この湖はシャン丘陵にある淡水湖で、平均標高が 884m の高地に位置し、南北約 18km、東西約 5kmに広がる縦長の湖だ。

珈琲好きの私としては、せっかくなのでインレー湖の水で珈琲を飲みたい。と思っていたところ、太田政信さんから、「それはやめた方がいいよ。」と強く止められたのだった。なぜやめた方がよかったのかは後述。

早朝、朝食前にホテルの周辺を散歩した。まだ薄暗いのに、広い通りに出ると何人もの人が仕事に向かっているようだ。さすが、シャン族の人々は働き者である。途中、托鉢中の僧侶の集団に出くわした。30人くらいはいるだろうか。面白いことに背の高い僧侶から、小さな子供の僧侶まで順番に並んで歩いている。出家した順番に並べばそうなるのだろうか。



托鉢中の僧侶の集団

朝食を済ませて、全員で船着き場に移動。 想像していたのとは少し違う、少々心許ないボートに ライフジャケット(!)を着て乗り込む。

ミャンマーとはいえ、標高 900m近い高地で、かつ、 早朝のため湖面上は少々寒い。モーターの爆音と夥 しい水しぶきを上げてボートは南に向けて出発した。 我々の興奮は最高潮である。

30分ほど南下しただろうか。突然、ボートが停止した。前方を見ると2人の漁師が、巨大な竹製(?)の網を使って漁をしているではないか。おおっ。これがインレー湖で水上生活を営むインダー族の人々か。われわれは夢中でカメラのシャッターを切った。彼らは非常

に愛想良くポーズをとってくれたり、獲物を私達に見せてくれる。

ミャンマーの人は本当に愛想がいいなあと思っていたら、突然1人の漁師が舟を我々のボートに横付けして、私に(なぜ私なのか?)何か言っている。初めは何を言っているのか分からなかったが、よく聞いてみるとチャット、チャットと言っている。

そうか、我々が彼らの写真を撮ったのでモデル料を 払えということか。彼らは、観光用の写真モデルなの だった。

彼らに 1000 チャットを渡して、ボートは再び南下を 続ける。



インダー族の 伝統的な漁の スタイル

途中、「本物の」水上生活者や他の観光ボートとも すれ違う。観光ボートには、餌目当てのカモメ(?)が 群がりなかなか壮観である。



物資を運ぶ人

本物の漁師



移動手段はボート

観光客に群がるカモメ

2 時間近く南下を続けただろうか。ボートは、速度を落として静かに水上家屋の集落に入っていった。どうやらここで休憩を取るらしい。湖の畔には多数の水上レストランや土産物屋が存在し、いずれも船着き場にボートを泊めて建物内に入って行く構造になっている。

我々が訪れた施設は、レストランと民芸品ショップと 織物工場と民家が一体になったような建物であった。

水上に竹や木材で足場を組んでその上に建物が乗っている。長時間ボートに乗っていたため、体はすっかり冷え切っている。全員一斉にトイレに駆け込む。

私の印象では、ミャンマーのトイレはどんな田舎に 行っても比較的清潔に保たれている。ここも例外では ない。

だが、しかし、ここは水上のはず。汚水は何処へ。 用を済ませて外からトイレを眺めると、配水管がそのまま湖面へ・・・・。

### 太田さん、忠告ありがとうございます。

かくして、インレー湖の水で珈琲を沸かす望みは完全に絶たれたのだった





インレー湖の水上建物

今回のミャンマー訪問における観光の目玉であるインレー湖を後にして我々は、再び国内線でヤンゴンに戻った。

翌日には、今回の訪問の重要な目的が控えている。 私は軽い高揚感を覚えていた。

おそらく牧野会長、松野委員長、小野進一さんも同 じだったのではないか。

実は、今回のミャンマー訪問にあたり、京さんの取り 計らいによって、前年の秋にメンバー宅にホームスティしたミャンマー学生の一部と再会できる手はずが整っていたのである。

わずか 2 泊の短期ステイにもかかわらず、すっかり 我が子であるかの如く情が移ってしまい、別れ際に号 泣するという失態を演じてしまったあの子達にこんな に早く再会できるとは。

号泣したのは多分私だけだが、牧野会長ほかホストファミリーになったメンバーもどんなに再会を待ち望んだことだろう。

翌朝8時。松野さん宅にステイしたリン君がおばあちゃん、お母さんと一緒にホテルを訪れ、小野さん宅に

ステイしたイイモーさん、ミャンさん、そして私の家にステイしたナインさんが次々とホテルのロビーに現れた。

牧野会長宅にステイしたジュリーさんは、日にちを間 違えて 1 日早くヤンゴンに来てしまったが、前夜、無 事に再会を果たすことができたのだった。

「いずれも大感激の様子。お互いに、そんなにどうするのかというくらい大量のお土産を交換。今日1日行動を共にしながら、ゆっくりと再会を喜び合うことができる。」は牧野会長のレポートの言。







しばしの間お互いの 無事(3 カ月しか経って いないので当然と言えば 当然なのだが。)を喜び 合い、一同は車で最後 の公式行事「KIBO 図書 館視察」をした。その後 は、飲茶の昼食会を行 い、近くのデパートで一

緒に買い物を楽しんだ。

その後ホテルに戻り、ロビーで時間の経つのも忘れて歓談をしたのだった。それぞれが片言のミャンマー語、日本語、英語で、満足な共通言語がなくコミュニケーションは不自由なはずなのに、不思議なことに 1日行動を共にしていると自然に会話が成立するようになるのである。

こうして 3 カ月前に生き別れたはずの娘と感動の再会を果たすことができ(大げさな!)、至福の時を過ごしたのだった。

私にとって 2 度目のミャンマー訪問も無事に終了することができた。

京さんをはじめ同行のメンバー、現地でお世話をしてくださった皆さんに感謝しながらまたこの地を訪れることを願うのであった。(了)

### ミャンマー食の訪問記 2017

(第 18 回訪問) 2017 年 5 月 16 日~21 日 会員 岡田吉生君

### ★バンコクへと発つ。5/16朝



今回の、岡崎城南ロータリ ークラブのミャンマー訪問 団は8人。

私は撮影役なので、写ってないのだ。

お酒大好きが6人と、完全下戸1人、ほどほど1人。 果たしてどうなることやら。

パクチー大好き 3 人と、大嫌い 4 人、ほどほど 1 人。 果たしてどうなることやら。

この写真にもあるが、早くもパクチー入りカレーを食べ (酒○・パクチ○)。

もう食べ納めと、和食を食べる君(酒○パクチ×)。 チェックインを済ませ、搭乗を待つセントレアの朝のフードコートにて。

ここでは、6人がビール。

さあ、今回の旅。

如何なる飲食絵巻が繰り広げられることやら。

### ★タイでエビを釣るツアー、5/16 夜



バンコクに着いてホテルに 落ち着いた後、街に出て 食事。

明日からへの英気を養う 晩餐である。

エビから始まり、タイ料理

の数々。

「タイでエビを食う旅だ」と誰かが私の持ちネタを言う。 ここは、SOMBOOM SEAFOOD レストラン。

美味しい料理(訪問団評価:星5つ)と美味しいお酒で



(シンハービール)でテン ションマックス。 良い旅になりそうだ。

良い旅になりそうだ。 ここではまだ、パクチー論 争は勃発しておらず。



ホテルに帰ったら、タイの 国王の遺影が飾ってあっ た。

亡くなってもう半年? まだ空位のままだ。

このホテル、バンコクの高級ホテル。 タイはやはり、東南アジアでは進んでいる国。

### ★ウズラに再会、5/17 夜



開けて2日目、5月17日 は飛行機でタイのバンコ クからミャンマーのマンダ レーへ。

そこから車で4時間シュ エボ、公式行事の開催地

だ。

ここで、公式行事の奨学金支給・交歓夕食会がある。



到着すると準備万端、拍 手のゲートで迎えてくれ た。

ところが、地元の名士が 遅れて来るとあって、宴席 の準備も進んでしまう。 式典の始まる前に、食事

が配膳されるは、ビールが運び込まれるは(ここからは、 当然ミャンマービール)。



私の好物の鳥の(ウズ ラ?)丸焼き?丸揚げ?も 並べられた。

ところがここで、「パクチー 派 VS 反パクチー派」の香

草いや抗争に異変が起きた。

反パクのⅠ倉君が、「この鳥の丸焼きは食べられる。好物だ。」と言い出したのだ。

これは意外、反パク派の分裂か?と思ったが、川魚の丸焼き(写真)には手こずっていた。

ちなみに I 倉君は、188cm、120kg、食べられるものはなんでも摂りこむ人なのだが。

### ★昨夜の行事会場で朝食、5/18朝

そこへ、昨夜都合で出席できなかった 3 人の新奨学生 がやって来た。

そこで奨学金と記念品の授与。









界一の米の輸出国なのだ。

「日本の米が一番」という人も多いけど、何も「米」というく くりで競うことないのにね。

種目を決めて競いたがる。

結論は「日本が一番」。

この旅は、「親パク派」と「反パク派」の香草のいや抗争 (くどいか)の旅。

「やはり日本が一番」派と「郷に入れば郷には従え」派。 4人対4人、がっぷり四つの抗争は続く。

### ★施設視察、家庭訪問、5/18



19年のミャンマー支援の歴史のうち、前半は図書館・道路・水道等の建設・建築。

授与するのは、ミャンマー 訪問のきっかけを作り、ま

た育ててくれた O 田さん。

ところが、男子学生(大学

1年生)2人の後、女子学

生になったら A 会長が授

朝食は、モヒンガーという

これが意外と、「反パク派」

の「日本食が一番」の T 君にも受けいてられて、

「美味しい」とまで行って

I 倉君は、美味しいと感じ

てないにもかかわらず、お

彼には、食物摂取が生き

確かに、この麺おいしい

ミャンマーの米は、チャーハンにしても美味しいし。

ミャンマーは、かつては世

食べていた。

代わりしていた。

る道なのだ。

よ。

ちゃっかり K 彦さん。

米の麺をいただく。

与者に。

今回施設を訪れると、活 用の様子、不具合・老朽 化などがわかる。

また、岡崎城南ロータリークラブの名が刻まれていたり、 当時の訪問団・式典の写真が残されていたり、感慨も一 入である。



こう書いて来ると、お役目 でがんじがらめの旅のよう だが、そうでもない。 後半は、観光もある。 なんせ、長い距離を車で

学生も、この会のために数

移動の連続。

百キロをバスで駆けつけたり、バイクで夜通し走って来た 学生もいる。

こちらも移動の間、地元の企業を訪ねたり、奨学生の家庭を訪問したりの連続。 やっぱりお役目だらけかもしれぬ.



奨学生の家庭訪問の時も、 家庭料理でもてなされる。 それもミャンマーのご馳走 なんだよね。

ここでも、「親パク」「反パク」 箸の進む組と進まない組

(スプーンか、ミャンマー)

この頃になると、お腹に入ればいい派(I 倉君)が精力いや勢力を持って来たぞ。

さあ、明日は車でマンダレーへ。

### ★果物天国とりわけマンゴ、5/19



ミャンマーは雨季である。

いつもは旧正月(アジアはこちらが主流)後の2月初旬に訪れていたが、今回の国際奉仕委員長・訪問団長のS君が、「過酷な季節に行ってみたい」ということで、5月下旬となった。さすが「親パク派」「郷に従え派」。

ところが、まるで雨が降らない。 一度降ったが、夜中。 でも、ご安心を。



とにかく暑い、日差しも半 端ないから。

移動の途中で立ち寄る、 機織り工場など地元の企 業?仕事場や、奨学生の 家庭訪問?



いや、立ち寄るのでなくて、 「ソコ」に移動するのだけ どね。

私たちが建設した施設の 視察でも同様。

そこで、お茶とともに出さ

れるのが果物類、それも決まってマンゴ。

この時期のミャンマーはマンゴで決まり。

熟して美味しい。

家庭にも必ずといって良いほど、マンゴの木が1本植わっている。



このマンゴには、「親パク派」「反パク派」なく、手が伸びる。

「親パク派」の中でも、写 真(K 君とS 君)のように、 ラブラブ度が高まるのだ。

しかし、今思えばこのマンゴ他の果物類、切って皮も剥かれていたなあ。

以前、皮を剥いた果物も、食べるとお腹を壊すって言われてた。

水で洗うから、その水が汚れていてあたるってね。

今回は来てないけど、T 生君なんて東南アジアを一緒に 旅するときは、必ずナイフ持参だった。

(きっと彼は、反パク派だね。)

冒頭の写真は、街道沿いに店を出している果物屋台。 ここでは、マンゴを手で剥いて食べたよ。

といったマンゴづくしの旅で、一生分のマンゴ食べたサ。 内緒だけど、最後は食傷気味(で両派一致)

### ★ミャンマーは「太陽の当たる場所」その1、5/19



5/19 マンダレーの夜、高級 な北京料理のお店み連れ て行っていただいた。個室。 北京ダックを始めとした洗 練された料理、洗練された 味。

ここの北京ダックは肉も食 べるんだ!とか言いながら、 親パク反パクを超えて箸が 進んだ。

でもまだ、香草怖しの疑心暗鬼の恐る恐る。

実はこの旅、ヨシヲスズキ

で歌うチャンスを狙ってた。

公式行事のあとの懇親会でと狙っていたのだが、ビンゴが長引いて出番がなかった。



あれから2日たち、旅も終盤。

歌うならここと、スズキくんに無茶振り。

だが、そこは親パクのスズ キくん。

お調子者のスズキ団長。

二人、立ち上がってアカペラで歌うこととなった。 いや、歌うこととした。

### ★ミャンマーは「太陽の当たる場所」その 2、5/19



高級北京料理レストランの個室に丸テーブル二つ。 ひとつに、岡崎城南 RC 御一行様 8 名、ひとつに、現地随行のお世話役さん達。歌う曲は「太陽のあたる場所」、ヨシヲスズキで練習中の曲だ。



腕試し、度胸試しなのだ。 アカペラ、手拍子で歌う。 イントロと間奏・後奏はハー モニカ。

ブルースハープを持って 来た。

途中で、城南テーブルのT君からタオルが投げられた。 オイツ。

反パク派の領袖 T 君から。

かたや、ミャンマーテーブルは大喜びでスマホ動画を撮りまくり。

こうでなくちゃね。

歌の方はといえば、酔っ払っていたし(練習中の曲だし)、ハモニカ落とすし、ヘロヘロだったが、目的は達したじょ。

なんにしても、ノリが良かったので「合格」

ミャンマーは「黄金の国」と言われているが、希望あふれる「太陽のあたる場所」だ。



### ★「反パク」派の逆襲バンコクの夜、5/20



「ネズミは出るが水は出ない」ホテルに泊まる状態から、バンコクでの今宵の一泊(正確には夜中のフライトまでチェックイン状態なので、二泊。

「反パク」派には、逆襲のチャンス。



マンダレーから空路でバンコク到着後、先に帰国する二人(親パク)とお別れ。

残った 6 人(親パク 2、反

パク 4)はこの夜の宿泊の超高級ホテルで一休みした後、 今回の旅の1日目に下見を済ませた、バンコクの夜へと 繰り出す。

まずは、日本食の店で腹ごしらえ、というか「反パク」派には安息のひととき、元気も回復?

私が、「肉が食べたい」と注文すると、「何ニク頼んでんのよ?」と攻撃してくる。

よっぽど辛い時間を過ごしてたんだなあ、と理解しつつもさらに「魚はいらない」と肉を。

その反撃も、日本酒の生酒が胃に収まった頃、穏やかとなった

「やっぱ、日本食、日本酒だね」と満足していることだろう。

食事を終え、頃合と夜の街に消えるメンバーを横目で見て、私一人に。

ここで、「親パク」対「反パク」は2対4のはずが、1対5になったような。

いやいや、親パク一人は日和ったのではなく、人間の幅 があるのだろう。

私一人孤独に。しばらく夜の街をぶらついた後(おんなじか)、ホテルに帰る。

タクシーを拾って帰ったのだが、チャットを全く持っておらず、ドルは受け取ってもらえず。

ホテルのフロントで 47 チャット分のドルを両替してもらい、タクシーに支払うことができた。

その額2ドル、超高級ホテルのフロントで、わずか2ドルを両替し、それもしっかり書類を書いて、ハハ。

お待たせしたタクシーの運転手君に2ドル分のチャットを全部あげたら喜んでた。

チャット残しても使わないし、使えないし。

### ★豪華朝食ブッフェとシメは高級イタリアン、5/21



「反パク派」の反撃は続くが、この頃には「親パク派」 もしっかり洗練された味に 飛びついている。

しっかり、パクチーを歯に はさげた(=挟まったまま の意:三河弁?)ままね。

超高級ホテルの朝食は、豪華ブッフェ。 すなわちエクスペンシブ。

「反パク派」は、「ここで食い溜めすればいい」ぐらいのことを言う。

でも私はやっぱ、質素なアメリカンブレックファースト的になる。

な~んて、日和らない「親パク」は気取っているのだ。 この辺で、もはや私シンパなし?

この日、日中はタイの世界遺産など観光。

象にも乗った。

そして一休みした後、最後の晩餐はバンコクの高級イタリアン。

「親」も「反」も安心した味と、心配な支払いを胸に楽しい食事で時を過ごすのだ。

そして、ホテルでシャワーを浴びた後、0時5分のタイ国際航空で帰途に着くのである。

### ★えっ? ミャンマーで発症、ミャンマー余話



花粉症歴の長い私だが、 まるで治療も対策もしてな かった。

それが近頃、「コンディションの良い日々を過ごす」ことに留意し始め、花粉症の薬を飲み、花粉症に効く

甜茶を飲んでいた。

そこで、ミャンマー・タイではどうするか?

ネットで調べたら、ミャンマー・タイでは花粉は飛んでいないということで、薬も持たず茶も持たず出発。

当初は順調だった。

だが3日目、ミャンマーの精米工場を訪ねた時、ナント



突然発症したのだ。

出まくる鼻水、写真ではこの日から(お馴染みの)マスク顔が写っている。

最後の二日、バンコクでは ほどほどに治っていたが、 中部国際空港でのバゲージクレームで荷物を受け取る際、またもや出血いや出鼻水。

それも、ミャンマーで発症した時の何倍もの鼻水。 5枚がさねのティシューから溢れ出る鼻水。 これが今回の旅の最大の災難?、やさしいもんだ。

### ★ミャンマーで足を食われた。ミャンマー余話



ミャンマーは織布産業が盛んである。

織布工場もあれば、大勢 の織姫さんたちの工房も ある。

それが、街にまとまってあるのでなく、何十キロおいて点在している。

家族で縫製の仕事をしている、家を訪ねた。

なんとそこのミシンは、ブラ ザーミシンばかり、それも 数台。

年代物だが、バリバリの現 役のようだ。



役のようだ。

それを、なんとか写真に収めようとしていたら、

「熱っ!」

足に激痛が走った。



何が起きたかわからなかったが、現地の人は冷静になおかつ慌てて(なんじゃそれ)対処してくれた。アリだった。



ミシンの写真を撮るのに 夢中で、アリの巣を踏ん でいたのだ。

アリの逆襲。

「蝶のように舞い、蜂のように刺す」アリのようだ。 (注:モハメド・アリ、あ、これいらんかった)

家の人が手当をしてくれた。 タナカを塗ってくれた。

これが、ミャンマーでの災難第二弾。 優しいもんだ。

### 現地視察と交流の旅 2019

(第20回訪問) 2019年6月6日~12日 会員 岡田吉生君

今回のミャンマー訪問団の日程は、2019年6月7日 ~11日の5日間。ところが私は1日前の6月6日に現地に入り、1日後の6月12日に帰ってくるという7日間の日程にした。

団体行動の出来ないオカダと思われるだろうが、以下の目的があった。

・訪問団の予定では、奨学金支給と交歓昼食会のみの公式行事しかなかったので、深く視察・交流がしたかった

(結局、交歓昼食会もなしとなった。)

・先乗りして、現地行事の準備をしたかった。

ま、局団体行動が苦手なんだけどね。

そんなことで、同じミャンマーに居ても行動が別なので、 訪問団に私の行動報告を逐一したかった。それから、城 南会員、世界中の皆さんにもレポートしたかったので、 毎日 Facebook で発信し続けた。

ということで、今回の訪問記は、その Facebook をまとめたものをここに掲載する。

では、出発。

### ★6月6日、14時 セントレア

ミャンマーに行こうとセントレアに来たのだが、香港までの飛行機は2時間遅れ。

香港からヤンゴンの便に間に合うか際どい状態。



(株)

ひょっとして今夜は香港泊まりか?

ヤンゴン行きも1日遅れになるかも。

ま、つまり、日本で飲むビールが増えるか、香港で飲む酒が増えるか、ってと

航空会社から 500 円の食券もらったし。

今夜はヤンゴンで、街ご と飲み尽くすつもりだった のに。

2 時間遅れの香港行きを 待つ17番ゲート。

何やら私を呼ぶ声がする?夢の中。

眠ってしまっていたよう だ。

目が覚めれば、もはや 18 時出発時刻。

生ビール3杯(いや4杯?)は飲み過ぎか。 ゲートも急に12番に変わっていたのだ。 17番から12番はかなりの距離、小走り。



時間の上では、なんとか ヤンゴン行きの出発時刻 には間に合ったみたいだ が。

広い香港空港、全力疾走 しても間に合うか?

航空会社がカートを用意してくれた。

10 分弱乗って、そこからバス。

まさかミャンマーに行くって感じじゃない人たちで満員。 501 ゲートにたどり着いて、少なくとも搭乗は可能となった。

### ★6月6日 23:45 ヤンゴン空港

なんとか着いたヤンゴン空港。 なんだ、当初の予定通り時刻の到着だ。 23 時 45 分到着。

でも最初の2時間は、セントレアの味仙で呑んだくれてたけどね。

これで、正常なスケジュールに復帰したかと思ったのもつかの間、タクシーの左前輪がパンクした。

空港から出る前だったので、他のタクシーに乗り換え、 深夜のホテル着だ。



この日のトラブルで今回 の旅をどう占う?予測する? まあ、吉兆でしょう。 不測を楽しむのが、海外 の旅。

### ★6月7日 サミットパークビューホテル

いやー、ゆっくり寝られたよね。 昨日のトラブルのお陰で。



ヤンゴンのサミットパークビ ューホテル。

朝食旨し、ミャンマー料理。

まずはお粥。最後はココナッツラーメン。

もちろんその間、色々と。 これから食べ続けるミャン マーの食事に期待が持て る。



昼食は、京幸一(キョーキョーモー)君のご両親とタイ料理。

随分長い時間ご両親と懇 談。こんなに長い時間、20 年間で初めて。



その後、国内線でマンダレーへ。 練乳屋さん夫妻がマンダレー空港まで迎えに来てくれた。

シュウエボーまで車で移動。

### ★シュウエボー



仏壇?とフルーツと陽気 な女性たちのおしゃべりの おもてなし。

なんてったってマンゴー。今が食べ時。

マンゴー、ジャックフルーツ、スイカ、パイナップル、 そしてレペ。

実はこの中にひとつ、苦 手なものがある。

それを食べると、自分はカブト虫かって思っちゃう。



実はここ、誕生日会の準備中の真っ最中。 主人公のお誕生日ちゃんが現れた。綺麗にお化粧して、気持ちはしっかり大人の女性に入り込んでいる。



何語で話かければい いのかな?

Happy birthday. How old are you? Thank you. と、彼女。迷答? How old are you? と、再度。 It's nine o'clock. (おっ、そう来たか) How old are you? (期待が高まる) I'm nine years old. (ピンポーン)

これを「英語がしゃべれる」というのだ。 実はミャンマー、小学生の英語教育が進んでいる。

その後、明日の公式行事の会場に。 準備万端なのだがまだまだ深夜まで続きそう。 明日の朝、岡崎城南ロータリークラブの訪問団の到着を 待つ。

とか言う私は、先乗りスコアラー?

今回私はミャンマー訪問団と同行せず、行きも帰りも別 行動で、6/8朝からの公式行事のみ合流。

というのも、訪問団が公式行事や視察、奨学生とその関



係者との交流にあまり時 間を取れないので、私は 先乗りし、居残り。

訪問団との合流も3時 間!



行事に参加できなかった り各地に散らばった奨学 生や OB、現地の「ミャンマ ーきぼう奨学会」のメンバ ーと交流という「勝手に全 権大使」気取りなのだよ。





明日の式典行事のチェックを終えて、現地の「ミャンマー きぼう奨学会・Myanmar KIBOH scholarship foundation | の主要メンバーと交流食事会。

というか飲み会。









お米屋さんのソーさん、 こちらの希望奨学会の主力メンバー。

無類の日本酒好きで、後日の会に差し入れのつもりの 日本酒のうちの一本「蓬莱泉」をここで。

彼はもはや、日本酒研究家だ。







今夜の宿は、「ミャンマー KIBOH クリニック」。

岡崎城南ロータリークラブ の支援で、10年ほど前に 建てた。

その中の職員宿泊室に泊 まるのだ。

ベッドには蚊帳、空調、ト イレ、シャワー完備? ただし、停電多し。

でも診療所なので、緊急 の発電装置を備えている。 冷房なしのミャンマーの夜 も辛いしね。

土間に置かれた桶に、洗 面器が浮かんでいる。

オケに張られたお湯を、

洗面器で汲んで、体に浴びる。

まあ何てまどろっこしいと思ったが、シャワー掛け流しより よっぽど合理的だ。

水や電気の乏しい国にはネ。

そうわかると、「不自由」が急に「快適」に変わった。





### ★6月8日

多少、蚊に悩まされたが、ぐっすりねむれて、朝を迎えた。



お医者さんになった奨学 生の働き場所として、きぼ う奨学会 in Japan(写真) の支援で 10 年前に出来 た「きぼうクリニック」。今は、 卒業した奨学生の働き口 があるので、休業状態。 そこに昨夜は宿として泊



設立メンバーの写真がロ ビーの壁に掛かっており、 私も顔を連ねているよ。

まったというわけ。



ところで、旅先で Facebook を見たら、昨日の準備の時の、 その式で贈呈予定の制服を試着している私のアブナイ 写真が SNS に流出していた。(前出写真)

これがしたくて、前日から来たわけじゃないよ、念のため。

### ★6月8日、9時 公式行事

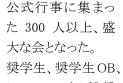
今回のミャンマー訪問の公式行事。

ここで私は、岡崎城南ロータリークラブのミャンマー訪問 団と合流という訳。今回の公式行事は、現地の「ミャンマ ーきぼう奨学会」のプログラムの中で、

・岡崎城南ロータリーから寄付金 4,000,000 チャットの贈 呈。これは前もって渡されていて、今回は成績優秀な地 元小学生200人への賞品、文具・制服に充てられている。



・岡崎城南ロータリ ーがスポンサーの 新奨学生 エイテ ィモンミヤニイへ の奨学金贈呈。(写 真)



ミャンマーきぼう奨 学会メンバー、地元 の小中高生そして 岡崎城南ロータリー 訪問団。



例年と違って小学 生の子供たち、この 子たちの中に将来 奨学生に選ばれ、 未来を開く子供た ちがいることだろう。 まさに、ミャンマー 「きぼう」奨学会。





会を終えて、子供たちは帰る。 軽トラの荷台。







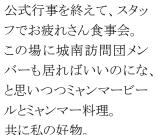
岡崎城南訪問団も帰る。 ワゴン車とのある。 (このみ行とは間にはない。)

奨学生と、奨学生 OB は各地へ帰る。 バイクとかで。



### ★お疲れさん会

私は城南メンバーと別れ、 Kyaw くんと二人居残って 非公式行事。



I love Myanmar beer. チャクア! と言いつつ飲み続ける。



午後は、かつて岡崎城南 ロータリークラブの支援で 建てた3つの図書館訪問 団。



雨季とは言え、酷暑の ミャンマー。 ビールなんて すぐ吹っ飛ぶさ。 岡崎城南ロータリークラブは、過去5つの図書館を建て ている。

図書館以外にも、校門の整備。道路の整備、井戸・給水設備(きぼうの井戸)など。

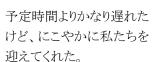
20 年に渡る支援活動のうち、前半は環境整備、後半の10 年は奨学生を育てている。

### ★図書館視察その1

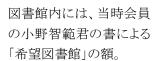




2002 年に、シュウエボー 第 一 高 校 に 作 っ た Library KIBOH きぼう図 書館。



ミャンマー・タイム、人の遅れにも寛容だが、自分も 遅れる。



そして、当時会員の則武 さんの奥さん寄贈の「ちえ こ文庫」

蔵書もしっかり管理されて おり、イラスト入りの教材 の掲示もほほえましい。













### ★図書館視察その2



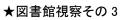
2000 年に作った第 2 きぼう図書館。

シュウエボー第 2 中学。 ここにも、則武 ちえこさん 寄贈の文庫が。



ここでも、遅れていったに も関わらず、大勢の先生た ちが迎えてくれた。

こちらが少人数で申し訳ない思い。





2005 年に出来たシュエボ 一第2高校の第4きぼう図 書館。

ここにもちえこ文庫がある。

そして、当時の城南 訪問団との公式式 典の写真が、額に 入れて飾られている。

玄関の柱には、 「DONATED By OKAZAKI JOHNAN ROTARY CLUB 4-2-2005」と刻まれて いる。









### ★6/8 夜、ビンゴ大会。

訪問計画当初は予定していなかったのだが、地元の熱烈要望により開催。

日本より大量の景品を持ち込んだ。

ロータリーメンバーからの カンパ、100 円ショップで 購入など 200 点。

毎回異様な盛り上がりだ。

今回は、奨学生 OB の二 人の若いドクターの、歌と ギター演奏が予定されて いた。

だが、ビンゴで景品を手に したら皆さん帰ってしまっ た。

それでも「やってよ」と無 茶振り、人のいないところ で演奏となった。

私も人に振った手前、1~2曲。

どなたかの facebook に載っている。

ここでの拡散はやめておこう。











### ★6月9日現地交流、家庭訪問。

### まずは、

ミャンマー支援を現地で取り仕切っている、練乳屋さん夫妻のご自宅。

居間に城南RCとの交流の

そしてミャンマーでもその 活動が評価され表彰され ている様子が飾られてい る。

ここで、マンゴをいただく。







奨学生、奨学生 OB の家庭を訪問し、マンゴをいただく。

次に、きぼう奨学会メンバーの職場訪問、ここでもマンゴをいただく。



この季節、ミャンマーはマ ンゴの季節。



空港に向かう前、モー君 の奥さんカインさんの実家 を訪ねる。

そこでは、甥っ子の小学 生君と「英語遊び」iPad の 翻訳ソフトを使ったりして。 彼は小学校とは別に英語 学校に通っていて、英語

が達者、使いたくてしょうがないって感じて、私タジタジ。 発展するミャンマーの底力だね。



0125 ヤンゴン発香港行き Cathey で帰路に着く。 Golden Duck で夕食、 Kyaw 君と Kyaw 君のお父 さんと Taxi の運転手さんと、 smile and peace.

空港で出発を待つこと3時間。 香港での予定待ち時間は4時間。 丸1日かけての移動。

### ★旅の振り返り

この時間を利用して、この旅を振り返ってみる。モー君の ご両親との昼食から始まった「食は交流」 (厳密には、出発時のセントレアの味仙からなんだけど)

現地の「ミャンマーきぼう奨学会」のメンバー、モー君の 友人たち、親戚の人、得体の知れない若い女性(と思わ せぶり、実は学生

まあよく会ってよく食べた。飲んだ。

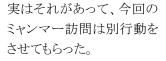
私、69歳。

短命のミャンマーでは、その歳を言って驚かれる。 ところが、モー君のお父さんの友人たち、ほとんどが元教員さんなのだが、みなさん私より年上なのだ。

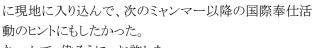
驚き、ミャンマーで貴重な 体験をさせていただいた。

とにかく、旅は「人と会うこと」「現地のものを食べること」(そして「飲むこと」)だと思う。

だが、ともすればカノ国の 一定数の方々は、せっかく の非日常体験なのに、「日 頃と同じ」を望んでしまう。 これは、国際交流・海外支 援も同じかなと思う。



岡崎城南ロータリークラブ のミャンマー支援も、2018 年で一区切り、時の国際奉 仕委員長を仰せつかった 私としては、やはりディープ



な一んて、偉そうに。お許しを。 さて、帰路。

ヤンゴン空港を発って、香港空港。

ここで、結局乗り換え3時間以上待ち。 往路では、カートで駆け抜けたなあ。

でも、こう言った時間、嫌じゃない。 さあ買い物でも、な~んて 行くもんかい。

今回の旅行も、何も買ってない。











### ★帰国。

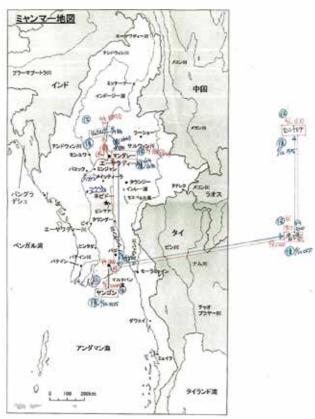
入管は、「自動化ゲート」でスピーディに。 機械にパスポートをかざし、顔を撮影して終わりなのだが、

感心して立ち止まっていたら、出口の自動ドアが閉まって出られなくなった。

やむなく、もう一度やり直し。

私は2度入国した記録が残るのでは? 再度再入国。

### ただいま。



勝手に二人旅 工程図







# Part-3 総括



- ・1999-00 年度~2020-21 年度 WCS 活動の沿革
- •1999-2019 ミャンマー訪問団参加者一覧
- ・奨学生リスト(統合版)
- ・ミャンマーきぼう奨学金資金推移
- ・ミャンマーKIBOH 奨学会(現地)報告書
- ・ミャンマー愛好会発足
- ・クラブ戦略委員会報告
- ・編集者まとめ

# ★1999-00年度~2020-21年度 WCS活動の沿革

備考	会員7名同行者1名・計8名	各同行者   名・計5名 和設・あおい奨学会設立	会員6名同行者2名・計8名	5名同行者2名・計7名	:員5名同行者1名・計6名	名同行者2名・計8名	同行者3名・計9名	同行者2名·計9名	名同行者2名・計7名	悪化のため中止) ↓「物」から「人」に転換	員7名同行者1名・計8名 クラブ奨学会KIBOH設立	5名同行者1名·計6名	会員5名同行者1名・計6名	4	9名同行者1名·計10名	4	各同行者  名・計7名 ミャンマーきぼう奨学会設立	5名 ニャンマーKIBOH奨学会設立(現地)	(MYANMAR KIBOH SCHOLARSHIP FOUNDATION)	88	
ミャンマー訪問	第1回 (1999/1/23-28)	講堂改修) 第2回 (2000/2/11-17) 会員4名同行者1名・計5名	第3回(2001/2/1-8)	額) 第4回(2002/2/28-3/7)会員5名同行者2名。	8用) 第5回(2002/11/25-12/1)会員5名同行者1名・計6名	<ol> <li>第6回(2004/2/12-16)会員6名同行者2名·計8名</li> </ol>	3) 第7回 (2005/2/3-7) 会員6名同行者3名・計9名	第8回 (2006/2/1-8) 会員7名同行者2名・計9名	第9回 (2007/2/9-15) 会員5名同行者2名・計7名	(ミャンマー訪問・国内情勢悪化のため中止)	第10回(2009/1/31-2/5)会員7名同行者1名・計8名	第11回 (2010/2/11-15) 会員5名同行者1名・計6名	第12回(2011/2/11-15)会員5:	第13回 (2012/2/9-13) 会員7名	リニック視察 第14回 (2013/1/25-30) 会員9名同行者1名・計10名	第15回 (2014/2/6-11) 会員7名	第16回 (2015/2/6-11) 会員6名同行者1名・計7名	第17回(2016/2/24-29)会員5名	第18回(2017/5/16-22)会員8名	<b>ム最終年度 第19回 (2018/5/18-23) 会員8名</b>	第20回(2010/6/7-11) 今号6夕 同行考1夕。
	(ヤンゴン・アローン第5高校・道路建設)	(ヤンゴン・アローン第6高校・教室兼講堂改修)	(シュエボ第1高校・図書館建設費用半額)	(シュエボ第1高校・図書館建設費用半額)	(シュエボ第2中学他・第2図書館建設費用)	(北ダゴン第1高校・第3図書館建設費用)	(シュエボ第2高校・第4図書館建設費用)	(マグエ第1高校・第5図書館建設費用)	(マグエ第1高校・給水設備費用)	(シュエボ第1高校・道路整備費用)	(対象校:シュエボ第1高校)	学会KIBOH)・図書の客贈	学会KIBOH)・文具の寄贈	ブ奨学会KIBOH、あおい奨学会)	あおい奨学会) KIBOHク	学会KIBOH、あおい奨学会)	学会KIBOH、あおい奨学会)	学会KIBOH、あおい奨学会)	ラブ奨学会KIBOH、あおい奨学会)	学会KIBOH、あおい奨学会)支援プログラム最終年度	計開田に贈口ボル 参別 単ケ 年重業
事業	教育環境設備資金の寄付	教育環境設備資金の寄付	教育環境設備資金の寄付	教育環境設備資金の寄付	教育環境設備資金の寄付	教育環境設備資金の寄付	教育環境設備資金の寄付	教育環境設備資金の寄付	教育環境設備資金の寄付	教育環境設備資金の寄付	奨学金の支給	奨学金の支給(クラブ奨学会KIBOH)	奨学金の支給 (クラブ奨学会KIBOH)	奨学金の支給(クラブ奨学	奨学金の支給(クラブ奨学会KIBOH、	奨学金の支給(クラブ奨学会KIBOH、	奨学金の支給(クラブ奨学会KIBOH、	奨学金の支給(クラブ奨学会KIBOH、	奨学金の支給(クラブ奨学	奨学金の支給(クラブ奨学会KIBOH、	安什会(第二一个目標))
年度	1998–99	1999-00	2000-01	2001-02	2002-03	2003-04	2004-05	2005-06	2006-07	2007-08	2008-09	2009–10	2010–11	2011-12	2012–13	2013-14	2014-15	2015-16	2016–17	2017-18	2018-19

(*団長)
 配
加者
問団参
一訪問
ンマ
<b>₽</b> Ⅲ 6
9-201
366

-	2	3	4	2	9	7	8	6		01	=	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
キョーキョーモー	Dr.キョーキョーモー	Dr.キョーキョーモー夫妻	Dr.キョーキョーモー夫妻	Dr.キョーキョーモー	Dr.キョーキョーモー	Dr.キョーキョーモー	Dr.キョーキョーモー	Dr.キョーキョーモー		  -	<b>+</b>	幸	<b>一</b>	幸	<b>-</b> 華	-幸	幸	幸	<b>-</b> ₩	幸	
#	٦	Dr.#	Dr.#	۵	1	2 Dr	1	à		一世	岷	岳	↑	2 京	岳	平	岷	岳	岷	↑	
					神川 藍	華 川中	市川摩耶						(RC入会)	佐久間摩耶						(RC退会)	
					市川聰明 1	11職明 2	1 日曜日 3			十川聰明 4	市川聰明 5			9 舶離川単							
						牧野暁世 1										4野時世 2					
						牧野正高 1		小林夫人						鈴木 豊		4野正高 2		鈴木 豊 2		鈴木 豊 3	
小林通利 1								14種利 2		松永茂夫 1	松永茂夫 2		松永茂夫 3	小林通利 3		松野 敏 1			松永茂夫 4	松永茂夫 5	
										± 2		-		1 2			2 2		- E	<u>  </u>	
-							加藤豊生	-		加藤豊生		稲垣裕幸	-	永谷和之	2		永谷和之	8	柴田仙功	近藤保則	
天野賢一								千賀邦二					板倉正直		板倉正直			板倉正直			
杉浦節雄 1							天野邦彦 1			天野邦彦 2			天野邦彦 3		天野邦彦 4			天野邦彦 5			
		加藤義幸 1		加藤義幸 2	加藤義幸 3		岡田吉生 1			岡田吉生 2		岡田吉生 3			岡田吉生 4			岡田吉生 5		岡田吉生 6	で中止となる。
-		推 2	-		2	8	4			2	9	7	∞	6	10				=		1十禍7
1 則武國雄	2	3  *則武國雄	4 田中暉登	5	9 田中陣登	7 田中暉登	憂 車 中 国			田中匯会	<ul><li>受動中田</li></ul>	8 田中匯登	<b>愛</b> 恵 中田	憂動中田 6	要車中田	1	2		1 田中暉盛		ったが、コロ
中根常彦	*中根常彦	中根常彦	中根常彦	中根常彦	中根常彦	中根常彦						*中根常彦		中根常彦		一票猛小	一票猛小		倉田長秀		ティンを日本へ招聘の計画であったが、コロナ禍で
1	信 2	信 3	信 4	信 5	9 国	信 7		6	수 실		9	信 10	======================================	信 12	信 13	信 14		信 15	信 16	信 17	トへ招
太田政信	1 太田政信	2 太田政信	3 太田政信	4 太田政信	5 太田政信	6 太田政信	7	8 太田政信	め、派遣中	6	10 太田政信	太田政信	11 太田政信	12 太田政信	太田政信	太田政信		2 太田政信	3 太田政信	4 太田政信	- インを日本
	近藤正俊	近藤正俊	*近藤正俊	*近藤正俊	*近藤正俊	*近藤正俊	*近藤正俊	*近藤正俊	り情勢悪化のた	*近藤正俊(	*近藤正俊 1		*近藤正俊 1	*近藤正俊 1			让村繁仁	计村繁仁	计村繁仁	让村繁仁 ,	ピュー
*小野智範 1	小野智範 2	小野智範 3	小野智範 4	細井正治 1				奥谷 博	ニャンマー国内情勢悪化のため、派遣中止>						鈴木昭弘 1	鈴木昭弘 2	鈴木昭弘 3	鈴木昭弘 4	鈴木昭弘 5		卒業生 ピュエ
&	5名	8 名	7名	6名	8名	9名	9名	7名	<b>V</b>	8 名	6 名	6 名	7名	10 名	7名	7名	5名	8 名	&	7名	: 1.7,
第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回		第10回	第11回	第12回	第13回	第14回	第15回	第16回	第17回	第18回	第19回	第20回	2019-20 WCS事業として、卒業生
1998–99	1999–00	2000–01	2001-02	2002–03	2003–04	2004-05	2005-06	2006-07	2007-08	2008-09	2009–10	2010–11	2011–12	2012–13	2013–14	2014–15	2015–16	2016–17	2017–18	2018–19	2019–20

 訪問回数
 京 幸一
 20 回
 市川聰明
 6 回

 (全20回)
 太田政信
 17 回
 岡田吉生
 6 回

 訪問者数
 近藤正俊
 12 回
 松永茂夫
 5 回

 35名
 田中暉登
 11 回
 鈴木昭弘
 5 回

 延べ144名
 中根常彦
 9 回
 天野邦彦
 5 回

 (同行者含む)

# 獎学生Jスト(統合版)

ミャンマーきぼう奨学生 ± **±**   $\dot{\mathbb{H}}$ # ť ■は、AOI奨学生、★は、KIBOH奨学生

2019/10/29

|シュエボ第1高校 校長推薦 |奨学金が貰えないと進学は困難な状況です。お坊さんが面倒を見ています。8人兄弟。モー君推薦。練乳屋さんが2番推薦する子です。 |2012 ミッチーナで研修医 2002年あおい奨学会選考に漏れたが、キョーキョーモー氏が個人的に |奨学金を支援して卒業した。・当会の行事には、他学生と同様に招待して |いる シュエボ第1高校校長推薦 サガイン管区で成績一番。長男。5教科ともAAクラスの成績。医者になり たいという夢あり、真面目で優秀。公務員の父親の収入では大学進学は シュエボ第1高校 校長推薦 奨学金が貰えないと進学は困難な状況です。8人兄弟、2006年に父死亡。練乳屋のコメント:親戚達から面倒を見てもらえる可能性がある。 2012 ミンブーで研修医 シュエボ第3高校の生徒。優秀で真面目な性格。兄弟の3番目。貧しいので進学は無理、高校までの学費は塾の先生が面倒を見た。 ・シュエボ第1高校校長の推薦・成績優秀・交親職業:公務員退職(疑獄事件で2年刑務所/05年出所)・2006/05/ 父親逝去・2009 医師となり地元シュエボ病院で勤務医 ・父親職業:中学校教師 ・2009 医師となりポコック病院で僻地医療に勤務 ・成績良、経済的に進学困難・ ・父親職業:土木従業員・肉屋 (ナオコ・ファンド特別奨学生) - 2009 修士卒業したが博士課程は断念、銀行に勤務 ・父親は死去・お坊さんの世話で高校卒業・シュエボ第2高校・兄弟9人・成績優秀 -シュエボ第1高校校長の推薦 -成績優秀 - シュエボ第1高校校長の推薦 ・シュエボ第1高校校長の特別推薦 ■シュエボ第1高校校長の推 2012 地元シュエボで勤務医 2012 地元シュエボで勤務医 シュエボ第3高校校長推薦 父親職業:レストラン経営主婦 子供2名 **-2012 地元の村で開業中** 成績優秀 無理。 (自宅) C/O U Nyint Lwin, Daw Nwe, ThettharpanSaung, Quarter, Shwebo, Sagaing (下宿先)Division of Mother and Child care association border,Myintar street, Soekawn (自宅) U Tin Ohn Ye OO Road , Kyi Daw Su Quarter, Shwebo, Sagaing Division, (自宅) U Tin Myo Lwin, Daw Mo Mo No(2)Quarter, Shwebo, Sagaing , Division, (自宅)Manha Way Yan Ban Kyaw Monestry.No11.Quarter, Shwebo, Sagaing Division, Myanmar (自宅) Ngadingyi Village, Khin U Township Sagaing Divition, Myanmar (自宅)No.4 Street,Thet- tha-pan-taug Quarter,Shwebo,Sagain Division,Myanmar Shwebo Township (自宅)EPC office, Sin Phyu Shin Street Boghone Quarter, Shwebo, Sagain Division,Myanmar 任 所 Quarter,Magway,Myanmar Division, Myanma 加藤(豊) 相当 スポンサー Dr.Moe 小野 近藤 中根 干質 上田 出下 三世 天野 小年 字業 **你業 你業** 字業 字業 字業 字業 字業 字業 字業 nstitute of Economy, Monyuwa モンュワ経済大学修士課程 Magway Institute of Medicine, Magway マグェ医科大学 Magway Magway Institute of Medicine, Magway マグェ医科大学 Institute of MedicineMandalay マンダレー医科大学 Institute of Medicine, Magway マグェ医科大学 Institute of Medicine,Magway マグェ医科大学 シュエボ大学物理学科 Shwebo College Institute of Medicine, I マグェ医科大学 Institute of Medicine, N マグェ医科大学 Institute of Medicine, N マグェ医科大学 大学名 氏名 生年月日 Mya Thandar Ohn キンタンダーシュエ Khin Thandar Swe HTET HTET LWIN ミャア タンダ オン パィーピィーピョナ トン リン アセン PYI PYI PHYO Htein Lin Aung NAY YU LWIN Thandar Soe タンダーソー キュ アウイン トシ ト フソ Ko Ko Thine Soe San Tun **ナン アウン** ンーキントソ Yan Aung 1988 10 10 ココタイン 1985 4 27 1986913 1989.3.25 1986 6.27 1989 5 21 写真 2002 2006 **2**003 **3**00€ 2007 年度 2004 2001 2001 <sup>2</sup>00√ 2001 \* ŝ 10

E	顺暖	っ女	۰.11	۳٦ خ	~ e	で数	۳ <sup>+</sup>	#Uu	
シュエボ(3) 高校  父親:サイカー運転手  練乳屋のコメント: 奨学金貰えないと大学進学は困難です。是非、採用  をお願いします。	父:農業 母:中学教師退職 ウエッレイ高校 校長推薦 彼女は非常に真面目で一生懸命努力します。又、彼女は教師に対し信 心深く、従順です。わたしは彼女が奨学金の栄誉を得る価値があると思います。	X:原表母:車業主婦 第3シュエボ高校 校長推薦 彼女は非常に真面目で一生懸命努力します。それ故、統一試験では5つ の最優秀を取りました。而親は貧しいため教育に提供で来ません。彼女は普問題後のも、大き 一番の	父:公務員退職、母:中学教師退職 第1シュエボ高校 校長推薦 彼は真面目で勤勉で従順です。統一試験で4つの最優秀を取りました。 彼の貧しい家族の所得は高等教育には不足しています。彼は基本的にも彼の将来の学問を継続するためには奨学金は必要です。	父:労働者(調理人) 母:中学教師 第1シュエボ高校 校長推薦 4つの最優秀を取りました。彼は医師になることが希望です。父親はコックです。母親は中学教師ですが給料は、高等教育には十分ではありました	セインケン高校:校長推薦 彼の人生のゴールは有資格の医師になることです。 彼の父親は公務員と農業をしているが、エイミンを医科大へ送るため には、貧しすぎます。よって、エイミンは、勉学を続けるため皆さん方の 優しき心を分けていたい。	シュエボ第2高校:校長推薦 彼の希望は有資格の医師になることです。彼の父親は一般的な農業で母親は専業主婦です。彼の父親に収入は、テッアカー チョウを高等教育への支援のために、余りも少ないです彼に、皆さんの支援を期待しています。	シュエボ第1高校:校長推薦 彼の人生のゴールは有資格の医師になることです。彼の父親に収入 は、ピェ ピョウ アウンを高等教育への支援のために、余りも少ないです。よって、エイミンは、勉学を続けるため皆さん方の優しき心を分けていただく必要があります。	シュエボ・セインクン高校:校長推薦 彼女は真面目で努力する学生で良い性格の女子ですので私は推薦します。彼女の父親は農夫で母親は中学の教師ですが大学の費用は払うことが出来ません。それ故、彼女はこの奨学金を切望していますのでここに推薦いたします。	シュエボ第1高校:校長推薦 彼は真面目で従順で努力家です。卒業試験で5つの優を取りました。彼の人生の目標は医師になることですが、両親の収入では医科大に送れません。
少父雄を			Zo(8)		ion				
(自宅) Chibasu, Quarter(7), Shwebo Township Sagaing Divition, Myanmar	(自宅) No.l Yadana Quarter Wedet.Township. Shwebo District, Sagaing Divition. Myanmar (下宿去) Sipin Hostel. Pyi-Taw-Thar Road, Magway, Magway Division	(自宅)Min Kone Village, Shwebo Township Sagaing Divition , Myanmar	(自宅)No.170 3rd street Pyi Daw Thar No(8) quarter Shweb Township. Sagain Divition,Myanmar (下宿主)U Myo Thein Bordering House, Ywathit 17th Street, Magway, Magway Division	(自宅) Myouk Su Quarter, Shewbo, Township, Sagain Divition, Myammar (下语光) Hum-Tauk-San Hostel, Ywathit 15th Street, Magway, Magway Division	(自老)C/O Dwa Thaung Myuot,Seik Kun,Shwebo Township. Sagaing Division (下宿先)Forestry Hostel, Aungsatanar Street, Aungsatanar Quarter, Magway. Magway Division	(自宅)C/O U Chit Khim, No211.Thuzay Ward,No.10 Ward.Shwebo Sagaing Division (下宿去)Forestry Hostel, Aungsatanar Street, Aungsatanar Quarter, Magway, Magway Division	(肖宅) C/O Daw Soe Thandar Kyaing No.98.th Street, Pyi-Daw-Thar quarter,Shwebo,Sagaing Division	自宅)No (1) quarter, Seikkun, Shwebo Township, Sagaing Division, Myammar (下宿去) Academy Hostel, Nat-Mauk Street, Magway, Magway Division	自宅) No (2) quarter, Shwebo Township. Sagaing Division, Myanmar
難	永田	<del>U</del> EI	松永	中梅	华 电	市川	足立	田田田	水井
<b>华</b> 業	<b>\\ \\ \\ \\ \\</b>	<b>存業</b>	<b>冷</b> 業	<b>你</b> 業	<b>你</b> 業	<b>炒業</b>	<b>小業</b>	臣参困	<b>臣</b>
Institute of Medicine. Magway マグェ医科大学	Institute of Medicine, Magway マグェ医科大学	Institute of Medicine, Magway マグェ医科大学	Institute of Medicine. Magway マグェ医科大学	Institute of Medicine, Magway マグェ医科大学	Institute of Medicine. Magway マグェ医科大学	Institute of Medicine, Magway マグェ医科大学	Institute of Medicine, Magway マグェ医科大学	Institute of Medicine,Magway マグェ医科大学	Institute of Medicine, Magway マグェ医科大学
Kywe Pyae Wai チュエ ピュイ ウィエ	Khine Tahazin Win カイ タジン ウィン	Yadana Swe Swe Phyo ヤダナ スイスイ ピョウ	Htet Arkar テェ アカー	ミョウ ミイン ソー Myo Myint Soe	エイ ミン (Aye Min)	テッアカー チョウ (Htet Arkhar Kyaw)	ピェ ピョウ アウン (Pyae Phyo Aung)	テッイニンイ (Thet Hnin Ei)	ゾーテッイカイン (Zaw Thant Khaing)
	0	0			0	0		<b>60</b>	
11 2008	2009	13 🖈	2009	15	16	2010	18	19 🖈	20 2011

21					l			
	2012		ニャイン ユ ウエイ (Nyein Yu Wai)	Institute of Medicine, Mandalay マンダレー医科大学	വ	板	(自宅) Minglar village, Shwebo Township. Sagaing Division, Myanmar	マンダレ一第15高校・校長推薦 彼女は真面目で、努力家であり従順です。統一試験で4つの最優秀を取りました。彼女の人生の目標は資格を与えられた医師になることです。 が女の父親は労働者で、父親の収入は、娘をマグエ医科大へ送るため にはあまりにも貧しいです。
22	2013		ピュエ ピュー ティン Pyae Phyo Thant	Institute of Medicine, Mandalay マンダレー医科大学	4	冷	U OHIT KYATNG No(10)quareter, Shwebo. Sagain Region, Myanmar 09–6460844	(推薦文無し)
23	2014	1	イイモン Ei Ei Mon 1996/5/25	Institute of Medicine, Magway マグェ医科大学	က			彼女は真面目で努力家です。彼女の夢はお医者さんになることで。お父親は労働者で母親は中学教師です。両親の収入からは彼女を医学大学に行かせることが困難です。 彼女はKIBOH奨学生ミョウミイン ソーの妹です。
24	2015		ポン ミャンイ モ モ Phone Myint Mo Mo	Institute of Medicine. Mandalay マンダレー医科大学	2			(高校からの推薦)真面目で努力家です。優秀な学生です。夢はお医者さんになることです。 (現地情報)生活状況から進学は困難で採用を推薦します。
25	\$102	600	ミン テェイ ター Min Htet Thar	Institute of Medicine, Magway マグェ医科大学	7			(高校からの推薦)真面目で努力家です。優秀な学生です。 (現地情報)生活状況から進学は困難で採用を推薦します。
26	2015	<b>(3)</b>	ジン モー トン Zin Moe Tun	Institute of Medicine, Magway マグェ医科大学	2			(高校からの推薦)真面目で努力家です。優秀な学生です。 (現地情報)生活状況から進学は困難で採用を推薦します。
27	2016	<b>(</b>	ナンタェイ Mg Nan Htike	マンダレー 医学大学入学	-			生活状況から進学は困難で採用を推薦します。 (現地情報)
28	2016	<b>6</b>	ニンナンダー Ma Hnin Nandar	歯科大学入学	-			生活状況から進学は困難で採用を推薦します。 (現地情報)
29	2016		ミンモソウ Mg Min Maw Soe	マグエ 医学大学入学	-			生活状況から進学は困難で採用を推薦します。 (現地情報)
30	2017		メイ タン シン アウン May Thant Sin Aung	マグエ 医科大学	3			(高校からの推薦) 真面目で努力家です。
31	2017	(3)	スイン ティ ナイ Swann Htet Naing	マグエ 医科大学	ო			(高校からの推薦) 真面目で努力家です。

(高校からの推薦) 真面目で努力家です。 優秀な学生です。	(高校からの推薦) 真面目で努力家です。	(高校からの推薦) 真面目で努力家です。	(高校からの推薦) 真面目で努力家です。	(高校からの推薦) 真面目で努力家です。
(高大)	(高大高)	大皇) 西真	(高女真	(高女
8	2	2	-	-
マグエ 医科大学	マグエ 医科大学	マグエ 医科大学	マグエ 医科大学	マッゲレー歯科大
スポポアウン Su Po Po Aung	ラミン ティイ La Min Htet	カン ジン トン Khant Zin Tun	エイ テイ モン ミャニイ Ei Thet Mon Myint	パン ジン ウエン Pann Zin Win
32 2017	33 2018	34 🔷	35 2019	36 2019

ミャンマーきぼう奨学金 資金推移シミュレーション(日緬統合版)

	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	24 = \$\frac{1}{24}  \text{24}
		_+	¥280,000								¥1,113,000
¥300,000 ¥300,000			¥300,000	¥300,000							¥1,500,000
											¥100,000
			¥20,551								¥70,232
₹409 318											¥492.318
			¥182,576								$\setminus$
			¥783,127								
₹30,000 ¥30,000											¥210,000
¥45,900			/						$\setminus$	$\setminus$	
			0*								
0*	0*		¥1,689,750	0*	0*						¥1,689,750
\			¥3,256,004								
¥1,161,218 ¥600,000			¥3,256,004	000'00£±	0*	0*	0*	0,₹	0夫	0夫	¥6,201,903
±50.000 ¥			¥50.000	¥20.000	*50.000						000.00€¥
		1	0*	0*	0*						¥150,000
¥50,000 ¥50,000			¥50,000	¥50,000	#50,000	#20'000					¥300,000
#50,000 ¥50,000			₹50,000	¥50,000	#50,000	#50,000					₹300,000
#50,000 ¥50,000			₹20,000	¥50,000	#50,000	#50,000					₹300,000
000'02★	000'0 <u>5</u> ₹		₹20,000	±50,000	000'05 <del>*</del>	#50,000	000'05 <del>*</del>				₹300,000
000'02★	000'0 <u>5</u> ±		₹50,000	¥50,000	#50,000	#50,000	±20,000				₹300,000
000'05 <del>*</del>	000'05±		±50,000	¥50,000	#50,000	#50,000	#50,000				±300,000
			₹50,000	¥50,000	#50,000	#50,000	000'02 <del>*</del>	±50,000			¥300,000
			±50,000	¥50,000	#20'000	#50,000	#20'000	±20,000			±300,000
				¥50,000	#50,000	#50,000	±20,000	±20,000	₹50,000		₹300,000
				¥50,000	¥20,000	¥50,000	¥20,000	¥20,000	¥50,000		₹300,000
					¥50,000	¥50,000	¥20,000	¥20,000	¥50,000	¥50,000	¥300,000
					¥50,000	¥50,000	¥20,000	¥20,000	¥50,000	<b>#20,000</b>	¥300,000
¥18,000 ¥12,000			¥10,000	¥12,000	¥12,000						¥64,000
			¥61,438								
¥268,000 ¥412,000	*4		¥521,438	¥562,000	¥662,000	000°009±	¥450,000	#300,000	¥200,000	000'001 <del>*</del>	¥4,175,438
¥893,218 ¥188,000		$\vdash$	¥2,734,566	(¥262,000)	(\\$662,000)	((000,000)	(\\$450,000)	(#300,000)	(¥200,000)	(年100,000)	
_											
		۲									

2017-2018 年度、継続事業としての「ミャンマー教育支援プログラム」も、最終年度を迎えた。

教育支援プログラムの当初 10 年は建築環境設備費用の寄付、次の 10 年は奨学金による学生の教育支援、「モノ」から「ヒト」へシフトし、その奨学制度もミャンマーの独り立ちを目指して来た。

そして、2015 年、現地の奨学会「MYANMAR KIBOH SCHOLARSHIP FOUNDATION (SHWEBO)・ミャンマーKIBOH 奨学会」が誕生した。

ミャンマー教育支援プログラムの最終年度(2017-18)の訪問団から提出された下記の報告書は、このプログラムの総括として相応しいものであるのでここに掲載する。

\* \* \*

2018/05/26

# ミャンマーの人々で設立された ミャンマーKIBOH 奨学会の調査報告

正式名称は「MYANMAR KIBOH SCHOLARSHIP FOUNDATION (SHWEBO)」でボランティア活動を主に実践している純粋な民間団体です。ミャンマーという国において、永く続いた軍事政権下ではこのような民間ボランティア団体は認められていなかったので、今、民主化されつつある政権下でも民間ボランティア団体は数少ないとのこと、そこでこの組織の設立経緯や組織の目的・活動等を現地調査(2018/05/16~19)をしてきましたので下記の通り報告致します。

#### ◆設立の経緯

岡崎城南 RC の国際奉仕・ミャンマー教育支援事業が始まり、2001 年よりミャンマーザガイン管区シュエボに図書館建設に協力 したキンララモー女史が、2010 年頃、自国の学生を自国の人々が支援しようと提唱し地元シュエボの有力者や富裕層へ働きかけを すると複数の女性有志が手を上げてくれた。

2013 年 9 名で組織化出来たが 2011 年スーチー氏の民主政権が誕生するも集会の自 由・出版の自由も無く、会員の募集等公開できず制限もあり、しかも民間団体設立の認可を何度も申請するも許可されなく、目立った活動も出来ない状況が続いた。

2015 年ザガイン管区で初めてキンララモー女史が政府へ申請していたこのボランティア民間団体設立の認可がされ、銀行口座の開設や集会が自由に行うことが出来るようになった。会員募集も地元の人々に公表、パンフレットやチラシなど印刷し配布を始め、現在会員80名余(元奨学生も含む)となっている。

### ◆組織の構成

会 長 1名(シュエボの有力者で名誉職的立場 米穀卸業)

理事長 1名(実質的な代表者で実務者 キンララモー女史が担当)

会 計 2名(銀行勤務の元奨学生とキンララモー女史の夫が担当)

理事 9名(当初のメンバーで地元富裕層の奥様達が主力)

### ◆事業内容

主に下記の3つの事業を展開している。

- ①年に1~2名、貧困だが優秀で大学に進学できない学生に奨学金を支給している。 学生は、医学部に限らず城南 RC の選考に漏れたシュエボ出身の学生も選考している。
- ②年に一度、毎6月に小中学の優秀な児童・生徒200~240名を一カ所の会場に集め表彰し、ノート、文具、ユニホーム(学校の制服)、書籍など教育必需品を贈呈している。この対象の児童・生徒は、シュエボ地区のある全22校の小中学校の校長より各クラス1名の推薦を受け、授与している。この活動が地元で評価され、行政府の責任者も式典に参加してるとのこと、またこの表彰が生

徒達には勉強の励みとなり、各校長から感謝されている。

③上記の表彰式とは別に、孤児に衣類、文房具また貧困の高齢者複数に食料や衣類 を配布している。

孤児は身寄りが無くキリスト教会等が生活の面倒見ているそうだが、衣類は無くボロボロの衣服や文房具しか無いようだ、貧困 の高齢者は高齢のため働くことが出来ず、身寄りがいても貧困のため生活を支えてくれないとのこと。見るに見かねて援助してい る。

◎事業費については、年一度の表彰のため総額 20 万円程度のものを購入、授与している。また 孤児・高齢者用には、募金と資金 の利息分(銀行利息 年8%で運用) で上記の物を購入し配布

### ◆資 金

ミャンマーという国柄、会員から年会費というものは徴収することは出来ないため、事業開催前に会員から寄付を募金、城南 RC の元奨学生も入会していて 2018 年には、彼らから約 10 万円の寄付金が有ったそうだ。彼ら公務員医師の給料は月 2.7 万円程度、一人 1 万円程度出している計算になる。とても高額な寄付に驚きを感じえる。

### ◆活 動

年一度の授与式だけの活動では、会員間コミュニケーションがとれないので月に 1~2 回食事会を開催し、おしゃべりを通し親睦を図っているそうだ。

会員にはキンララモー女史の同級生や親族も多く、その同級生の旦那も巻き込み友情をはぐくみ、RC のような楽しい例会のような会合と言っていた

### ◆課題点

文房具など物品購入をする担当や会場手配の担当、奨学金支給の担当など幹部会員に担当分けをしたいが、協力するが責任を持ちたくないなどと担当分けが出来ず、自分の仕事が有るときには大変忙しいとキンララモー女史が不満を言っていた。長い間、軍事政権下で民間組織を作れずその意識が低いせいで有ろう、これもミャンマーのお国柄かもしれない。

また、奨学生達に奨学金二-三ヶ月分まとめ送金、各学生に銀行口座が無く、各大学の代表学生に口座を作らせ、そこに送金している。しかしその代表学生が同じ大学の学生に奨学金を渡すシステムのため、奨学生個々にその現金受取の時期が遅れ、たびたびキンララモー女史へ催促の連絡が頻繁にあるようで困っているとの話が有った。

この奨学金支給の問題点は、今後各学生には全員に銀行口座を作らせて、振込が出来るよう学生を指導していきたいと言っていた。

### ◆まとめ

今般、現地に赴き、キンララモー女史や奨学会会員の複数に会うことが出来た。会員は多くがシュエボ在住の富裕層で、ボランティア意識も高くこの奨学会の活動にプライドと理解を持っていることを身をもって感じた。

そして城南 RC の元奨学生達が社会人となり現地の奨学会に入会し、各自の給料に見合わない高額な寄付をしていることに感動し、この MYANMAR KIBOH FOUNDATION が長年継続していくことを願うものでも有ります。

城南 RC が、日本人が作った奨学金制度をミャンマー人の、ミャンマー人による、ミャンマー人のための制度になるよう大いに期待していきたい。

### 〈責任者のプロフィール〉

名前: キンララモー 54 才 女性 (ミャンマーに姓は無い)

職業: 大学生専用女子寮(150 名収容)経営、練乳製造業、結婚式場経営、人柄 非常にまじめで数字に強い、優しい方 自宅に昔からメイドさんが複数いるため料理や洗濯は出来ないが細かいところに気がつく才女と感じる。

高校時代からボランティアに関心があったと彼女の友人から聞いている。そのためこの奨学会設立に協力者がすぐに集まったそうだ。

雑感:この奨学会設立以降、多くの地元民と交流が出来、広範囲に有力者に面識が出来て良かったと感想を述べていた。 ※尚、本書にこのミャンマー KIBOH 奨学会の活動紹介・会員募集用のパンフレット並びに実践活動の証拠写真を添付します。



会員用バッジとパンフレット



表面 紹介用写真



## 裏面には、概要と募集内容が記載してある。

奨学会の幹部メンバー 女性が主力、お揃いのロンジーで連帯感をアピール





表彰式の会場風景 前列は来賓、後列は会員メンバー

## 受賞者の子供達 約 200 名の受賞





写真の右に配布する品が山積み

表彰式の模様 表彰者はキンララモー女史





表彰用の品々 写真左のも多く積まれている。

## ★今後のミャンマー支援・国際奉仕活動

# 「ミャンマー愛好会発足」2020年1月24日

1998-99年度から始まった「ミャンマー教育支援プログラム」は、前半10年の「教育施設・設備等の建設」から、後半は 奨学会の設立・奨学金の寄付に代わって行った。

現地の「ミャンマーKIBOH奨学会・Myanmar KIBOH Scholarship Foundation」の発足を機に、クラブのミャンマー支援は「ミャンマー愛好会」として生まれ変わった。今後のミャンマー支援を同好会として支えて行くこととなった。

### 岡崎城南RCミャンマー支援奨学会の変遷

- 私設「あおい奨学会」(2000-2014)会員有志メンバー4名で設立、2009年には23名となる。支援学生22名。
- ・「クラブ 奨学会KIBOH」(2009-2014)クラブ創立20周年を機にクラブの奨学制度として5年間の支援、支援学生10名。
- ・「ミャンマーきぼう奨学会」(2015-2019)支援学生4名。
- ・「Myanmar KIBOH Scholarship Foundation (SHWEBO)」現地ミャンマーKIBOH奨学会、2016年より学生支援。
- ・「ミャンマー愛好会」(2020~)クラブ同好会として発足。

以下に、その「ミャンマー愛好会」発足の総会議事録を掲載する。この会で行われた議論等、今後のミャンマー支援 及び国際奉仕活動を考える上で貴重な資料である。

# 「2019-20年度岡崎城南ロータリークラブ ミャンマー愛好会 議事録」

令和2年1月24日 18:30~20:30

- 1. 山本剛司会長、太田政信理事長の挨拶後、鈴木昭弘事務局長から配付資料の説明が行われた。
  - ・次第、会員名簿、預金残高、奨学生一覧、グローバル補助金の5点
- 2. その後、同好会として決定が必要な事項の審議および意見交換が行われた。
  - (1) 同好会の名称

「岡崎城南ロータリークラブ ミャンマー愛好会」と決定された。 メンバーは京幸一、岡崎城南RCメンバー22 名の23名

(2) 同好会の具体的活動

奨学生の卒業生(奨学会活動に協力した方を優先)を日本に招待同好会メンバー、城南メンバーのミャンマーへの訪問・派遣 現地の奨学会からの支援要請への協力 クラブの国際奉仕活動への助言、協力

(3) 現地奨学会からの支援要請について

現地奨学会から1名の奨学生の資金支援の打診

現地は岡崎城南RCの支援の見直しを検討していることは理解されている。

過年度までの残金をもって資金支援の原資とすることを決定した。

- (4) 岡崎城南RCへの卒業生の招聘について(結局コロナ禍で実施されず。編集者注)
  - ① 人選 ピュエ ピュー ティン
  - ② 例会出席ほか

- ③ 時期 3月4日~5日
- ④ 経費 岡崎城南RC の予算
- ⑤ 受け入れ時の対応(送迎ほか)に協力が必要。
- (5) グローバル補助金

岡崎城南RCの事業活動として数年かかる事業となる、地区の委員会へは参加表明をしている。 どのような活動を行ったらよいか意見、提案がいただきたい。

- (6) 以下に上記(1)~(5)の補足事項および意見が出た内容を記載する。
  - ・(1)名称案は他に、

ミャンマー会、ミャンマー同好会、ミャンマーを愛する会、ミャンマー友好会などがあった。

- ・(2)ついては補足はない。
- ・(3) 現地奨学会からの支援要請について

現地奨学会が2人奨学金を出すことになったが後、1名の奨学金を日本側で支援を行うことができないかとの相談があった。現地は岡崎城南RCが今後今までと同じ内容で支援は終了し他のことを計画中なのは理解している。現状、京さんが主体となって募金を7万円集めた状況。あと現在までの岡崎城南RCからの寄付金で、現地に送金できていない金額が41万のこっている。これは本来、寄付され使用されている資金なので、これを持って支援要請に応えることを審議した。

・(4) 岡崎城南RC への卒業生の招聘について

ピュエ ピュー ティンさんの人選理由

日本語ができること、奨学会への貢献があること。

他の奨学生への日本語学習へのモチベーションが期待される点

卒業しており、就職が6月からなので日程調整がしやすい。

期間•内容

3月~4月を予定、桜を見てもらいたいと考えている。

現在、VISA(査証)の申請について京さん、鈴木幹事が調整中

例会に出席していただいて、奨学金がどのように現地の学生の役にたっているか等をスピーチしていた だく。

医療機関等の見学等ができるとよいが現在のところ未定

他、今後奨学生とも相談して行き先等をきめる予定

・(5)グローバル補助金

申請、事業の実施、決算など数年かかる事業となる。

300万円程度出るが、内容は6の重点分野に限られる。

現地でのつながり、受け入れ体制などが必要(現地の奨学会があるため、これはパスできる)

現地のRCとの連携が必要(形のみの手法もある)

内容が決まれは地区の委員会が書類作成のアドバイス等の協力を得られる。

地区の委員会から使用を検討しているRCは手を上げてほしいとのことでしたので、手は上げている状況。

- ・今後の活動で問題になりそうな点
  - ①資金の件

国際奉仕事業として扱いの年は、RCの会計で予算が付くと思われる。

グローバル補助金は、RCの事業で行う必要(別項目)

同好会で資金をあつめると20万~30万円程度は集められる。

(年会費として一人、10000~15000 円とすると)

② VISA(査証)の件

パスポートはとれるが、VISAがとれるかで懸念がある。

親族が出てくるわけでない為。

クラブで一般の方を呼んだことはないので、実施してみないとわからない点もある。

商用VISA、シンポジウム参加VISAが必要となる。

また本人がある程度の資産があるか、日本側で保証人を作る必要がある。

(複数名必要と思われる)

岡崎城南RCが呼ぶことを日本の法務省、外務省に証明する必要がある。

### ・他の意見

- ① きぼうクリニックを大きくすることはできないか?借地権の関係で難しいと思う(京さん)
- ② 現地にRCを作ることはできないか? 他のRCがヤンゴンRCを通してグローバル補助金事業を行っている。 ヤンゴンRCもミャンマーの人より、現地にいる白人系の人が多い状況 地区の委員会の意見では、ヤンゴンRCを形の上で通して グローバル補助金事業を実施すればよいため、必ずしも現地にRCを作る必要はない。

### 3. 出席者 23名中13名出席

京幸一、板倉正直、稲吉稔彦、太田政信、鈴木昭弘、鈴木豊、田中暉登 辻村繁仁、中根常彦、牧野正高、松永茂夫、山本剛司、吉倉広二

以上

議事録作成者 吉倉広二 議事録署名者 中根常彦

## ★クラブ戦略委員会報告(2020/6/23)

2020年6月23日に報告された岡崎城南ロータリークラブ2019-2020クラブ戦略委員会報告のうち、「ミャンマー支援活動への方向性」と題して、ミャンマー及び国際奉仕活動への評価と展望を記したものがあるので、下記にそれを掲載する。

# 「持続可能な奉仕活動を目指して」

## 岡崎城南ロータリークラブ 2019-2020 クラブ戦略委員会報告(抜粋)

### 8. ミャンマー支援事業の方向性

国際奉仕活動としてのミャンマー支援事業は20年間にわたって続いてきたが、クラブとしての組織的な取り組みは25周年記念事業の一環としての5か年計画の最終年度である2017-2018年度をもってひとまず終了した。そこで、今後のミャンマー支援事業のあり方があらためて問題になる。

ミャンマー支援は長い間当クラブの看板事業であったが、京幸一会員が退会し現地とのコミュニケーションが難しくなったこと、物価が高騰し当クラブからの奨学金だけでは奨学生の学費を全てまかなえなくなってきたこと、現地設立団体による教育支援が根付いてきたこと等から、これまでどおりの事業を続ける必要性が小さくなっており、また当クラブの負担も大き過ぎると考えられる。

一方で、事業を完全に打ち切ってミャンマーとの関係を一切絶ってしまうことは、ミャンマーと当クラブの双方にとって大きな損失であるため、無理のない形で関係を維持していくことが望ましいと考える。 定期的にミャンマー訪問団を派遣することは困難なため、むしろ奨学生や OB、O Gを日本に招いて日本の医療現場を視察してもらう等の支援が考えられる。こうすれば、多くの会員に対してミャンマーの若者と接する機会を提供することができ、事業の意義の理解も深まるだろう。

ミャンマー関連事業についての当委員会の基本的な見解は「支援?援助」から「交流・親善」へシフトしてはどうか、ということである。同事業は当クラブの特色の一つとして確立されているので、関係を継続すべきであり、火を消すべきではない。今後は対等な立場でお互いを尊敬し尊重し合い、国際親善の精神に基づいて新たなスタートを切ることを提言したい。現地団体の応援団としての役割を担うのもよい。

ただし、「支援・援助」を否定するものではなく、現地のニーズと我々との負担との折り合いがつけば必要な支援は行っていく。

資金面においては、グローバル補助金等、地区の国際奉仕の枠組みを活用することも検討されてよい。その際には、事業の立案、企画、運営の全段階において会員間の情報共有を徹底し、全員参加で取り組んでいく体制の構築に留意する必要がある。

# 編集者まとめ

ここまで、報告資料をまとめてきましたが、随分と長編になりました。読んでもらえるか心配です。

20年の重みもひしひしと感じています。その重みを伝えるのがこの報告者の役割です。

筆者も、訪問団として6度ミャンマーを訪れ、現地との交流を深めていたつもりですが、今回の報告書で改めて、いや新ためて知る真実・発見も多い。そこにもこの報告書の意義を感じます。

ミャンマー教育支援プロジェクトは、実りも大きいが、難題の多いプロジェクトでした。

そもそも軍政下の国の市民レベルを支援しようと、無謀とも思える活動でした。軍人への賄賂が横行する国を訪れ、軍隊の監視下で催しをし、活動をする。それも民主化が進み、経済が発展し、現地学生が育つことで答えが出てきていました。

それが、今回の軍によるクーデター。深刻であるが、これも少しの後戻り、停滞ととらえましょう。 岡崎 城南ロータリークラブのミャンマーへの視線は衰えることはないはずです。

プロジェクトのプロセスでも、色々な問題点、意見も出てきました。みんなで使うものを寄付するのはわかるが、個人にお金を与えることはどうなのか、とか。一部の人たちで盛り上がっており全員参加ではない、とか。

これらは、「モノ」から「ヒト」への転換、と新しい目的を示すことで答えは出ていったと思います。

ロータリーの支援活動・奉仕活動の実働部隊として、奨学会を設立・運営することでパワフルなものとなり、結果を出して行きました。

問題点というものはマイナスなもののようですが、それを克服することにより成果は深まります。

経済格差が縮まり、援助金の価値が下がってきたことも、問題でしょう。これも、現地の KIBOH 奨学会 ができたことで、解消しているのです。ミャンマーで成功し、経済的にも余裕のできた人たちが、奨学金 として学生を援助しています。これは明らかに「成果」です。

一番根強い壁は、「国際交流が苦手な日本人」ということかもしれません。

会員にとって苦手な活動は、実は「ミャンマー訪問」でした。お役目で訪問することとなったある参加者の正直な言葉です。同意される方も多いのでは。

「行くまではホントに嫌だったが、現地で駆け寄ってくる子供たちの目・笑顔を見て、本当に来てよかったと思った。だけど、また行くかと聞かれたら二度と行きたくない。」

ミャンマー訪問等ロータリー活動で、国際交流に慣れてもらうのがいいのでしょう。それもロータリーの 役割です。

偉そうに書きましたが、本ミャンマー支援を結論付けることは、編集者の仕事ではありません。 ただ、本プロジェクトの事実を伝え、評価・批判は皆さんにゆだねたいと思います。

(文責・岡田吉生)

# 編集後記

岡崎城南ロータリークラブの国際奉仕・社会世界奉仕(WCS)事業・「ミャンマー教育支援プログラム」の総括報告書が、やっと出来上がりました。

20 年に渡る「ミャンマー教育支援プログラム」の最終年度(2017-2018)の翌年度、私はクラブ 国際奉仕委員長でした。この活動の総括としての報告書を作ろうと手を挙げてはいたのですが、 なかなか出来ずにいました。

そして2年が経過した今年度(2020-2021)の青山幸市国際奉仕委員長から、「ミャンマー教育支援プログラムの業績を記録・報告し、将来のWCS活動・国際奉仕活動に資するものとせよ」との依頼が来ました。

ありがたい督促でした。

その編集の最中の2021年2月1日、ミャンマー国軍によるクーデターが勃発しました。

岡崎城南ロータリークラブの 20 年のミャンマー支援は、前半の建築支援、後半の奨学生育成と、「モノからヒトへ」展開し、ミャンマーの経済発展・民主化のエネルギーとなるような人材育成に努めて来ました。

このクーデターの報を聞いて、岡崎城南の継続し培ってきたミャンマー支援が水泡に帰したのかとも思いました。

20年前にこの活動でも体験した軍政下、賄賂の横行の時代に逆戻りかとも思いました。いいえ、そうではありません。

我々が育てた学生は、今日もミャンマーでデモに並んでいます。

ミャンマー民主化の大きな力となっています。

そんな中で間に合ったのか、遅れ過ぎなのかの報告書発行となりました。

私がこの報告書に作成に苦労しているみたいな書き方になってしまいましたが、この報告書の 前半6割は、ミャンマー支援プログラムの最大の功労者近藤正俊元会員の力作によるものです。 彼に感謝し、言い訳がましい編集後記とします。

2021年6月1日

2018-2019 年度国際奉仕委員長 岡田吉生

岡崎城南ロータリークラブ 国際奉仕・世界社会奉仕(WCS)事業 ミャンマー教育支援プログラム

総括報告書

1999-2020

2021年6月1日

発行

岡崎城南ロータリークラブ

